258.2
貴重
101

258. 2-101
1200501346608

成田山事業年報

昭和八年

始

成田山事業年報

昭和八年

目次

成田中學校一覽……自一頁至四六頁
成田高等女學校一覽……自一頁至二六頁
成田幼稚園一覽……自一頁至八頁
成田學園一覽……自一頁至一六頁
成田圖書館一覽……自一頁至一六頁
新更會一覽……自一頁至二〇頁

荒木山主

成田山仁王門

成田中學校一覽

設立の趣旨……一
教育方針綱領……一
本校學生精神……一
本校學生精神に就て告ぐ……三
沿革大略……五
學歴……六
成田中學校々則……七
職員表……一二
生徒表……一三
英漢義塾卒業生人名……一九
卒業生人名及現況表……二〇
卒業生及生徒郡別表……四六
經費……四六

露光量違いの為重複撮影

校歌

東京女子高等師範學校教授
文學博士 柴舟 尾上八郎氏作歌

學習院教官
玉巖 小松耕輔氏作曲

(一)東の海の夜あけて
うねりよる思想の怒濤
大八洲岸をもとよす
さめよさめよ成邱の健兒

(二)靈域は不落のとりで
御(み)すがたは降魔の守(まもり)
葉牡丹の校旗のもとに
つどへつどへ成邱の健兒

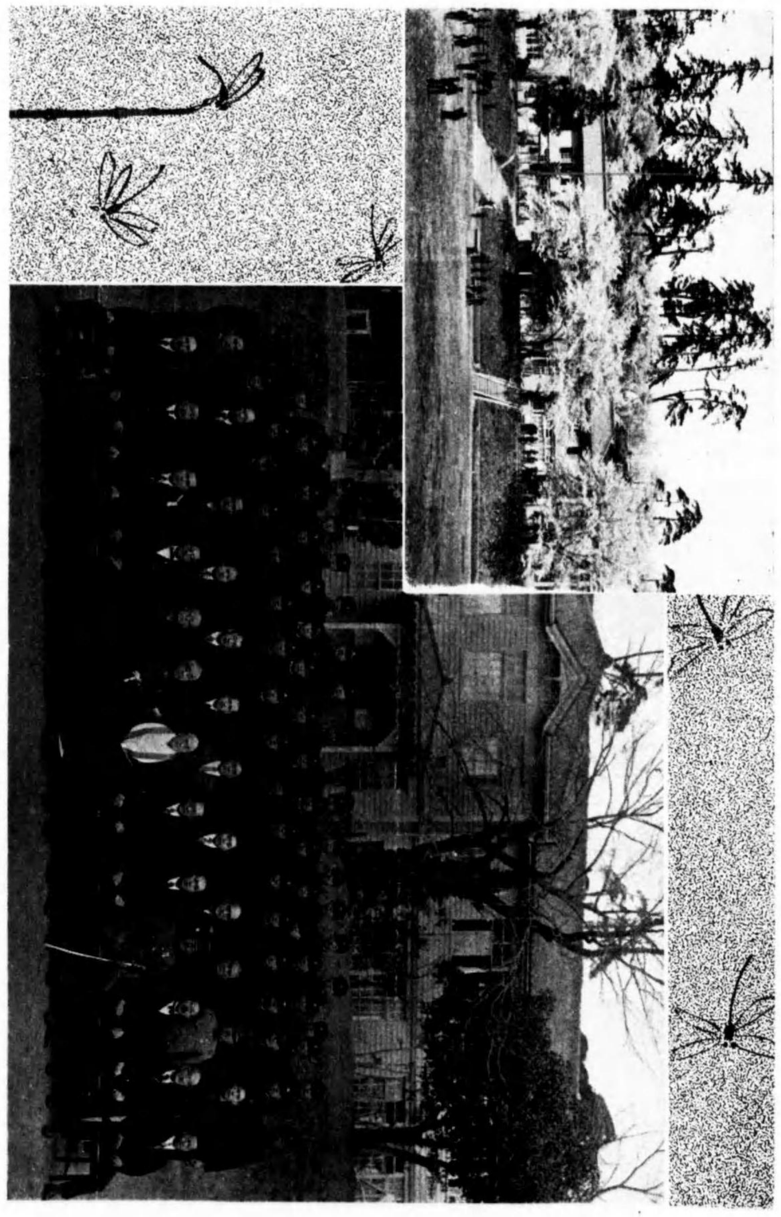
(三)勤勉と克己と慈悲と
忠勇と剛毅と素朴
楯となし劍(つるぎ)となして
立てよ立てよ成邱の健兒

(四)すさまじき主義のたゝかひ
おそろしき智識のいくさ
國のため勝利の冠
とれよとれよ成邱の健兒

(第十八回卒業生寄贈)

備考 (靈域高き時は〈調にて歌ふも可なり
〈メトロノオム 84

成田中學校



生業卒回二十三第及員職教

露光量違いの為重複撮影

校歌

東京女子高等師範學校教授
文學博士 柴舟 尾上八郎氏作歌

學習院教官
玉巖 小松耕輔氏作曲

(一)東の海の夜あけて
うねりよる思想の怒濤
大八洲岸をもとよす
さめよさめよ成邱の健兒

(二)靈域は不落のとりで
御すがたは降魔の守
葉牡丹の校旗のもとに
つどへつどへ成邱の健兒

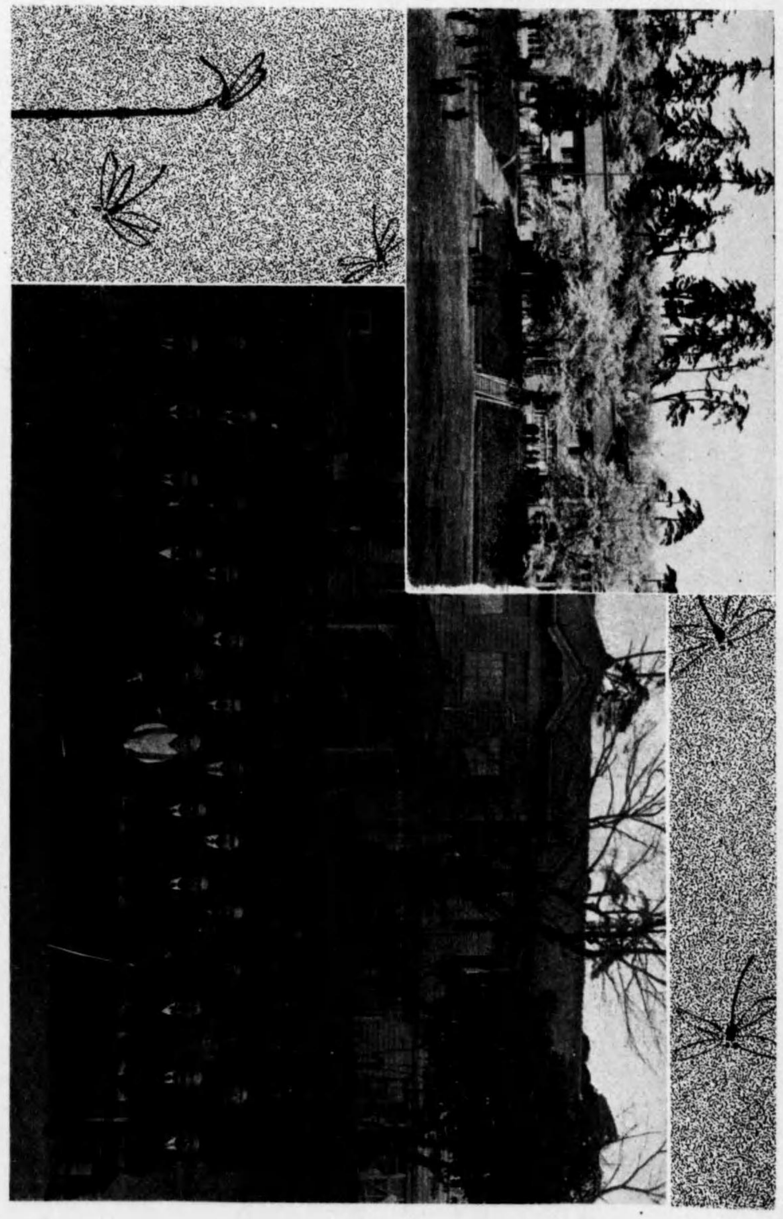
(三)勤勉と克己と慈悲と
忠勇と剛毅と素朴
楯となし劍となして
立てよ立てよ成邱の健兒

(四)すさまじき主義のたゝかひ
おそろしき智識のいくさ
國のため勝利の冠
とれよとれよ成邱の健兒

(第十八回卒業生寄贈)

備考 〔雪城高き時は〈調にて歌ふも可なり〕 ﹁ﾄﾛﾉｵﾑ

成田中學校



258.2-101

私立成田中學校一覽

（昭和八年四月現在）

成田図書館 寄贈本

◎設立の趣旨

本校は國家的文化教育の見地によりその本旨を宗教の羈絆の下に置かず偏に日本民族の精華たる國家有用の材を育成せんが爲めに創立せられたるものなり。

◎教育方針綱領（昭和三年九月諮告）

一切の人間は、其の個性的發展に伴ふ職業的社會參與によりて、社會の構成と發達とに貢獻する所の本質的任務を有す。

本校は、かゝる任務を果すべき基礎として、先づ、紳士たる品性を育成するを以て當面の目的とす。而して紳士教育は、その内容を、皇國固有の民族精神の躍動として現代にまでその精華を發揮せる士道の精神に基きて、特に剛毅と禮節とを重んじ、品性の核心を茲に定むる所の一大校風を樹立せんとするものなり。

惟ふに、勇往果敢に人生の第一義に生きんと熱望する事は、正しき青年の特質にして、青年自身の文化はまたこれによりて純粹道德の建設と維持とをなし得るものなり。

この凜烈にして莊重なる國民的氣魄の下に統一せられざる德操は、吾等國民としての德操に非ず。三千年間の吾等民族の中に流動發展せる人間當行の道としての士道の精神は、かくてその國民道德としての意義を發現し得たるものなり。

本校生徒は、自らを磨くに、常にこの精神を自己の内に顯現せん事を力め、精進怠るなかれ。人格の偉大さの第一義は、實にかゝる精神を發揮せんとして常に自己改善の爲めに邁進する所に存するものにして、單なる世の賞讃非難、若くは人として止むなき過失有無等には存せざるなり。

苟も本校生徒にして、遂にこの見易き事理を解する能はず、反省自ら努むる所なきものは、速に去つて他に適從の處を求むべし。

◎本校學習精神

以上述べたる士道精神は、教育の出發點にしてまた歸結點たり。之を根幹として、近代的叡智の練磨體得と共に、それによりて更に次代の民族文化の伸展に資せんとするは、學習の究竟の目的なれども、分たれたる學科には、また各々その特殊性あり。學ぶ者は各々先づその特殊性を究めんと努力して、單なる技能學科、記憶學科、理解學科等從來用ひられたる淺薄なる評

價の下に、その本質を誤らざらん事を要す。

武道は、その剛毅、禮讓、果敢の體得によりて、一般體育競技並に軍事教練と相俟ちて、吾等祖先が熱血覃めて建設せる國民的德操としての精神的血潮の流れの跡を如實に體認せんと努むべきものなり。

學科は、大凡分ちて人文系統に屬するものと、自然科學系統に屬するものとの二つとなすを得と雖も、總じていへば、何れも其究むる所に於て、人生知の問題として近代的聰明さを增進せんとするものに外ならず。而もその各々の分科は、何れもその唯一無双なる特殊的價値を以て眞理を究めんとするものなれば、學科自體の上より論ずれば輕重の差ある事なし、殊に從來單なる記憶學科として考へられたる弊風あるものは特にその本質を知るを要す。例へば、國史の如きは、皇祖發詳以來吾等の祖先が累代努力創建せる磅礴たる國民的意氣の發現として、民族理想の深奥を明にし、以て皇國の使命を知るで共に、博大の識見と明徹の洞察とを併せ養はんとするものなり。末梢的記憶の學科と心得るが如き謬見は、直ちに取つて以て捨つべきなり。國文の研究に於ても亦然り。苟も價値の充實せる創作には、創作者の意識の潜在と顯在とに論なく、それを通じて、その個性の中に織込まれたる歴史と社會との影響あり。直覺的なる思想を僅か一連の文字に托すと雖も、その中に潜む香高き個性は純一無二なる輝きを有つものなれば、その眞の意味を體認せんとする事を研究の對象と心得べきなり。

外國の歴史、外國の文學、若くは一般藝術に關しても亦同じ更に數學、物理化學、地理、博物等の如き世界知に關する學問にありては、常に宇宙認識の過程をその中に藏するものにして一木一草の末にも一塊の土石の存在にもその神祕は世界哲理の謎として深く吾等の好奇と探究とを促すものなり。

是等世界知の研究も、その極まる所は、更に一轉して人生知に關する一屬深き解釋となつて吾等の前途を指示するものなれば、各學科の最究極に於ては、その目的は歸一するものなりと雖も、そは各科最終の意義にして、學ぶものは先づその特殊的價値を飽くまで究めんとして精進努力する事を要す。

惟ふに、人生は眞理を追及する無限の一大道場なり。疑惑も混迷も懊惱も一途突進につぐ突進を以て之を擊破せざるべからず。眞理の扉は之を開かんとするものによりてのみ開かる。

男子學に志しては、自ら立案し、計畫し、工夫し、努力し、目的を貫徹せねば一歩も退くべからざるなり。

近代的叡智と國民的氣魄との二つは、相俟ちて吾等國民の教養の精華を發揮し得べき二大要素なり。その一つを欠けば、一は頑冥固陋となり、一は輕佻浮華となる。現代國家を眞に双肩に擔つて立たんと志す青年はこの理を十分に辨へて誤るべからず。

本校學生精神に就いて告ぐ

（昭和七年四月諭告）

予は前に、昭和三年九月、本校教育精神と、學習精神とにつきて、全校生徒に布告し、之を生徒心得の中に載せて、諸子の以て、就き赴く可き道を指示せり。

爾來、星霜既に三年有半、諸子の力むる所、必ずしも少しとせず。しかも、予より之を觀れば、内に未だ志操の確立彊しとは言ふべからず、操守また、毅然として自覺の大道に仍つて咬々たる一路、不滅の光明を放つものとは斷ずべからず。

玆に、再び、その精神の所由を說きて、諸子研鑽努力の方向に誤りなからん事を期す。

日本國民の節操は、建國當初より發展せる士道精神にある事前回之を述べたり、この士道精神の首德は、忠にあり、齡の多少を論ぜず、苟も日本民族の精神を有するものは、胸中常に深く之を藏し、時あつて發すれば、金鐵と雖も尙之を粉碎して皇國の守りとならんとするものなる事、諸子は、諸子自らの胸奥を探らば、自ら肯くものあらん。

而して、士道精神に於ける恒常の德の中、特に、重要なるものとして剛毅と禮節とを選びて、諸子の研鑽あらん事を期待せり。

剛毅の精神は、その顯現を、内外二つの意義に從つて、思料する事を得。

その外に現はるゝや、萬難不屈の形象を具し、その目的を立つて進むや、波濤、脚下の砂礫を奪ひて、將に倒れんとするとも、盛返し、又盛返して、最後まで屈するの事なきが如く、練磨、久しうすれば、遂に、如何なる困苦に遭ふも、泰然として崩るゝなし。

人生の希望は、夢幻にもあらざれば僥倖にも非ず、若し、不屈不撓の精神によつて導かれざるならば、そは、青春の一朝の幻影か、一時の低き歡樂のみ。

剛毅の精神内に發動すれば、良心の命令に從つて、内面の自我を規正し、毅然として、善の規範の下に服し、聊も懈怠あるべからず。

行に、陰陽、表裏ある者あるは、痴愚の輩に非んば、かゝる内面的剛毅の欠けたるに由る。

任務を遂行しては決して誤らず、その負責の任を全うするも學を修めては決して怠らざるも、或はまた惡聲嘲罵の聲は論ずるまでもなし、亂舞歡樂の誘惑にも、耳を傾けずして、我が信念を守らんとするも皆この精神の發露による。

青少年の慎んで戒むべきもの二つあり。一つは内心に起る諸欲情にして、一つは逸樂を求むる遊惰心なり。

この時、自ら端然として操守、斷乎自己を崩さざる大精神こ

そ、諸子を、より高き人間に創造し行く、唯一不二の道と知るべきなり。

禮節の道は、禮儀、辭讓の精神によつて、表現せらる、之を以て、禮讓といふも可なり。

禮の最大精神は、人格の畏敬にあり、人格は人生に於ける最高の價値なり、禮は、この自他、人格の尊嚴に對する畏敬なり

人格とは、自覺による反省の無限の統一力を謂ふ。

洋々として、限りなき海にも比すべき我が心に、省みて過ちあれば、決然として再びせざらん事を誓ひ、正しくんば、益々その向上を思ふ奮發勉勵、常に前を望んで一歩をも忽にせざる精神の大小高下は即ち人格の大小高下を決定す。

人格は自敬の精神に出發して自敬に終る、自己の人格に對する畏敬なきものは、また、他の人格に對する畏敬をも理解する能はず。

自敬の本質は、我がまことをたづぬるなり。

故に禮は、我が內面に存する、まことの客觀的にして且つ必然の表現なり。

禮に非んば視ず、禮に非んば聽かず、禮に非んば動かざるは、聰明叡智と、情操の高潔俊邁とを具ふるものに非んば、知ることも行ひ得ざるなり。

禮は、かく人間性の高き根本的要素の上に立脚するが故に、內心を整へ、內心を淸らかにすべきなり。

辭讓は、外には、先輩を敬する道にして、內には己れを緊しむるの道なり。先輩と後輩とを論ぜず、他人の言は常に傾聽するの雅量なかるべからず、如何なる言と雖もこの言、眞摯ならば味ふ可き眞理必ず內に含まれん。

我はまた、正しき理由と必要とを、有せざる限り、妄りに輕卒なる言動に及びて、徒らなる自己表現の愚に陷る勿れ。內に藏するもの少なきものは、由來口舌の輩となる事多し、

以上、述べたる剛毅も禮節も、人間精神の深奧より出づるものなれば、若し、之が自覺の精神より出づるに非ざればそは醜を蔽ふ表面の假裝に過ぎず。青年には、青年特有の文化精神あり青年文化の本源は常に純粹道德より出づ。

純粹道德の本源は、利によつて動かず、道によつて動くの精神にあり、かくて、自我の審判は自我にあり。

本校生徒たるものは、行動苟も、利によつて動くべからず、道によるべし、己れを利する事も、他人を利する事も、道にかなへばよし、かなはざれば惡なり。

而して、その最後の審判は常に諸子の胸に聽け。

（本校自治會規約昭和三年九月創定セラレタルモ五年十月一旦之ヲ停止ス）

◎沿革大略

私立成田中學校は、明治三十一年十月七日文部大臣の認可を得て、舊成田英漢義塾を改稱せるものにして、圖書館、高等女學校、幼稚園、學園及び新更會と共に成田山新勝寺の施設せる社會文化事業の一に屬す。

(一)英漢義塾時代

明治二十一年八月新勝寺住職正七位大僧正三池照鳳師が、地方中等教育機關の缺乏を歎じ、石川甚兵衞（先代）諸岡勝太郎（先代）の兩氏と謀りて設立せる、中學程度の學塾にして修業年限を三ヶ年とし、高等小學校卒業以上及び夫れと同等以上の學力ある者を收容することゝせり。全く三池大僧正の篤志に出でしものなり、宮村三多氏最初の塾長に任命せられ、二十三年第一回の卒業生を出せり。斯くて年々卒業生を送りて第九回に及び、其間別に選料履修生を卒業せしむること貳回あり。三十一年七月新勝寺院代少僧正服部照和師は當時在歐中なりし塾主前貫首石川大僧正の命を受けて、中學校認可を文部大臣に稟請す。乃ち千葉縣知事阿部浩氏の實地視察となり、遂に其年十月七日成田中學校と改稱の件認可せらる。英漢義塾として存立せしこと實に十年五ヶ月。此間塾長の交迭は宮村三多以下濱田義雄、福田龜太郎、和田玉一の四氏に及べり。當時塾舍は成田字東谷なる現圖書館の位置にありき。

(二)現中學校時代

明治三十一年十月成田中學校と改稱の件認可せらるゝや、直ちに現校舍の新築工事を起し、三十三年六月竣功す。是より先き同年三月には徵兵猶豫の特典を附與せられ、又校主前貫首石川大僧正の歸朝せらるゝあり。遂に六月二十七日を卜して落成式を擧行す。文部大臣樺山資紀氏以下、朝野の名士多數の參列あり。斯くて三十一年創立以來本年三月に至るまで、三十二回卒業生を送り、其數千〇八十七名に及べり此間文部次官奧田義人商工局長木內重四郎、板垣退助伯、文部省書通學務局長田所美治、文部省參政官大津淳一郎、陸軍大將福島安正、文科大學長上田萬年、千葉縣知事石原健三、同折原己一郎等の諸名士或は卒業式に、或は實況視察に臨校せられ、本山社會文化の努力に深甚の敬意を寄せらる。明治二十一年英漢義塾創立以來年を閱することゝ實に四十六年其中學と改稱せしより三十六ヶ年に及べり。

昭和七年創立第三十五周年記念式を擧行

故三池、石川、服部三僧正、故石川正英翁、諸岡勝太郎氏、墓前報告を行ひ三橋理事に感謝狀を贈る。

本校制度として理事を置きて之を管理す、三橋金太郎氏本校創立以來より、理事として勤務し昭和三年四月石川甚兵衞氏本

校專務理事として今日に及び校舍の擴張教育の振興に努力す。
校長及び校務主監の去就に左の如き記錄を有す。

喜田　貞吉　明治三十一年十一月學校長就任
竹内　楠三　明治三十二年八月喜田氏に代はる
校主石川　照勤　明治三十四年七月竹内氏辭任に付學校長兼任
（此時より校主自ら校長を兼ぬ）
粟根　鐵藏　明治三十五年七月校長事務代理を命ぜらる
白鳥　庫吉　明治四十一年九月本校顧問を囑託す
葛原運次郎　明治四十一年九月粟根氏に代り校務主監として就任
（校主は中學校長女學校長を兼ね各校には主監を置きて校務を統督す）
佐竹　元二　大正二年七月葛原氏に代りて主監に任ぜらる
佐藤　禮云　大正五年三月佐竹氏に代りて主監に任ぜらる
濱田丑之助　大正八年七月佐藤氏に代りて主監に任ぜらる
名川　彦作　大正九年九月濱田氏に代りて主監に任ぜらる
笹川　種郎　大正十三年一月學校長に任ぜらる
（再び學校長を獨立に任命して校務を統督す）
小林　力彌　大正十四年三月學校長に任ぜらる
増田　榮　昭和三年五月小林氏に代りて校長に任ぜられ現在に到る

◎學　暦

四　月

八　日　始業式、入學式、不動尊參拜、
二十九日　天長節祝賀式

五　月

自一日至二日　身体檢査、口腔檢査
五　日　端午祭
六　日　剛健旅行
十　日　五年生父兄會
十三日　三年生父兄會
十七日　四年生父兄會
二十日　二年生父兄會
二十七日　海軍記念日學藝大會、体育部大會

六　月

三　日　故三池照鳳師命日墓參
三十日　學期末考査終了

七　月

五　日　一年生父兄會
二十日　終業式成績發表
自二十一日至三十日　水泳教練
武道寒稽古

八　月

一　日　縣下武道大會

九　月

一　日　始業式、不動尊參拜、縣下陸上競技大會
九　日　學術趣味講演會

十　月

七　日　三十六回創立記念日、音樂會
三十日　勅語御下賜記念日、野外演習

十一月

自一日至七日　体育週間
三　日　明治節祝賀式、剛健旅行、校友會各部大會
三十日　學期末考査終了

十二月

二十三日　終業式、成績發表　實彈射擊

一　月

一　日　新年拜賀式
八　日　始業式、不動尊參拜、校主へ年賀
自九日至十八日　武道寒稽古
十九日　武道大會
三十一日　故石川照勤師命日墓參、書初展覽會

二　月

十一日　紀元節祝賀式
二十二日　第五學年考査終了

三　月

一　日　第五學年成績發表
三　日　卒業式
六　日　地久節、講話
十　日　陸軍記念日
十三日　第四學年以下學期末考査終了
二十四日　第四學年以下成績發表、終業式

成田中學校校則

第一章　總　則

第一條　本校生徒定員は四百五十名とす
第二條　本校の修業年限を五箇年とし一年を以て一學年とす
但學年は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る

學科課程每週教授時數表

學年／科目	第一學年 時數	第二學年 時數	第三學年 時數	第四學年 第一種 時數	第四學年 第二種 時數	第五學年 第一種 時數	第五學年 第二種 時數
修身	一 勅語詔書 個人生活 社會生活作法	一 社會生活 國家生活 作法	一 國際生活 作法	一 道德原理 社會生活原理 國民道德作法	一 同 上	一 同 上	一 同 上
公民科					二 家鄉土府縣	二 國家	二 同 上
國語漢文	七 國語講讀 作文文法 習字	六 國語講讀 漢文講讀 作文習字	六 國語講讀 漢文講讀	六 同 上	六 同 上	六 同 上	六 同 上
歷史	三 國史	三 外國史	三 外國史	三 外國史國史	三 同 上	三 國史 自然地理概說 人文地理概說	三 同 上
地理		同 上	三 外國地理 日本地理				
外國語（英語）	五 聽方讀方解釋 話方作文 書取習字	五 同 上	六 聽方讀方解釋 話方作文 書取文法	三 同 上	三 同 上	三 同 上	三 同 上
數學	三 綜合數學	三 同 上	五 同 上	三 同 上	五 同 上	三 同 上	六 同 上
理科	二 一般理科	三 博物物理化學	三 同 上	四 同 上	四 同 上	四 應用理科	四 同 上
實業				五 工業意義發達 種類材料 作製作業	五 動力機械 各種製造工業 建築		
圖畫	一 自在畫	一 同 上	一 自在畫 用器畫	一 同 上	一 自在畫 用器畫		
音樂	一 歌典樂典	一 同 上	一 同 上	一 同 上		一 歌典樂典	
作業科	二 園藝及工作	二 同 上	一 同 上	一 同 上	一 同 上	一 同 上	一 同 上
體操	五 體操教練 遊戯武道	五 同 上	五 同 上	五 同 上	五 同 上	五 同 上	五 同 上
計	三〇	三〇	三一	三五	三二	三五	三四

第三條　一學年を分ちて三學期とす左の如し

第一學期　四月一日より八月三十一日に至る

第二學期　九月一日より十二月三十一日に至る

第三學期　一月一日より三月三十一日に至る

第四條　休業日左の如し

各日曜日、開校記念日（毎年十月七日）大祭日、祝日、夏期休業（七月二十一日より八月三十一日に至る）冬期休業（十二月二十五日より一月七日に至る）春季休業（三月二十五日より四月七日に至る）

第二章　學科課程及授業時間

第一條　各學科の配當並に毎週の時間數は左表に依る（前頁）

第三章　課程の選修

第一條　生徒は第四學年以後に於ては第一種課程若しくは第二種課程の何れかを選修するものとす

第二條　課程の選撰は第三學年の終りに保證人連署の上願ひ出で學校長の許可を受くべし

第四章　考　査

第一條　各學年の課程の終了又は全學年の卒業は平素の學業成績並に操行を考査して之を定む

第五章　入學退學休學及賞罰

第一條　生徒の入學は毎學年の始とす但缺員あるときは第二學期の始めに於て募集することあるべし

第二條　本校第一學年に入學を許可すべきものは尋常小學校第六學年卒業のもの及び入學資格檢定に合格せるものにつき入學考査を執行し選衡す

第三條　入學資格檢定は尋常小學校卒業程度に依り全學科に就いて之を行ふ

第四條　第二學年以上に入學を許可すべきものは相當年齢に達し其學年に相當する學力檢定に合格したるものに限る

第五條　他の中學校より轉校せんと欲する者ある時は缺員ある場合に限り入學を許可することあるべし但全學科に就きて檢定を行ふ

第六條　本校に入學せんと欲するものは體格檢査に合格するを要す

第七條　入學を希望する者は本校所定の用紙に必要事項を記入の上願ひ出づべし

第八條　入學の許可を得たるものは一週間以内に左式の在學證書並に戸籍謄本を差出すべし

第九條　保證人は二名を要し其の一名は親權者後見人親族とし他の一名は成田町在住の一家計を立つる男子とす

在學證書（用紙半紙二つ折）

印……保證人ノ印

三錢收印紙

私儀今般入學御許可相成候に付ては在學中御規則命令等堅く遵奉可仕候也

住所
誰子弟　族籍　姓　名印
生年月日

前記之通相違無之候に付拙者保證人に相立ち御規則命令等堅く相守らせ本人に關する事件一切引受可申候也

住所
族籍職業
右保證人（父母）　姓　名印
住所千葉縣印旛郡成田町大字　番地
族籍職業
右保證人　姓　名印

年月日
成田中學校長　何　某　殿

右保證人（成田町在住）は丁年以上の男子にして本町内に於て一家計を立つる者に相違無之候也

年月日　千葉縣印旛郡成田町長　何　某印

第十條　保證人の資格上不適當と認むるときは之れを變更せしむることあるべし

第十一條　左の場合に於ては退學を命ず

(一)性行不良にして改善の見込なしと認めたる者
(二)學力劣等にして成業の見込なしと認めたる者
(三)引續き一箇年以上缺席したる者
(四)正當の事由なくして引續き一ヶ月以上缺席したる者
(五)授業料怠納二ヶ月以上に亘るもの
(六)疾病事故に因り學業を履修する能はざるものと認むるもの
(七)出席常ならざるもの

第十二條　中途退學せんと欲するものは保證人連署を以て其理由を具し願出づべし

第十三條　生徒兵役に服する場合は休學を許可す

第十四條　品行方正學術優等の者には賞品賞狀を授與す但特に優秀なるものにありては一學年間の授業料を免除することあるべし

第十五條　規則命令に違反し又は校紀を紊るものは戒飭謹慎停學放校の罰に處す

第十六條　學校の建物器具器械標本を毀損又は亡失したるときは相當の賠償をなさしむることあるべし

第六章　授業料及入學料

第一條　授業料は一ヶ月金參圓五拾錢とす

第二條　生徒在學中は出席の有無に拘はらず毎月五日迄に納むべし但毎年八月は納むるを要せず

第三條　授業料納附期日を過ぎ五日以内に尚ほ納めざるものは納入濟まで停學を命じ保證人をして之れを納めしむ

第四條　入學志願者は入學考査料金壹圓を納め入學の許可を得たるときは更に入學金壹圓を納むべし

第五條　左の各項に該當するものは授業料を減免す

(一)學力優等品行方正にして他生の模範たるべきもの
(二)戰時若しくは事變に際し召集せられたる者の子弟
(三)貧困にして資力なく學力品行共に佳良なるもの

但第三項の場合に於ては父兄又は後見人より特に願書を差出さしめ又本人に對しては相當の義務を負はしむ

第六條　休學を許可したる場合は授業料を徴集せず

第七章　服　制

第一條　生徒登校の時は必ず制服制帽を用ふべし

第二條　制帽の地質は黑羅紗にして本校の徽章を附すべし

第三條　制服の地質は紺色又は黑色の小倉織にして詰襟ホック止めとす

但し夏服は霜降の小倉織とす

第四條　靴は黑色編上げを用ふべし

第五條　外套は指定の型により黑羅紗金ボタン付とす

但し、一、二、學年生徒は調製せざることを得

第六條　制服を汚損したるもの若しくは身體上の故障により着用不能なるものは許可を得て代用服を着用することを得

第七條　代用服は筒袖にして袴を着用すべし

第八條　新入學生に限り指定の期間中代用服を許可す

第八章　附　則

本校則は昭和六年四月一日より之を施行す

本校則施行に關する細則生徒取締に關する規程及び其他必要なる内規は學校長之を定む

◎職員

受持學科	職名	氏名	族籍	就職年月
	校主兼名譽校長	荒木照定	千葉縣	大正拾三年二月
修身	校長兼教諭	增田榮	靜岡縣	昭和三年五月
英語	教務主任	西原鹿之助	靜岡縣	昭和四年四月
數學	教諭	相田喜之助	埼玉縣	昭和三年九月
博物一般理科	教諭	久住雅治	靜岡縣	昭和七年二月
物理化學	教諭	瀧澤榮亮	千葉縣	大正拾二年二月
國語漢文	教諭	片山辰雄	長崎縣	昭和四年四月
地理公民	教諭	寺內保	千葉縣	大正拾四年四月
英語	教諭	富山榮彥	鹿兒島縣	昭和八年四月
英語	教諭	下村健一	高知縣	昭和八年四月
國語	教諭	三門大	千葉縣	大正拾五年四月
歷史	教諭	廣岡城泉	京都府	昭和四年九月
英語	教諭	淺尾早苗	千葉縣	昭和五年四月
體操	教諭	下平翹雄	群馬縣	昭和七年九月
數學	教諭	伊藤優	兵庫縣	昭和六年四月
數學	教諭	藤田貞之助	大阪府	昭和五年四月
數學	教諭	久保啓治	大阪府	昭和八年四月
國語漢文	教諭	德山一郎	滋賀縣	昭和八年四月
圖畫作業	教諭	土屋一勇	靜岡縣	昭和八年四月
劍道教練	教諭心得	細矢末吉	千葉縣	昭和三年四月
劍道習字	教授囑託	邊田金治郎	千葉縣	昭和五年四月
漢文	教授囑託	大石雅次郎	福岡縣	昭和三年九月
音樂	教授囑託	岩本政藏	栃木縣	昭和六年四月
柔道	教諭兼書記	榎田正己	千葉縣	大正七年一月
	書記	南井榮助	千葉縣	明治三十四年十月
教練	配屬將校步兵大尉	一駒達彥	山口縣	昭和六年十一月
	校醫內科	高川直三郎	千葉縣	明治三十三年十月
	校醫齒科	萩原村次	千葉縣	昭和五年五月
作業	助手	實川賢雄	千葉縣	昭和六年六月
理化	助手	小川貞雄	千葉縣	昭和四年一月

◎生徒表

（昭和八年四月現在）

第五學年A組（貳拾四名）　主任　廣岡城泉

（△印正副級長）（級長以下身長順）

△谷ヶ崎龍二	印旛成田	荻原英男	同
根本正夫	同	藤崎三郎	同
加藤芳八生	公津	橋本謙受	豐住
寺島誠一	東葛飾柏	宮本高雄	遠山
澤田榮稔	印旛中郷	山田圭宥	同
安達三郎	同	丸田修三	同
	遠山		公津
石橋八郎	同	山田義一郎	同
伊豆藏增則	東京戸塚	澤田吉藏	印旛中郷
糸賀二郎	稻敷金江津	櫻井定一	香取佐原

淺井武男印旛成田　村島守正同公津
宍倉精一印旛久佳　矢野豐三郎東京京橋

△五木田紀一郎茨城水海道
△新橋隆雄印旛成田

第五學年B組（貳拾六名）

主任　德山一郎

△小林市郎印旛遠山　小林重一郎印旛本埜　香取茂同久佳
海保活郎同久佳　行方正己山武二川　出山良印旛公津
野島武夫同豐佳　竹本信夫印旛安食　小高辰男同富里
小關義信同富里　成毛鐵二同安食　野平靖香取八都
湯淺欣一同安食　加藤晴己同中郷　山田武雄印旛富里
横尾優同富里　久保庭俊雄同成田　岩澤七郎山武千代田
石井俊次同豐佳　萩原友三郎香取多古　萩原操同千代田
藤崎春男同安食　河合成訓印旛成田　矢萩正司印旛安食
平山辰夫山武千代田　藤崎義男同遠山

第四學年A組（貳拾八名）

主任　下村大

△平野照識君津青堀　根本改治同八生　齋藤房久同遠山
出山七衛印旛豐佳　貝原塚十同八生　渡邊博同成田
石井顯同豐佳　鈴木教養同遠山　山田忠由同八生
菅澤忠一同遠山　小倉一三同成田　竹村清同富里
稲葉精吾同公津　野平令夫同豐佳　山口薫香取多古
南井方同成田　牧野圭伺同成田　木川克己同滑河
渡邊功同成田　岩舘重雄同中郷　川村明印旛成田
山本信治同安食　郡司洋同遠山　大見川寛同中郷

吉岡正己同成田　古手進印旛六合
鶴見照碩埼玉縣大宮　△齋藤八郎同遠山

第四學年B組（貳拾四名）

主任　片山辰雄

△渡邊通雄印旛成田　加藤巌同中郷　川崎吉哉同安食
川崎浩同公津　山口章同八生　石原三夫同富里
古矢元佑同成田　淺井禮三同成田　石井健二同豐佳
遠藤武同八生　櫻井卓同成田　渡邊朝吉同成田
藤倉高三同成田　成毛半平同豐佳　加藤孫策同八生
後藤忠雄同布鎌　生駒重雄山武二川　高川幸夫安房北三原
武田智信同公津　渡邊浩印旛成田　城光寺照龍鳥取縣賀茂
田代惠一同成田　柏木博同遠山　△大野正德印旛安食

第三學年A組（三拾貳名）

主任　西原鹿之助　副主任　藤田貞之助

△小野寺信夫印旛富里　鬼澤保行同成田　谷武雄印旛公津
小倉善之丞同久佳　鈴木守一同成田　加藤興同成田
相京一郎同公津　信田博同成田　鈴木鼎同成田
加藤貞同中郷　小泉量夫同成田　岡村武夫同成田
野平正己同豐佳　小泉好雄同久佳　吉岡榮一郎同中郷
川村勇同遠山　石橋裕同公津　關口政好山武千代田
石川清春同成田　高塚源次同布鎌　大須賀三郎印旛安食
小川紀一同豐佳　山田一萬同公津　角谷實夫三重縣川俣
石原巍一同成田　渡邊吉三同成田　柏熊壽印旛遠山

大木茂印旛成田香取四郎同久住
飯塚嘉一同本埜高柳正平同豊住

△浅井勇夫同成田

第三學年B組（三拾二名）主任西原鹿之助　副主任藤田貞之助

△加藤邦一印旛中郷宮田悦二同成田芝野勧一郎同安食
湯浅浩瑋同八生齋藤健次同遠山黒川順三同成田
小出憲同成田潮田恭二同十葉睦佐久間秀夫同豊住
齋藤末吉同公津大谷正一同成田金子義正同中郷
高橋洋司同公津寺内隆治印旛中郷林信男同八生
西内光一同成田辻照山東京小石川湯浅正吉同八生
野口次郎同豊住山本勳印旛安食小林嘉男同遠山
浅倉龍己同布鎌相川隆同富里稲垣公亮同成田
土肥晃同公津寺本馬之助同成田沖田正同八生
大堀喜三郎同成田青柳謙一同成田△渡邊哲利同成田
篠田忠義同成田小川勇同成田

△新橋康雄印旛成田長谷川功印旛成田宮本一郎同遠山
大木甚兵衛同公津鈴木義一同公津芦田定雄同成田
河崎徹同安食藤崎義治同遠山一鍬田英一同中郷
士井克己同公津齋藤和行山武千代田齋藤直枝同遠山
湯浅臨作同八生山田有利印旛富里飯田勝光香取東大戸
荒野卓雄同六合渡邊藍同成田伊藤章造印旛久住

第貳學年A組（參拾參名）主任西原鹿之助　副主任三門健一

根本利一同久住酒井孝育同成田後藤久夫同八生
五木田篤三郎茨城水海道諸岡淳同成田山田文夫同八生
武士田文雄印旛成田長谷川篤助同成田寺内繁男同成田
諸岡愛介同成田足立弘東京金町△野々宮浅井宏同成田
小川長榮同公津横尾春治印旛富里勇同成田

第二學年B組（參拾參名）主任西原鹿之助　副主任三門健一

△加藤馨印旛成田森一郎武田實同八生岩澤茂山武千代田
櫻井健香取小御門設樂仁一郎印旛久住竹村啓一同富里
日暮潔印旛本埜藤崎定夫同富里川島義雄同安食
三橋齋助同中郷山本嘉一郎同安食宮崎廣二同成田
大木忠一同成田吉原俊一稲敷源生田織田英同成田
鈴木悌三同成田大宮吉一郎香取滋夫同遠山芹山嘉兵衛同遠山
岩舘治郎同成田岩舘治郎同富里一色輝赳千葉寒川
石川武夫同成田吉岡一郎同富里池田清同成田
川村茂同成田石川義治同成田諸岡謙一印旛成田
湯浅良雄同八生長谷川武司同遠山△藤崎榮郎同遠山
岩澤泰雄山武二川中島輝郎同成田

△神崎功有印旛遠山中野一郎同遠山大木昌一同成田
長瀧耕一香取本大須賀大木公平同公津勝田吉郎同安食
山本太一印旛安食鈴木正同八生野口左武郎同豊住

岩瀬純同成田　佐久間亘山武千代田
山本望同安食　藤崎貞治印旛富里
鮭田光城印旛豊住　寺内弘同成田
湯淺茂雄同八生　諏訪貫之山武千代田
土肥憲一同公津　根本貫治印旛八生
關口壽男同成田　日暮久彌同成田
藤崎悅三郎同遠山　弘海信也同安食
沼崎清一同成田　大塚武雄同富里
植木健次同成田　青柳武同成田

△宮永敏一山武横芝　竹本武男同公津
宮田憲一印旛成田　藤崎正一同遠山
日暮正雄同安食　山田二郎同安食
小泉善一同久住　谷忠助同公津
長澤文雄同富里　後藤敏雄同成田
椎名清介同成田　京須廣吐同成田
小川亨同八生　高橋一勇同成田
大木晃同八生　小倉八郎同成田
栗原廣德同遠山　吉田清公津
大木正男同成田　海保一久住同
川村國夫同成田　山田清之助同安食
多田敬正同公津　瀧澤宵次同成田

第壹學年B組（參拾五名）主任下平趨雄　副主任西原鹿之助

桑原庄一同安食　岩澤秀亮同遠山
本橋誠同公津　平澤信行同成田
川邊敏同成田　小出博同成田
鈴木輝一同成田　森定雄同成田
辻正男同遠山　森川保同成田
坂熙同遠山　大木俊一同遠山
小泉泰祐同成田　齋藤安世同遠山
大辻清宮豐同遠山　△小田恒次郎同成田
金井誠一同成田　△田谷藤二同成田

◎成田英漢義塾卒業生人名（×死亡）

第一回卒業生（明治廿三年三月）

法學士　北田彦三郎
三橋金太郎
高安元三郎

第二回卒業生（明治廿五年三月）

×山田兵治
吉川松太郎

第三回卒業生（明治廿六年三月）

法學士　石井佐治馬
宋倉高次郎
山田市太郎
石川英之助
岡本幸造

第四回卒業生（明治廿七年三月）

山田要之助

歩兵大佐　林政次郎
大野市太郎
湯淺眞二郎
藤崎仁三郎

第五回卒業生（明治廿八年三月）

伊藤幸次郎
林田恒藏
篠崎幸吉
惠口忠治

第六回卒業生（明治廿九年三月）

山崎傳七
根本太一
高梨盛太郎
×石川昌三
太田家續
山本喜助
多田寧
×藤崎欽哉
森寛一
篠原友之助
×林田政吉

第七回卒業生（明治卅年三月）

赤谷由助
木内民雄
米津重次郎

湯淺暉　長谷川雖
石渡恒　小野寺弘
林田恒三郎

第八回卒業生（明治卅一年三月）

×郡司喜太郎　選科履修生（明治卅一年三月）
並木弘　原久藏
（山本改）河津金四郎　山口要太郎
國本保　戸村喜助
×山野制　香取友吉
×堀井富五郎

第九回卒業生（明治卅二年三月）

石井喜一　唯謹咄

◎中學校卒業生人名及現況表

（×死亡）（　）内は卒業學校名

第一回卒業生（六名）（明治卅五年三月）

佐原中學校長（帝大）
朝鮮總督府遞信局工務課長（帝大）
弘前中學校教諭（早大）
日本石油會社東京本社（早大）

第二回卒業生（八名）（明治卅六年三月）

日本興業會社社員（早大）
日本大學理事兼商工學校長（日大）（藤崎改）
山口縣技師（水産講習所）
東京時事新聞社社員
渡米實業
大成火災保險株式會社員（早大）

小野寺精一郎　印旛成田
飯倉文甫　同　成田
×三橋信吉　同　成田
×竹尾丑之助　同　八生
秋山篤英　同　富里
黑田政吉　同　成田

×京須幸　印旛成田
神崎義倶　同　遠山
加納金助　同　遠山
高橋照文　山武南郷
小川克己　印旛八生
吉岡猛　同酒々井
加藤芳之助　香取大須賀
黑川信　印旛成田

第三回卒業生（十八名）（明治卅七年三月）

實業
海軍中佐大學校教官
官吏（慶大）
實業
實業
實業
實業
大阪商船紅丸機關士
（慶大）
東海銀行本所支店長
日章火災海上再保險株式會社員
渡米實業
實業
實業

×渡邊政助　印旛成田
小川源一郎　同　公津
×額賀清右衛門　鹿島白鳥
飯倉貞造　印旛成田
寺内一夫　同　成田
後藤七郎　同　八生
×瀧澤德次郎　同　成田
遠藤興惣平　同　公津
×木内茂助　同　成田
小川利太郎　同　公津
×藤倉精助　同　成田
佐々木收治　千葉（明治卅九年）
高中重衛　埼玉（北足立）
加藤右二　印旛中郷
神崎庄助　同　成田
那須文治　香取飯田
（田中改）×山本順　印旛成田
多田享　同　公津

第四回卒業生（廿貳名）（明治卅八年三月）

芝浦製作所技師（東京高工）
大日本農會（帝大）

（加藤改）伊藤昇　君津（八重原）
萩原義重　山武（千代田）

日本レイヨン株式會社（帝大）
醫師（千葉醫專）
金澤醫科大學教授
實業
國東中學教諭（早大）
實業
醫師（千葉醫專）
三里塚郵便局長
千葉縣々會議員
實業
兵庫縣兵庫製繩株式會社員
實業
實業（早大）
實業
實業
實業
實業（在朝鮮）

第五回卒業生（廿二名）（明治卅九年三月）

實業

宮野源一郎　同千代田
（椎名改）野村竹男　茨城（北相馬）
醫學博士泉仙助　香取滑川
×秋山三省　印旛中郷
（伊藤改）吉岡保　同　富里
大木榮次郎　同　中郷
×坪井節爾　千葉千葉
秋葉有一郎　山武（千代田）
小幡久　石川金澤
（鈴木改）安藤胤治　山武（千代田）
鈴木亮　印旛公津
×辻英吉　東京荏原
高中喜代松　印旛遠山
湯淺儀三郎　同　八生
藤崎倭一　同　富里
藤崎庄平　同　遠山
小川明　同　中郷
黑川傳　同　成田
×石原泰次郎　同　成田
松本保　大分宇佐
×小倉榮二郎　印旛成田
長谷川治吉　同　成田

公　吏　（藤川改）土肥多助　同　富里
（東京高商）　三橋英治　同　成田
×土屋圓　山武瑞穂
醫　師（慈惠醫大）　（紫藏改）佐藤重俊　安房由基
日本生命保險會社々醫（京都醫專）　山野衿三　印旛成田
×澤田信三　同　久住
（京都高工）　小野寺英二郎　同　成田
北海道藤田組加比宇牧場技師（東京農大）　仁科一　靜岡靜岡
鐵道省新宿驛員（日大）　（小川改）鈴木七郎　印旛八生
×山野隆治　同　成田
實　業　萩原長三　山武千代田
實　業　丸良輔　印旛公津
南滿鐵道本社　石原清泉　同　成田
實　業　作田紋平　山武鳴濱
東京瓦斯會社芝營業所（慶大）　淺井信之　印旛成田
×石橋堯之助　同　成田
第三銀行本店員　（加藤改）松本賴三　東京京橋
實　業　古矢誠助　印旛成田
東京國府商店勤務　宮田七右衛門　同　八生
實　業　清宮俊平　同　八生

第六回卒業生（廿二名）（明治四十年三月）

香川縣木田農業校長（帝大）　大塚靜　印旛成田
新潟縣內務部長（帝大）　石川芳太郎　同　安食
×石井金次郎　同　安食
小御門農學校教諭　（伊藤改）櫻井重助　同　遠山
滿洲里駐在副領事　泉顯藏　茨城行方
富里小學校訓導　黑川孝　印旛成田
小學校訓導　石橋昇　同　豐住
久住小學校校長　石井孝司　同　豐住
實　業　（石井改）篠田憲次郎　同　八生
實　業　（小倉改）葛生孝作　同　八生
×川島芳夫　市原濕津
×藤崎源一郎　印旛遠山
實　業　加藤光太郎　同　成田
下關不動銀行（慶大）　吉田新　同　成田
公津小學校訓導　（廣瀨改）勝田海治　同　木下
中郷小學校訓導　（小川改）大木義德　山武千代田
實　業　（成毛改）鈴木啓次郎　印旛安食
實　業　丸善助　同　公津
小學校訓導　（山口改）鈴木忠治　同　遠山
千葉縣農業技手　橋爪石民　茨城稻敷
實　業　長谷川利吉　印旛成田
官　吏　藤崎勇三郎　同　遠山

第七回卒業生（廿二名）（明治四十一年三月）

實　業　（長谷川改）×五木田康吉　印旛成田
富里小學校長　×石井延太郎　同　遠山
三橋治平　同　富里
竹村克之　同　富里
實　業（早大）　×飯島貞雄　東京芝
土井彌一　印旛公津
實　業　藤崎梨　同　遠山
實　業　×稻生恭平　同　木下
東京鐵道郵便局員　三浦照芳　同　佐倉
實　業　丸武夫　同　公津
水產講習所技師　藤田正己　同　八生
×三橋達也　同　富里
實　業　龍崎源　同　酒々井
東勝寺貫主（國學院）　三好照嘉　山武千代田
×香取實　同　二川
×谷橋清　印旛富里
東洋拓殖株式會社吟爾賓支店次長（農大）　飯倉汎三　同　成田
下總御料牧場　鈴木三郎　東京品川
×稻垣保治　印旛成田
僧　侶　三好照正　同　酒々井
（榊原改）×大島慣三　同　成田
實　業　（大鳥改）織原三郎　同　八生
×林正四郎　同　八生
齒科醫　篠原昇　印旛富里
但僧（智山勸學院）　高野照賢　同　成田
實　業　×松本修一　高知安藝
本內喜右衛門　同　成田
山田逸作　印旛八生
實　業　石原岩治　同　成田
實　業

第八回卒業生（廿二名）（明治四十二年三月）

歩兵第二十六聯隊附陸軍一等主計　蛭田玄美　印旛豐住
×金澤光雄　香取多古
×加藤保　印旛八生
成田中學校教師　邊田金治郎　香取滑川
×櫻井千太郎　印旛佐倉
實　業　（小倉改）藤崎久太郎　同　中郷
實　業　土肥忠衛　同　公津
公　吏　平山勘一　同　遠山
實　業　（川崎改）齋藤金吾　同　公津
實　業　（新行寺改）秋葉義之　山武二川
成田山新勝寺貫主（東洋大學）　荒木照定　同　綠海
實　業　（野平改）永瀨謙吉　印旛八生
鈴木五兵衛　同　成田
實　業　志田照猛　東京京橋
芝饒照院住職（東洋大學）　（秋葉改）加藤昇　印旛富里
縣　屬

實　業　（遠藤改）村島隆治郎　印旛公津
有憐生命保險株式會社々員　（大助改）藤崎大八　同　富里
實　業　石橋茂夫　同　久住
實　業　（本多改）藤崎靜　同　遠山
×小川潔　同　八生
（明治大學）　野平與衛　同　豊住
穴川小學校訓導　橋本修造　同　公津

第九回卒業生（廿二名）（明治四十三年三月）

（加藤改）×竹村健　印旛中郷
實　業　（土肥改）諏訪原克己　同　公津
實　業（大阪高工）　大塚篤三　同　成田
（加藤改）竹下清吉　同　成田
陸軍輕重兵大尉（目黒）　石井樂治　山武千代田
鐵道省青森函館連絡船乘組　（東京商船）坂宮浩　印旛八生
成田小學校訓導　加勢胖　愛媛宇和島
×高橋毅一　印旛公津
實　業　椎名憲三　同　久住
齒科醫（東京齒科醫專）　（三橋改）鈴木重五郎　同　中郷
實　業（松戸高等園藝）　（中村改）小川保　同　彌富
八生小學校訓導　（和田改）卯之木照文　同　公津
小學校訓導　平野清司　市原高瀧
實　業　廣瀨保　印旛豊住
實　業　小倉甚四郎　印旛成田
小御門農學校教諭（松戸高等園藝）　小倉英次　同　八生
實　業　吉岡米吉　同　酒々井
齒科醫　宮島昇　同　成田
東京日々新聞社販賣部次長　下村保　同　八生
（渡邊改）×櫻井昇　同　成田
×黑川幹　同　成田
×澤邊保　同　八生

第十回卒業生（廿三名）（明治四十四年三月）

千葉椎名病院（千葉醫專）醫學博士　椎名泰三　印旛久住
（帝大）　石原貞三　同　成田
日本鋼管株式會社（千葉醫專）　山口清　同　八生
醫師（千葉醫專）醫學博士（平三郎改）　藤崎公道　同　遠山
海軍機關少佐（呂号潛水艦乘組）　藤田精一　同　八生
醫　師（千葉醫專）　織田貞吉原菊間
實　業　（丸　改）内田省吾　印旛公津
（東京商船）　小倉壯五郎　同　中郷
×林松之助　同　八生
大阪商船會社在職（東京商船）　鈴木雄一　山武山邊
×川島勝信　印旛富里
×三橋衛　同　成田
白鳥小學校訓導　額賀誠司　茨城白鳥

朝鮮銀行浦鹽支店（東洋協會）　小川清　山武二川
實　業　（岡部改）吉武秀澄　印旛遠山
臺灣臺南大倉組　（石井改）小出清　同　富里
實　業　×野平四郎次　同　豊住
東京市道路橋梁課（攻玉社）（右馬助改）秋葉昌己　同　富里
×額賀忠孝　茨城白鳥
實　業　蛭田貞民　印旛豊住
實　業　（衛　改）吉岡七郎兵衛　同　中郷
東洋拓殖會社朝鮮大邱支店　小川新　同　成田

第十一回卒業生（卅二名）（明治四十五年三月）

官　吏（休職中）（帝大）　三橋孝一郎　印旛成田
齒科醫（日本齒科醫專）　（秋山改）鈴木靜　同　中郷
成田學園主任（東洋大學）　（本宮改）大友惟誠　宮城志田
實　業　（衛一改）梶谷光之助　印旛安食
大阪市技師（帝大）　（小野寺改）瀧川俊雄　同　成田
實　業　渡邊和一　同　成田
醫　師（新潟醫專）　渡邊由松　同　成田
實　業　河合清　同　成田
×蕨曙　同　公津
（東京外國語學校）　篠田保　茨城稻敷
備　倭　小山正義　同　東茨城
國際汽船株式會社ケープタウン號機關長　織田順　印旛成田
仙臺稅務署監督局技師（大阪高工）　小池嘉之　千葉東葛飾
×池田榮助　山武千代田
×染谷恒次郎　印旛成田
實　業　石橋稔　香取滑川
實　業　稲垣恒藏　印旛成田
實　業　長谷川桂　同　成田
東京信託所　新橋旭　同　豊住
×江副節藏　東京京橋
鴨川小學校訓導　（須田改）長谷川興仁　安房田原
東京瓦斯會社　河野和起　長生東郷
×日暮太一郎　印旛中郷
實　業　岩舘昌美　香取滑川
實　業　山崎秋平　同　飯高
×綿貫新作　印旛酒々井
×大塚七郎　同　成田
×青柳公　同　公津
實　業　山田章吾　同　安食
東京赤坂區役所　（中村改）萩原廣　同　宗像
×栗原照宣　東京八王子
實　業　鈴木廣雄　東京品川

第十二回卒業生（廿八名）（大正二年三月）

實業　齋藤義秀　印旛遠山
（商船學校）（加藤改）澤崎英一郎　同　成田
日本興業證券株式會社（帝大）　石井鼎　同　遠山
實業　鈴木佐太郎　同　富里
實業　小川浩平　山武（千代田）
千葉女子師範附屬小學校訓導　內田毅　茨城行方
成田中學校教諭（大阪高工）　瀧澤榮亮　印旛成田
實業　×東美義照　東京淺草
實業　鈴木明　印旛富里
實業　×辻愛吉　同　遠山
實業　內海嘉男　同　八生
粉內小學校長（塚本改）葛生清三郎　香取滑川
實業　三橋有方　印旛富里
實業　×小槻秀吉　同　成田
日本線花株式會社　在ジャバ（東京外語）岩澤忠二　山武二川
實業　塚本憲一郎　香取滑川
僧侶（智山大）　青木榮俊（田端八王市塙）
（早大）　新橋榮榮　印旛豐住
實業　（並木改）櫻井和　同　富里
實業　池田一介　東京（日本橋）
山武東陽小學校訓導　大木喜三郎　匝瑳野田
富里南小學校訓導　竹村和　印旛富里
實業　飯塚英夫　香取多古
醫師　醫學博士　淺岡惠太郎　印旛成田
實業　鈴木高治　同　金津
實業　管澤忠爲　同　遠山
實業　三橋仙次　同　富里
實業　戶村正夫　同　川上

第十三回卒業生（卅七名）（大正三年三月）

鹽水港製糖株式會社々員（東京高商）　早川重雄　印旛成田
實業（東京帝大）　藤崎源之助　同　富里
警視廳保安部組築課內（蛭田改）平松白民　同　豐住
實業　山田要　同　八生
東京地方裁判所檢事（帝大）　丸才司　同　公津
實業（東亞同文書院）　清水長陽　高知高知
報知新聞社（東京外語）　竹尾弐　印旛八生
實業　山田進　同　公津
僧侶（智山大）（石崎改）×三枝照光　君津中郷
千葉農事試驗場技師（帝大）　福島照瑞（神奈川縣廳）
實業　日暮與一　印旛中郷
朝鮮全羅南道光州原蠶種試驗所技師　大木顯一郎　同　中郷
（上田蠶糸專門）
商科醫（東京商科）　藤崎鎭　同　遠山
東京不動銀行（早大）　稻川義雄　愛媛松山
長竹彥次郎　印旛成田

實業　大木健　印旛成田
實業　椿利一　香取滑川
鐵道省東部經理局　出山博　印旛成田
實業　貝原塚豐　同　八生
實業　瀧澤誠　同　成田
八生小學校訓導　瓜生鵜之丞　香取多古
（上田蠶糸專門）　佐瀨旭　印旛八生
商科醫　田島俊一　埼玉（北足立）
大阪天王寺師範學校教諭（東京高師）巽輪改平澤平三　茨城鹿島
久住小學校訓導　椎名勝美　印旛富里
實業　多田喜平　同　公津
實業（宮內改）清宮忠雄　印旛八生
實業　石井順　同　成田

第十四回卒業生（卅二名）（大正四年三月）

海軍主計少佐（軍艦鳥海乘組）　岡部美麿　印旛遠山
北海道苫小牧工業學校長（帝大）　三橋藤太郎　同　成田
醫師（十葉醫專）　醫學博士　木川浩逸　香取東條
東京商船株式會社々員（拓殖大）　藤崎總三郎　印旛遠山
公吏　小倉要　同　成田
東京電燈株式會社員　石井操　同　遠山
商科醫（東京商科）　戶村晉　山武（千代田）
實業　大木嘉平　印旛中郷
小學校訓導（齋藤改）茂手木篤三郎　印旛遠山
僧侶（智山大）　黑羽順敎　栃木那須
×丸善一　印旛公津
（吉岡改）大須賀清光　同　酒々井
實業　萩原正雄　香取多古
（東北帝大）　吉岡博　印旛中郷
（東北帝大）　加藤浩　同　八生
實業　藤崎源一郎　同　遠山
×所晃一　香取多古
多古第一小學校訓導　石井與四郎　印旛成田
實業　長谷川英一　同　成田
實業（石橋改）加藤暢　同　公津
東京富澤町川崎銀行支店（早大）　齋藤健雄　同　公津
內務省土木監督署河川工事務所　京須芳雄　同　成田
印旛實業學校教諭　高柳榮三郎　同　豐住
二川小學校訓導　鈴木金候　山武二川
實業　岩井儀太郎　印旛富山
南滿洲鐵道株式會社京城管理局工務課　片野純三　岐阜大垣
實業　鈴木民治郎　印旛成田
實業　柳澤吉藏　同　成田
成田中學校教諭兼書記　榎田正己　同　成田
東京洲崎病院醫員（東京慈恵醫）　高安盈仁　同　成田
群馬縣前橋小學校訓導（大沼改）藤波潔　同　成田
（麻布獸醫學校）

僧侶　若月義宏　安房西條

第十五回卒業生（卅五名）（大正五年三月）

醫師　×伊藤茂　香取飯高
栗林商船株式會社（小樽高商）（大木改）藤澤武雄　印旛成田
香取郡吉田小學校長（石川改）木村亮都　誠長生茂原
佐倉中學校教諭（東洋大）（大三川改）小川國次　印旛遠山
實業　同　安食
同　八生
×戸村達郎　山武二川
佐倉川崎第百銀行支店　藤崎穣　印旛遠山
醫師（千葉醫專）　本多傳　同　遠山
實業　内田信一　山武二川
（東京商船學校）（渡邊改）柏原富吉　印旛成田
富山房編輯部（國學院大）　石川富士雄　同　成田
小學校訓導　安達國一　埼玉大宮
實業　八角彌（小川改）　山武千代田
多古第二小學校訓導　手島徹　同千代田
小學校訓導　大竹茂　香取滑川
古河電氣工業株式會社在上海（東京外語）　瀧澤榮一　印旛成田
都留中學校教諭（早大）　河重八郎　同　八生
實業　秋葉一吉　山武蓮沼
醫師（京都醫專）　熊切儀一　夷隅古澤
千葉縣道路技手兼土木技手　片野春吉　岐阜大垣
實業　齊藤七司　印旛公津
小學校訓導　×阿部良策　同　豐住
醫師（日本醫大）（木内改）伊藤功　同　富里
實業　山内誠　同　成田
伊藤保次　同　成田
實業（篠崎改）紺谷旭　同　遠山
實業　小川吉之助　同　成田
實業　鈴木次郎　同　公津
實業　池田喜一　同　富里
實業（鈴木改）萩原賢治　同　富里
官吏　宇賀近治　同　臼井
實業　岩井平男　同　大森
實業　平山久一郎　同　成田
實業　飯高多一郎　香取大須賀

第十六回卒業生（三十六名）（大正六年三月）

銚子秋山病院（千葉醫專）　醫學博士　秋山寅雄　香取多古
實業　×堀田彌太郎　印旛久住
（照保改）諸岡市郎左工門　同　成田
（東京蠶絲專門）（仲改）秋葉英世　同　富里
實業　齊藤陽一　同　成田
大日本赤十字社病院　深山浩一　同　旭
產婦人科醫局（新潟醫專）

鐵道省東部經理局員（能勢改）鵜澤邦藏　千葉犢橋
實業　神山雅一　印旛成田
明治生命保險株式會社々員（早大）　竹尾剛　同　八生
日本電線株式會社（早大）　內藤達夫　茨城稻敷
匝瑳中學校教諭（東京物理學校）　渡邊陸三　印旛成田
小學校訓導　池田義夫　同　富里
實業　大島文吉　同　八生
實業　堀越誠　山武二川
ジャパンメヂカルワード社（拓殖大）　×池田伊重郎　同千代田
商科醫（東京商科）（姉崎改）永田令藏　山形新庄
實業　石橋保　印旛富里
實業　×小川斌　同　公津
實業　加藤久次郎　香取大須賀
×大木康　印旛成田
三井鑛山株式會社々員東京本店（日暮改）　湯淺彥治　同　成田
南滿鐵道株式會社（中央大）　檜垣達也　同　久住
實業　本多義　同　遠山
實業　土井平重　同　公津
實業　青柳忍　同　公津
實業　長谷川祐元　安房西條
醫師（多田改）森田元二　印旛公津
實業　根本東海男　同　公津
小學校訓導　篠田欣吾　印旛豐住
實業　石橋健二　同　豐住
實業　土肥卓　同　公津
實業（早大）　方波見仲勇　茨城鹿島
實業　秋葉三省　市原市東
實業（鈴木改）櫻井斌敏　印旛公津
實業　櫻井一郎　香取小御門
實業　宇井龍雄　印旛成田

第十七回卒業生（卅五名）（大正七年三月）

（宍倉改）×木内貫一　印旛久住
（帝大）野平忠　同　豐住
慶應義塾教授　西谷謙堂　同　豐住
×吉田善四郎　東京神田
櫻組製靴會社　飯塚忠　香取多古
東京市立葛飾病院副院長（慶大醫）　中野圭曦　東京豐島
三重縣津師範學校教諭（東京高師）（山内改）高屋卯之助　印旛成田
遞信省遞信技手　鈴木豐　同　成田
醫師（千葉醫專）　清水東四郎　同　成田
實業　鈴木德治　同　成田
奈良縣畝傍中學校教諭　日色四郎　香取滑川
東神倉庫株式會社々員（慶應）　神戸隆太郎　印旛成田
株式會社巖松堂書店　後藤俊次　同　安食

實　業（早大）　（豐田改）小野寺謹悟　印旛成田
名古屋鐵道局運輸課　山田好助　同　富里
（早大）　石井勝男　同　成田
公津小學校訓導　（越川改）松岡　明　同　遠山
實　業　伊藤七右衛門　同　久住
成田中學校教諭（日大）　寺内　保　同　成田
實　業　×高橋　巖　同　成田
（早大）　田中藤治　香取小間門
實　業　小川總良　山武干代田
實　業　古川　廣　同　片貝
耕地整理技手　×土井規矩藏　印旛公津
實　業　長谷川藤市　同　成田
實　業　武士田　胖　同　成田
實　業　實川和男　山武干代田
實　業　（藤崎改）吉岡英亮　印旛遠山
南滿州鐵道會社　安藤俊行　同　久住
第一生命保險會社（東京農大）　谷口一郎　同　八生
實　業　×日暮輝雄　同　豊住
實　業　伊藤文亮　同　遠山
實　業　宮原三郎　同　久住
實　業　（藤崎改）神崎　忍　同　遠山
實　業　鈴木茂喜　同　久住

第十八回卒業生（卅七名）（大正八年三月）

東京三菱銀行（慶應）　湯淺三吾　印旛八生
×湯淺武之助　同　八生
×千脇　晟　千葉更科
×篠原岩次郎　印旛成田
大阪毎日記者東亞部（東亞同文院）　石川　願　同　成田
實　業　糸川　平　同　久住
川崎銀行丸ノ内支店　石橋正也　同　成田
實　業　葛生幸吉　同　安食
野田醬油株式會社々員（慶應）　藤崎信助　同　富里
×根本新一　茨城稻敷
日本歯醫學校教授（青山學院）　林　正雄　印旛成田
大阪日本生命保險株式會社々員（澤田改）　平井　武　同　中郷
香取瑞穂小學校訓導（小川改）長坂了介　山武干代田
（國學院大）　（廣瀬改）鈴木光亮　印旛豊住
實　業　×香取舜治　山武二川
（桐生高工）　石橋孝三郎　印旛成田
實　業　丸　善衛　同　公津
福田直四郎　東京本郷
實　業　（藤崎改）飯泉隆二郎　印旛遠山
成田高等女學校教諭（東京美學）（日暮改）山内　貞　同　中郷
實　業　（迦田改）山田春之助　同　富里

千葉女子師範學校教諭（國學院）　伊藤公平　印旛八生
日進小學校訓導　椎名　操　香取本大根賀
鐵道省茨城縣大子驛　小川太郎　印旛八生
實　業　大三川弘之　香取多古
鐵道省東部管理局　滝澤德治　印旛成田
接骨醫　小倉　仁　同　成田
小學校訓導　豬瀬堯澄　同　布鎌
永治小學校訓導　武藤行敬　同　永治
實　業　山崎信男　香取高岡
實　業　檜垣省吾　印旛久住
實　業　四宮　操　同　富里
實　業　古川　巖　同　中郷
實　業　神崎俊之助　同　遠山
實　業　相原理三郎　同　公津
實　業　石橋　進　同　富里
實　業　伊藤源右　同　中郷

第十九回卒業生（卅四名）（大正九年三月）

京成電氣會社技師（東京高工）　福田郁次郎　茨城行方
新潟醫科大學助手（新潟醫專）　深川　陽　印旛　旭
靜岡西遠高等女學校長（帝大）（若命改）岡本富郎　横濱吉田町
東京日本橋郵便局　岩立源一郎　香取常川
實　業　高橋勇雄　印旛公津
海軍機關大尉出雲乘組　加藤武夫　印旛成田
醫　師（新潟醫專）　山崎一雄　同　永治
醫　師（千葉醫專）　鈴木藤吉　同　安食
實　業　木内芳雄　同　成田
實　業　大野龜之助　同　酒々井
實　業　宮崎廣則　同　成田
神職（國學院）　藤崎章　同　遠山
（早大）　伊藤豐　同　久住
實　業　中臺俊一　同　公津
實　業　（小川改）竹村秀譯　同　成田
齒科醫（東京齒科）　下村好一　同　八生
實　業　石井禮之尉　同　遠山
實　業　石井庄平　同　酒々井
實　業　萩原英一　同　成田
齒科醫（日本醫科）　小倉興市　同　遠山
實　業　（甲田改）千葉實乘　茨城五個
神奈川縣小田原高等女學校教諭（早大）　林　稜二　印旛八生
實　業（早大）　平山榮昌　香取多古
實　業　石井美雄　印旛富里
實　業　山崎　守　同　木下
（明大）　×阿部規矩治　同　豊住
小學校訓導　竹村利雄　同　富里
安田銀行芝支店　（篠崎改）稲村忠雄　同　遠山

（神奈川縣藤澤時宗宗學林）（大貫平吉改）吾江淨光 神奈川縣藤澤市名
實　業　磯山儀一 印旛公津
實　業　寺内五市 同 中郷
×吉岡彰 同 中郷
齒科醫（日本齒科）
實　業　藤崎慶司 同 成田
飯田榮亮 香取大須賀

第二十回卒業生（卅六名）（大正十年三月）

神戸南歐貿易株式會社（東京高工）（荻原改）泉野良作 印旛豐住
東北帝國大學農學部在學　原　義雄 同 富里
成田圖書館司書（青柳改）高田定吉 同 成田
（文部省圖書館講習所）
（東京商大）安達一郎 同 遠山
慶　應　齋藤光治 同 成田
富里小學校訓導（松岡改）日暮勝重 同 遠山
大多喜高等女學校教諭（早大）鈴木徐人 同 大森
海軍中尉　高野照典 同 成田
實　業　森　竹雄 同 遠山
（大宮改）菅澤　英 香取高岡
僧　侶（智山大）松田照應 印旛成田
實　業　内藤　榮 茨城金江津
小學校訓導　和田　英 印旛酒井
官　吏　大貫貞吉 同 安食
（明大）泉瑞敏正 夷隅古澤

實　業　小倉良太郎 印旛八生
内郷小學校訓導　椎名永良 同 安食
（中央大）小海川昌則 同 久住
小學校訓導　手島　英 山武千代田
遠山小學校訓導　秋山榮吉 印旛八生
實　業　齋藤貞雄 同 公津
（千葉醫科大學附屬藥學）荻原道三 海上銚子
小學校訓導　後藤慎平 印旛安食
實　業　山崎信夫 同 遠山
八生小學校訓導　磯山　宣 同 公津
實　業　福田　登 同 酒々井
八生小學校訓導　藤崎　巖 同 遠山
實　業　寺内彌茂 同 中郷
實　業　宇井　聖 同 成田
實　業（慶應）山木秀雄 同 成田
（石川改）
實　業　丸　善兵 同 公津
實　業　山倉文雄 同 久住
實　業　關川雅司 同 成田
接骨醫　小倉　桂 同 成田
東京吾嬬小學校訓導　小川　勳 同 富里
僧　侶　永山敬榮 福島豊岡

第二十一回卒業生（卅八名）（大正十一年三月）

東京帝國大學醫學部大學院在學　大島　仁 印旛成田
北海道三重園北海製罐株式會社　根木五郎 同 富里
（水産講習所）
醫　師（癌研會醫科大）竹村猛壽 同 成田
實　業　石橋廣吉 香取滑川
秋田縣立角館中學校教諭（帝大）（榎田改）羽方　章 印旛成田
東北大學大學院在學（帝大）平山　諦 同 成田
（早大）關谷重雄 同 公津
不動銀行東京乃木坂支店（大阪高商）淺井義一 同 成田
銚子合資會社勝味屋本店　樺　成田
成田小學校訓導　島村治助 同 成田
二川小學校訓導　太田家倚 同 公津
實　業　飯高治夫 山武二川
實　業　岩澤丈夫 印旛遠山
日本郵船（東京商船）藤崎　昇 同 和田
實　業　野平統一 同 中郷
鐵道省（明治大）岩澤多門 同 遠山
實　業　小林博 同 成田
和田小學校訓導（相川改）高橋　清 同 成田
醫師（千葉醫大）（安正改）坂田己一郎 同 富里
日本火災保險會社　關川博道 同 成田
公津小學校訓導　木内正夫 同 成田
（明治大）渡邊三郎 同 成田
桑原啓次郎 同 安食

成田小學校訓導（伊藤改）寺本　巌 印旛富里
日本郵船無線電信係（根本改）芝山克己 同 八生
（無線電信講習所）
實　業　本多巳代治 同 遠山
東京不動銀行（明大）諸岡一次 同 成田
×加藤曉治 同 成田
八生小學校訓導　藤崎勘司 同 遠山
神奈川縣西浦小學校訓導　石木　晃 廣島竹二
樺太小學校訓導　丸山正臣 長野明盛
實　業　萩原喜知太郎 印旛豊住
（明治大）湯淺八郎 同 八生
實　業　山田　忍 同 公津
（朝鮮水原高等農林學校）加藤北二郎 同 八生
實　業　伊能春夫 山武二川
鐵道從業員　吉岡　順 印旛中郷
鴨川小學校訓導　吉田義法 安房田原
實　業　竹田正吉 印旛成田

第二十二回卒業生（卅八名）（大正十二年三月）

醫　師（帝大）熊切修二 夷隅古澤
小御門農學校教諭（東京農大）檜垣兼三 印旛久住
小學校訓導　戸村照學 八日市場
×齋藤　操 印旛公津
成田中學校教諭（國學院）三門健一 同 木下

千葉合同銀行本店（慶應）　小泉國衞　印旛成田
東京帝國大學　三橋監物　同　成田
（帝大）　大澤猷太郎　同　八生
實　業（慶應）　大塚謹三　同　成田
本埜小學校訓導　石井俶男　山武千代田
東京市役所　山口忠　印旛八生
南洋興業株式會社（大倉高等商業）　大須賀誠　同　定食
實　業　香取忠裕　山武千代田
公津小學校訓導　（小川改）
實　業　香取利雄　印旛久住
公　吏（東京外語）　加藤文一　同　成田
實　業　石橋三郎　同　安食
大阪大森組本店設計部建築技師（横濱高工）　多田清　同　公津
實　業　長澤博　同　布鎌
小學校訓導　鈴木三郎　同　公津
安田銀行　松崎正重　同　八生
實　業　篠崎操　同　遠山
（中央大）　平山正夫　香取多古
小學校訓導　新村新助　山武二川
冨里南小學校訓導（東洋大）（智山大）　原公　印旛富里
成田小學校訓導　（青柳改）　島照康　東京本所
實　業　大木信雄　印旛公津
東京香嶋小學校訓導　篠原幸次郎　同　成田
平山祝　香取吉田

千葉小學校訓導　（渡邊改）　飯塚泰亮　印旛成田
商科醫（東京商科醫專）　平山幸一　香取多古
×片岡勇　印旛遠山
×桑名善雄　茨城那珂
實　業　小川重雄　印旛中郷
（日本大）　石川明　同　遠山
實　業　竹尾隆　同酒々井
遞信省官吏　石渡四郎　山武南郷
實　業　石山堯　山武二川
實　業　鈴本平　印旛公津

第二十三回卒業生（卅三名）（大正十三年三月）

三井銀行名古屋支店（明大）　藤崎浦治　印旛遠山
（帝大）　水野岩雄　同　成田
北海道大學農學部理學部助手（帝大）　牧野佐次郎　同　成田
日露漁業株式會社（日露協會學校）　遠藤與惣次　同　公津
平壤電氣會社（帝大）　加藤韓三　同　八生
×諏訪原四郎　同　八生
日本郵船（神戸商船）　渡邊進一　同　成田
實　業　山内康夫　同　成田
二川小學校訓導　土屋清　山武二川
（物理學校）　篠田光治　茨城金江津
實　業　神崎謙三　印旛遠山

（日本大）　岩内貫　同　遠山
東京鐵道局千葉運輸事務所　加藤岡武　同　成田
×谷上勝太郎　同　成田
×三橋新　同　成田
新勝寺事務員（東京主計學校）　行方喜一　山武大總
實　業　本内基治　香取滑川
實　業　林貞一　山武日向
實　業　高橋忠司　印旛公津
（日本大）　佐藤寛　香取大須賀
（中央大）　（未詳雄改）　武田有信　印旛八生
東京鐵道局千葉運輸事務所　鳴田滿　同　富里
川崎銀行佐原支店　藤崎正義　同　遠山
南洋瓜島マラン市佐伯商會　吉川克巳　同　中郷
高岡高等商業學校在學　手島寛　山武千代田
實　業　日暮秀明　印旛本埜
大阪合同紡績株式會社天滿支店（米澤高工）　小川貞助　同　豐住
小學校訓導　伊藤清　同　富里
實　業　青柳晴美　香取滑川
實　業（明治大）　佐伯忠夫　長生土睦
實　業　大三川雄啓　香取多古
實　業　湯淺義雄　印旛公津
實　業　黒川富夫　同　成田
四年ヨリ高等學校入學本校卒業生ニ准ズ　×安達次郎

實　業　生駒靜雄　山武二川
小學校訓導　伊藤磨　印旛久住
帝國在鄕軍人會（日本大）　伊藤汎　山武松尾
實　業（早大）　石川仁一郎　印旛成田
（横濱高工）　石川豐　同　遠山
實　業　石田亨　香取高岡
商科醫（東京商科醫專）　石井雅衞　印旛富里
（早大）　圓城寺次郎　同　公津
秋田縣女子師範學校教諭（東京高師）　林田武雄　同　富里
川崎第百銀行千葉支店　林清風　同　遠山
小學校訓導　大友巖高仙　臺
實　業　岡野秋夫　印旛安食
（法大）　木木丈夫　匝瑳須賀
久住小學校訓導　渡邊市左衞門　印旛成田
千葉醫大在學　金子忠治　同　中郷
實　業　神崎廸太郎　茨城金江津
實　業　海保芳郎　印旛久住
小學校訓導　海保香苗　茨城金江津
實　業　神崎武夫　印旛遠山
東京中村高等女學校教諭（東洋大）　勝又勝伊　香取多古
×海瀨健爾　安房稻都

日本大學商科在學　高川俊夫　印旛成田
明治大學在學　高安愛之助　同　成田
×田中純一郎　茨城龍崎
日本商科醫學專門學校在學
朝鮮小學校訓導　中村賢爾　印旛臼井
實　業　內海門磨　同　八生
實　業　山本愛　同　安食
實　業　山田彌　同　安食
慶應義塾在學　武士田讓　同　成田
奈良不動銀行在職（明大）　神戸剛　同　成田
東京電燈佐原支社　寺內一郎　同　成田
不動銀行東京兩國支店（東京商大）　寺內秀雄　同　成田
×淺井銳次　同　成田
（明治大）　淺井隆　同　成田
實　業　相田重義　埼玉柏壁
六合小學校訓導　秋山貔虎一　印旛富里
實　業　秋山寬　同　遠山
東京電燈木下支社　櫻井泰　同　安食
實　業　木內浩　同　成田
東京瓦斯會社（早大）　湯淺栽樹　同　安食
物理學校在學　宮內喜夫　同　八生
大塚驛（早大）　清水文治　山梨安都
千葉醫大在學　新橋重三　印旛豐住
關川安世　同　成田
實　業　清宮博　印旛八生

第二十五回卒業生（四十四名）（大正十五年三月）

公　吏　石橋浩　印旛安食
實　業　丸芳洋（池田改）　同　富里
實　業　磯部貢　同　久住
小學校訓導（東洋大）　石橋興七　同　成田
實　業　石井昌治　山武千代田
實　業　萩原章　同　大里
商科醫（日本商科醫）　大竹清　本大須賀
中央大學法科在學　大木晋市郎　印旛中郷
物理學校在學　大木得三　同　八生
實　業　大久保貞治　同　安食
長野縣松本片倉製絲紡績株式會社（上田蠶絲專門）　小川茂　同　遠山
小學校訓導　小川忠雄　同　八生
明治大學在學　小海川重雄　同　久住
實　業（中央大）　小川進　同　豐住
東京鐵道局千葉運輸事務所　大須賀信乃　同　六合
海保三千三　同　久住
×川島千秋　本大須賀
金江津小學校訓導　金澤俊亮　茨城金江津
實　業　加藤正則　印旛中郷
僧　侶　田村義敎　安房天津

滑河小學校訓導　堀本克巳　香取滑川
高岡小學校訓導　鶴岡大中　石川輪島
小學校訓導　根本菊次　印旛豐住
小學校訓導　中村一　山武睦岡
實　業　村山信次　印旛公津
實　業　內田榮　山武千代田
醫　師　黑田正信　香取多古
新勝寺事務員　久保田深　印旛成田
東京日々新聞社　山崎博　香取高岡
實　業（中央大）　山田一雄　印旛八生
東京帝大在學　丸三郎　同　公津
官　吏　松本重雄　君津久留里
長沼小學校訓導　福田廣　印旛安食
川崎第百銀行佐原支店　藤崎廣夫　同　遠山
日大法學部在學　藤崎傳　同　遠山
實　業　佐久間誠一　同　豐住
小學校訓導　佐藤智雄　香取大須賀
神戸女學院敎諭（東京高師臨敎）　齋藤仲次　印旛八生
僧　侶　吉祥照芳　東京四谷
六合小學校訓導　密島和一　同　神田
（早大）　平山岩雄　香取多古
僧　侶（智山大學）　森谷義正　山形東郷
實　業　諸岡薫　印旛成田
僧　侶（智山大學）　鈴木照澄　印旛志津
實　業　諏訪原貞夫　同　成田
東京帝國大學在學（四年ヨリ高等學校ニ入學本校卒業生ニ准ズ）　三橋誠一　同　成田

第二十六回卒業生（三十三名）（昭和二年三月）

小學校訓導　石井竹松　印旛遠山
（攻玉社高等業）　石井章　同　富里
實　業　今關吉三　香取多古
（神戸商船學校）　伊藤倉三　印旛遠山
實　業　伊井與助　同　富里
實　業　石井三郎　同　豐住
（米澤高工）　×石橋瑞穗　同　成田
實　業　幡谷有吉　同　成田
鐵道從業員　萩原治房　香取多古
成田役場吏員　萬來親　印旛八街
實　業　大木賢三　同　成田
小倉敏夫　同　中郷
×大野正　同　豐住
實　業　小川德英　山武千代田
三重縣鳥羽町鳥羽築港事務所（山梨高工）　大見川正　印旛中郷
實　業　小川政巳　同　同
實　業（明治大）　渡邊操　同　成田
實　業　渡邊昇司　香取滑川

小學校訓導　吉岡一二　印旛中郷
×　横田四郎　同　久住
小學校訓導　吉岡俊男　同　中郷
木下小學校訓導　多田實　同　公津（藤崎改）
鐵道省（法政大）　高橋忠　同　成田
東北帝國大學在學　高橋健吉　同　成田
（法政大）　高橋重雄　同　成田
小學校訓導　武田利良　同　成田
實業　武田豐　同　八生
實業　澁澤利一　同　成田
僧侶（智山大學）　村田榮量　安房豊房
僧侶（智山大學）　上野頼榮　福島苅野
慶應義塾文科在學　×　鵜澤廣吉　印旛公津
（日本齒科醫學專門學校）　葛生常幸　同　安食
兵役　郡司辰二　香取日吉
小學校訓導　山室勝身　山武千代田
實業　山崎巖　香取飯高
實業　福田茂重郎　群馬日野
實業　後藤愛　印旛八生
實業　後藤重司　同　安食
實業　芦田菊次郎　同　成田
成田小學校訓導　秋山禎康　同　中遠（秋山改）
梶芳合名會社　梶正　同　中郷
（東洋大）　南井重　同　成田
成田中學校助手（東京高工）　實川賢雄　同　成田
日本齒科醫學專門學校在學　清水定雄　香取多古
東京安田銀行　平野新藏　香取神崎
（東洋大）　泉水淳　印旛八生
×　清宮清介　同　八生
第一高等學校在學　鈴木善照　同　中郷

第二十七回卒業生（參拾九名）（昭和三年三月）

實業　石井保　印旛遠山
實業　石川熏　同　遠山
實業　飯田清太郎　香取横川
實業　磯山茂　印旛公津
千葉縣土木課木下出張所　岩舘英亮　同　遠山
實業　林俊吾　同　八生
實業　堀井克巳　香取小御門
×　堀川和　同　潛川
實業　富澤章治　同　潛川
實業　戸村正作　印旛遠山
實業　小川貢　同　公津
實業　小川英一　同　中郷
實業　小川晃　同　中郷
實業　小倉信輔　同　成田（横濱高工）

靜岡縣蠶絲取締大宮支所（東京高等蠶糸）　大須賀仁　印旛安食
實業　大竹久直　香取本大須賀
成田新更會書記　大野政治　印旛成田
北總鐵道株式會社　大竹惠司　同　富里
（東京外語）　川村三郎　同　木下
小學校訓導　香取不二夫　同　久住
實業　根本甚三　同　豊住
日本大學醫科專門部在學　中村三樹　同　臼井
接骨醫　×　武藤文哉　同　永沼
實業　黒川正雄　同　成田
矢萩俊一郎　同　安食
小學校訓導　×　山田勳　同　八生
實業　福田一太郎　稻敷金江津
小學校訓導　藤崎光治　印旛遠山
早稲田大學在學　小窪仁　同　本埜
久住小學校訓導　寺内賢治　同　成田
和田小學校訓導　秋葉武夫　同　富里
日本大學在學　青柳亮　同　公津
×　齊藤吉三　同　成田
官吏　佐藤芳雄　同　成田
實業　木川忠　山武二川
關西學院在學　日暮眞　印旛本埜
平間輝雄　宮城槻本
法政大學在學　砂山謙一　石川植川
大日本弓道會　鈴木準一　栃木縣南大桐

第二十八回卒業生（六拾二名）（昭和四年三月）

南洋渡航　伊藤武雄　印旛遠山
中央大學在學　伊藤久四郎　同　安食
日本大學齒科在學　池田大輔　山武千代田
實業　谷白　印旛公津（石橋改）
東京齒科醫專在學　飯塚金次　香取多古
×　羽入一男　印旛成田
×　萩本和　茨城東茨城
官吏　細野彰　印旛富里
鐵道從業員　細矢三郎　同　成田
實業　戸塚四一郎　東京麴町
實業　戸村一作　印旛遠山
土井平治　同　公津
金子貿易合名會社　小川利明　同　中郷
實業　小川貞雄　同　成田
成田中學校助手　小川茂　同　成田
日大本科在學　小倉格司　同　成田
實業　小澤文治郎　同　成田
時事新聞社員（日本大）　若海登　同　遠山
鐵道省千葉運輸事務所　川崎茂　同　公津
實業

實業　金子孝道　印旛中郷
實業　吉田松年　同　成田
實業　谷貞悟　同　公津
實業　高橋熏　同　公津
兵役　高橋亥年生　同　成田
實業　瀧澤昇　同　成田
×高橋仁　同　公津
高橋浩　千葉更科
根本誠　印旛成田
鵜澤幸雄　山武千代田
大野孝　印旛安食
大澤新吾　同　八生
大木春基　同　中郷
大木一夫　同　中郷
×大木勤吾　同　成田
大島卓　同　成田
山田保　同　成田
×山田正美　同　八生
×山崎要　同　公津
丸盛一　同　公津
松田晴源　同　成田
藤崎末夫　同　遠山
古郷清　匝瑳南篠

（農業大學）
東武鐵道從業員
早稲田大學在學
東京藝專在學
實業　宮内德次郎　茨城鹿島
宮内季男　香取滑河
宮本庫二　印旛富里
公吏　篠田惣壽　同　豐住
兵役　×平野仲次　同　八生
諸岡胖　同　成田
諸岡新一　同　成田
關川順道　同　成田
諏訪原民雄　同　八生
管孝一　同　遠山
管谷嘉夫　同　成田
鈴木覺　同　遠山
實業　鈴木順吉　同　成田
東京市役所　鈴木照汎　同　公津

第二十九回卒業生（四拾八名）（昭和五年三月）
八都小學校訓導　飯田四郎三郎　香取滑川
小柳謙治　印旛永治
寺内良則　同　成田
笹川克巳　山武千代田
木村秀明　香取小田部
木内憲一　印旛成田
木内喜久雄　同　成田
木内季男　香取滑河
宮内德次郎　茨城鹿島
宮本庫二　印旛富里
篠田惣壽　同　豐住
×平野仲次　同　八生
諸岡胖　同　成田
諸岡新一　同　成田
關川順道　同　成田
諏訪原民雄　同　八生
管孝一　同　遠山
管谷嘉夫　同　成田
鈴木覺　同　遠山
實業　鈴木順吉　同　成田
鈴木照汎　同　公津

（日大）
東洋大學在學
日本大學在學
實業　伊藤正治　印旛中郷
日本大學在學　岩館正美　同　中郷
岩澤善一郎　同　中郷
稲垣昌則　同　成田
實業　湯淺登　印旛公津
（石原改）
日本大學在學　石橋芳郎　稲敷金江津
岡士館專門學校在學　石橋武四郎　印旛成田
朝鮮總督府　堀井信義　香取小田部
明治大學在學（高千穗高商）　豐田利郎　印旛成田
官吏　小野幸　同　成田
小學校訓導　加藤進　同　豐住
加勢和宇和島
（日大）　勝又康　印旛成田
實業　高橋孝　同　公津
東京商大豫科在學　田中昇　同　成田
實業　根本正二　同　豐住
實業　根本寛　同　久住
實業　成瀨和　同　成田
東京不動銀行　中路敬一　同　成田
（日大）　中山芳久　千葉寒川
實業　武藤時哉　印旛永治
兵役　大木忠七　同　中郷
×大木市正　同　中郷
實業　大木七繼　同　中郷
成田小學校訓導　大島良一　同　八生
實業　山田勇　同　八生
日大在學　山田武夫　同　成田
×山田正元　同　八生
日本大學在學　山岸林三郎　印旛米下
千葉醫大附屬藥專在學　丸建　同　公津
笹川小學校訓導（日大）　藤崎健造　同　遠山
兵役　福田茂　稲敷金江津
實業　手島正爾　山武千代田
實業　出山誠一　印旛豐住
物理學校　相川長　香取高岡
東京區裁判所　秋葉忠　香取多古
（日大）　秋山健夫　印旛遠山
實業　齋藤一郎　東京下谷
佐藤寅吉　印旛成田
兵役　佐瀨卓　同　八生
實業　三橋廣　同　富里
大正大學在學　光本照元　神奈川川崎
×椎名勤　稲敷富田
兵役　椎野齋　印旛富里
實業　篠原重明　同　豐住
日大在學　諸岡武　同　成田

兵役　森田敏雄　同　八生

第三拾回卒業生（五拾五名）（昭和六年三月）

滑河信用組合（縣産講）
實業　飯田實　香取滑河
實業　池田五郎　印旛富里
實業　石井秀雄　同　布鎌
實業　石川英一　同　遠山
實業　石原文雄　同　富里
東京市淺草區役所
實業　石原斌　同　富里
日大齒科在學　岩井正夫　同　大森
上智大學在學　萩原貢　同　成田
東京高等師範在學　土井茂材　同　六合
實業　土肥輝雄　同　公津
大阪市役所　岡野小市　同　安食
日大在學　小川信夫　同　八生
實業　小川源衛　同　公津
海軍志願兵　小川三郎　同　公津
早大高等學院在學　小川源之助　同　公津
東京中央電機製作所　川崎英利　同　公津
本埜小學校調導　神崎純一　同　成田
實業　加瀨充雄　香取多古
多田政司　印旛中郷
瀧澤清　同　成田
實業　武田敏夫　同　成田
竹尾潮　同　八生
國學院大學在學
竹村安夫　同　富里
×成毛敏夫　香取高岡
村島久四　印旛公津
鵜澤虎雄　同　中郷
實業　山口一　香取多古
實業　山田文太郎　印旛成田
國學院大學在學　山田章　同　成田
本埜小學校調導　山出衛　香取本大須賀
實業　丸寛二　印旛公津
明治大學在學　松田保　稲敷長竿
兵役　藤崎忠一　印旛安食
慶應義塾理財科　藤崎肇　同　遠山
藤倉靜男　同　成田
×小林清　同　布鎌
×相田秀夫　埼玉粕壁
青野七衛　稲敷金江津
秋葉直次　香取中村
秋山光雄　印旛八生
荒本武雄　同　安食
三枝清亮　同　成田
齋藤秋次郎　同　成田
成田中學校助手
早稲田大學理工科在學
千葉中學校補習科在學
實業　日大齒科在學

實業　佐藤棟太郎　香取多古
實業　澤田良修　印旛久住
兵役　久古一　同　豊住
專修大學在學　三橋信　同　成田
大正大學在學　三好義政　同　公津
實業　鹽田重雄　同　布鎌
實業　椎名茂小御門
安房郡田原小學校調導　島照功　東京本所
東京大興電氣株式會社　日暮充雄　印旛本埜
中郷小學校調導　杉田清　八日市場
實業　鈴木映亮　印旛中郷
清宮信之助　同　八生

第三十一回卒業生（五拾五名）（昭和七年三月）

實業　伊藤彰　印旛富里
飯田作藏　同　安食
成田登記所勤務　石井芳雄　同　公津
石井富明　山武千代田
實業　石井茂雄　印旛遠山
實業　岩澤三男　山武千代田
成田圖書館員　岩館衛　印旛遠山
實業　内田啓次郎　同　富里
小川茂　山武千代田
小川仁　印旛富里
小川正雄　山武二川
小倉八郎　印旛成田
大久保喜八郎　同　布鎌
大木勝　同　中郷
川崎三彌　同　公津
金子仁　同　中郷
加藤昌美　同　中郷
小泉伊之助　同　久住
小出茂雄　同　根郷
駒林清一　同　成田
後淺敬止　同　八生
櫻井芳雄　香取小田部
鹽田林太郎　印旛布鎌
清水文康　山梨巨摩
鈴木福雄　同　印旛中郷
菅澤忠勇　同　遠山
田中照完　同　公津
田谷秀雄　同　成田
高木善明　同　公津
武田建　同　八生
武田武雄　同　八生

寺内三郎	印旛	中郷	
×土井義邦	同	成田	
野宮々茂毅	同	成田	中郷村信用組合（縣産講）
長谷川秀吉	同	成田	大丸屋呉服店
長谷川正道	同	久住	
長谷川能通	同	成田	
長谷川勝司	同	成田	
林田實	同	富里	實業
×林光夫	同	成田	
萩原儀助	山武	千代田	千葉師範二部在學
萩原孝	香取	東條	日本大學歯科在學
原正計	印旛	富里	實業
日暮靜	同	成田	法政大學在學
藤崎昌良	同	富里	兵役
藤田知義	京都	笠取	
松田正夫	香取	高岡	
三池豊	印旛	成田	實業
三橋清	同	富里	實業
諸岡信吾	同	成田	
矢村文雄	同	公津	千葉師範二部在學
山崎昇平	同	公津	實業
湯淺重雄	同	八生	海軍志願兵
蕨愛	同	公津	

第三十二回卒業生（五十四名）（昭和八年三月）

伊藤市郎	印旛	成田	實業
伊藤衛	山武	二川	
五十嵐貫治	香取	多古	實業
石井勝衛	印旛	富里	
石井實	同	公津	實業
石井一良	山武	千代田	日本大學在學
石井秀雄	印旛	六合	
石川一成	茨城	金江津	
石橋一太郎	印旛	安食	
幡谷千尋	同	八生	
林五三郎	山武	成東	
林田英雄	印旛	富里	
吉岡茂	同	成田	實業
吉岡巖	同	豊住	實業
谷民蔵	同	公津	
瀧澤新介	同	成田	
塚谷正能夫	同	成田	
成毛利幾雄	同	中郷	實業
郡司佐兵衛	香取	多古	
山口宏明	印旛	遠山	
山本喜一	同	安食	實業

谷ヶ崎滿	印旛	成田	
藤田勇	同	豊住	
小泉啓二	同	久住	實業
遠藤武男	同	公津	
青柳安正	香取	滑川	
青野延良	茨城	金江津	
豐田正三	印旛	成田	朝鮮京城郵便局
土井良輔	同	成田	實業
小川武夫	同	中郷	實業
小川健司	同	中郷	
大口政次	東京	亀戸	
大澤襄	印旛	八生	
大見川好之	同	中郷	明治大學在學
荻原轍郎	同	豊住	實業
蕨八郎右衛門	同	公津	實業
加藤信之	同	中郷	實業
加藤弘	同	成田	
河合定次	同	成田	實業
荒木武雄	山武	綠海	早大高等學院在學
佐久間榮一	印旛	成田	實業
澤田演男	同	中郷	實業
木内武之助	同	成田	千葉中學補習科在學
三橋茂	同	成田	慶應義塾商科在學
宮内實	同	八生	實業
鹽田俊夫	同	布鎌	千葉中學補習科在學
篠原精一	同	富里	
篠原正三	同	中郷	
日暮茂	同	中郷	物理學校在學
日暮正市	同	安食	
一鍬田芳郎	同	中郷	千葉師範二部在學
管沼仁兵衛	同	富里	
諏訪原達衛	同	八生	實業
鈴木覺祐	同	中郷	

江森已之助	印旛	成田	（四年ヨリ靜岡高等學校入學 明年度ヨリ本校卒業生ニ准ズ）
鈴木一	同	成田	（四年ヨリ明治大學豫科入學 明年度ヨリ本校卒業生ニ准ズ）

露光量違いの為重複撮影

成田高等女學校一覽

學歷……一
教育方針及施設概要……一
沿革略……一
昭和七年度重要記事……三
學則……三
職員表……六
成田山女學校卒業生人名……七
卒業生人名現況表……七
現在生徒及卒業生郡別表……二六
經費總計表……二六

卒業生及生徒郡別表

昭和八年五月現在

	五學年		四學年		三學年		二學年		一學年		計	卒業生
	A組	B組	A組	B組	A組	B組	A組	B組	A組	B組		
印旛	一七	二〇	二四	二一	三〇	三〇	二九	二七	三二	三四	二六四	八一三
香取	二	二	二				一	一	一		九	八四
山武		四		一		一	一	三	二	一	一三	六七
千葉						一		一			二	五
市原												四
東葛飾	一										一	二
匝瑳												五
海上												一
長生												五
夷隅												三
君津			一								一	三
安房				一							一	七
他府縣	四		一	一	一	一	二	一	一		一一	八八
計	二四	二六	二八	二四	三二	三二	三三	三三	三五	三五	三〇二	一、〇八七

經費

年度	俸給	雜給	需用費	雜費	賞與	營繕費	合計
昭和七年度決算	二四七、一五〇、〇〇〇	二、四五〇、一七〇	一、六四五、二〇〇	四、二四八、四四〇	三、四七三、六〇〇	四、〇一六、二五〇	四〇、五四八、六六〇

露光量違いの為重複撮影

成田高等女學校一覽

學歷……
教育方針及施設概要……一
沿革略……一
昭和七年度重要記事……三
學則……三
職員表……六
成田山女學校卒業生人名……七
卒業生人名現況表……七
現在生徒及卒業生郡別表……二六
經費統計表……二六

經費

年度	俸給	雜給	需用費	雜費	賞與	營繕費	合計
昭和七年度決算	二四七、一五〇、〇〇〇	二、四五〇、一九〇	一、六四五、二〇〇	四、二四八、四四〇	三、四三三、六〇〇	四、〇一六、二五〇	四〇、五四八、六六〇

卒業生及生徒郡別表

昭和八年五月現在

	五學年 A組	五學年 B組	四學年 A組	四學年 B組	三學年 A組	三學年 B組	二學年 A組	二學年 B組	一學年 A組	一學年 B組	計	卒業生
印旛	一七	二〇	二四	二一	三〇	三〇	二九	二七	三二	三四	二六四	八一三
香取	二	二	二				一	一	一		九	八四
山武		四		一		一	一	三	二	一	一三	六七
千葉								一			二	五
市原					一							四
東葛飾	一										一	二
匝瑳												五
海上												一
長生												五
夷隅												三
君津			一								一	三
安房				一							一	七
他府縣	四		一	一	一	一	二	一	一		一一	八八
計	二四	二六	二八	二四	三二	三二	三三	三三	三五	三五	三〇二	一、〇八七

露光量違いの為重複撮影

學歷

昭和八年度

第一學期　自四月一日至八月三十一日
第二學期　自九月一日至十二月三十一日
第三學期　自一月一日至三月三十一日

四月

五日　始業式、入學式、新入生父兄會
六日　午前八時十分始業
中旬　教授豫定記入
中旬　身體檢査
二十九日　天長節祝賀式
下旬　口腔檢査

五月

上旬　遠足四、三、二、一學年
二十七日　海軍記念日

七月

十八日　第一學期授業終
二十日　成績發表、終業式

九月

一日　始業式
上旬　授業豫定記入
下旬　三、四學年志望調査

十月

中旬　校友會學藝部會
下旬　遠足四、三、二、一學年

十一月

三日　明治節祝賀式
四日　明治節體育デー
上旬　縣下中等學校女子競技大會

十二月

二十一日　第二學期授業終
二十四日　成績發表終業式
同　校友會雜誌原稿募集
二十五日　大正天皇祭

一月

一日　新年祝賀式
九日　始業式
中旬　教授豫定記入
中旬　來學年度教科書選定

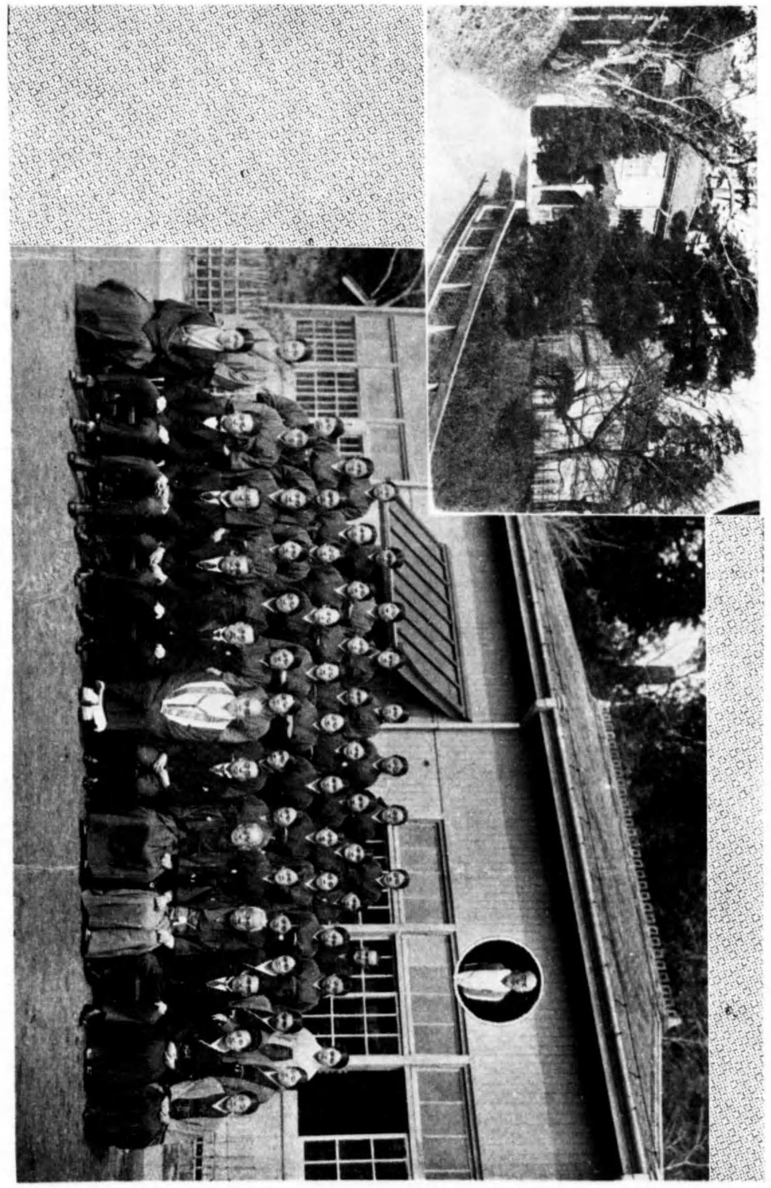
二月

十一日　紀元節祝賀式
十三日　創立記念祝賀式
同日　校友會學藝部會

三月

六日　地久節祝賀式
十日　陸軍記念日
十二日　第三學期授業終
十五日　成績發表、終業式
十八日　證書授與式
未定　入學考査及成績發表

成田高等女學校



生業卒同三十三第及員職教

露光量違いの為重複撮影

昭和八年度

學歴

第一學期　自四月一日至八月三十一日
第二學期　自九月一日至十二月三十一日
第三學期　自一月一日至三月三十一日

四月

五日　始業式、入學式、新入生父兄會
六日　午前八時十分始業
中旬　教授豫定記入
中旬　身體檢査
二十九日　天長節祝賀式
下旬　口腔檢査

五月

上旬　遠足四、三、二、一學年
二十七日　海軍記念日

七月

十八日　第一學期授業終
二十日　成績發表、終業式

九月

一日　始業式
上旬　授業豫定記入
下旬　三、四學年志望調査

十月

中旬　校友會學藝部會
下旬　遠足四、三、二、一學年

十一月

三日　明治節祝賀式
四日　明治節體育デー
上旬　縣下中等學校女子競技大會

十二月

二十一日　第二學期授業終
二十四日　成績發表終業式
同　校友會雜誌原稿募集
二十五日　大正天皇祭

一月

一日　新年祝賀式
九日　始業式
中旬　教授豫定記入
中旬　來學年度教科書選定

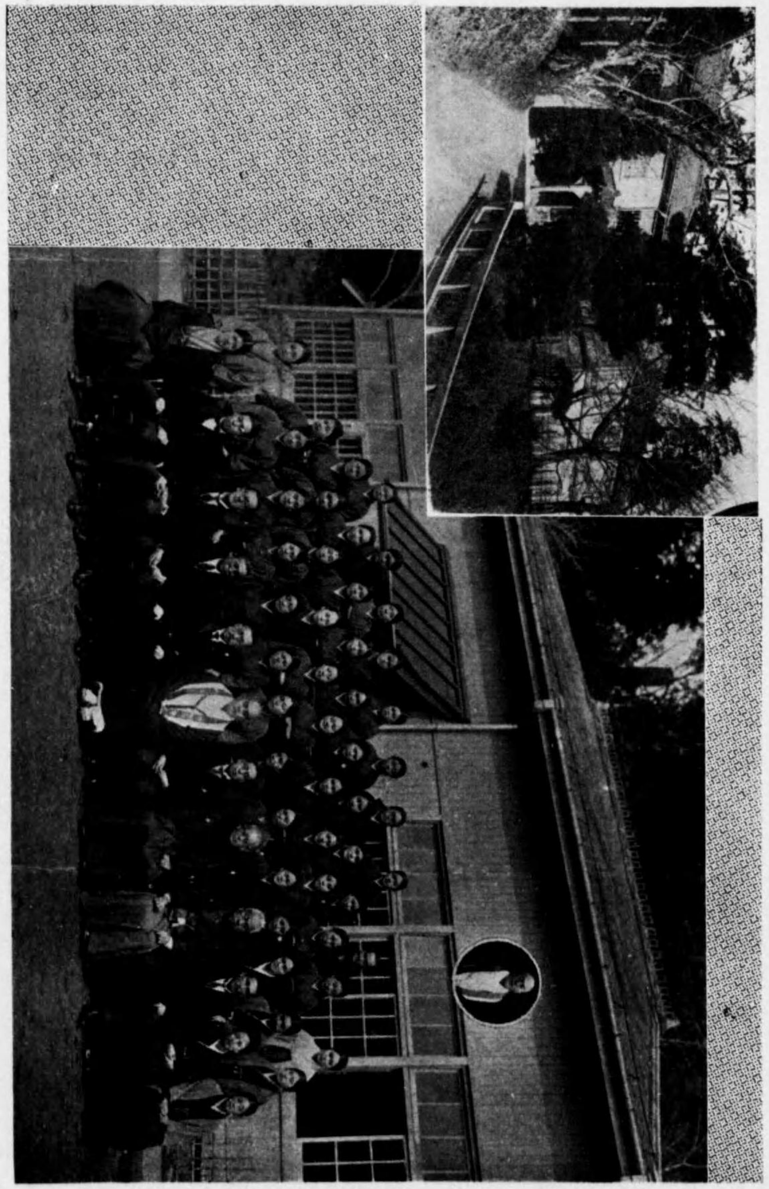
二月

十一日　紀元節祝賀式
十三日　創立記念祝賀式
同日　校友會學藝部會

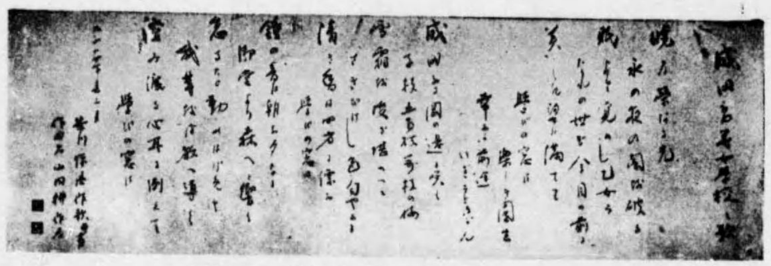
三月

六日　地久節祝賀式
十日　陸軍記念日
十二日　第三學期授業終
十五日　成績發表、終業式
十八日　證書授與式
未定　入學考査及成績發表

成田高等女學校



生業卒回二十二第及員職教

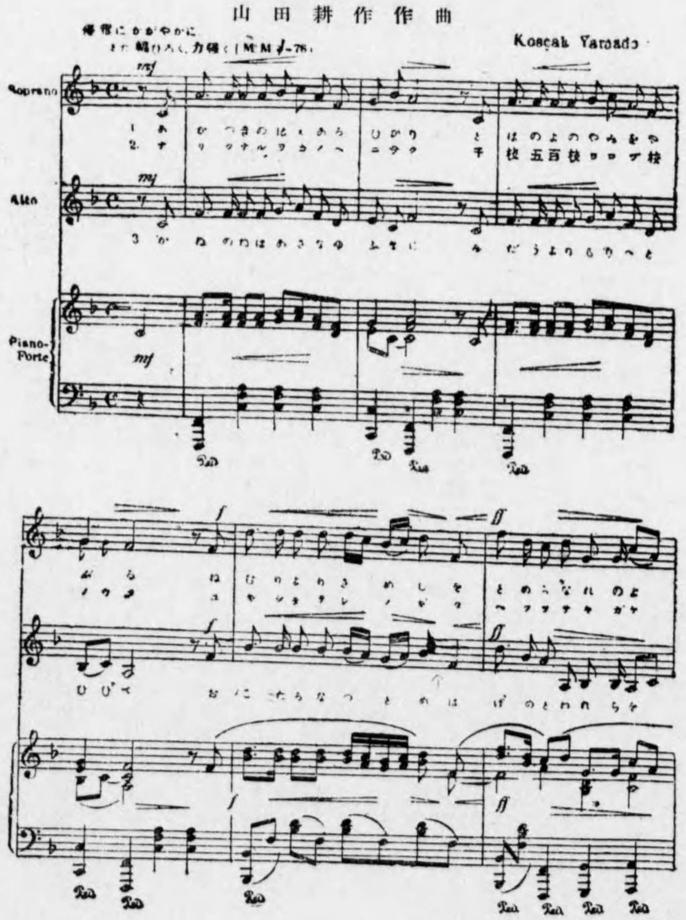


第十三回卒業生寄贈

成田高等女學校々歌

笹川臨風作歌

山田耕作作曲



成田高等女學校々歌

笹川臨風作歌
山田耕作作曲

曉の榮ある光
永の夜の闇を破る
眠より覺めし乙女ら
なれの世ぞ今目の前に
美しき望は滿てり
學びの窓は樂しき園生
幸ある前途いざこゝほがん

成田なる岡の邊に咲く
千枝五百枝萬枝の梅
雪霜を凌ぎ堪へつゝ
さきがけし色匂やかに
清き香は四方に漂ふ
學びの窓は……
幸ある前途……

鐘の音は朝な夕なに
御堂より森へこゝ響く
怠るな勤めはげめと
我等をば教へ導く
澄み渡る心耳に冴えて
學びの窓は……
幸ある前途

私立成田高等女學校一覽

◎教育方針及び施設概要

本校は成田山の經營に屬すゝ雖も確實に高等女學校令に準據し、絶對に宗教的布教宣傳の機關に供せず。專ら社會奉仕を目的として、國民教育の一部を負擔するものなり。

本校の教育方針は、教育勅語の御聖旨を服膺して、飽くまで其の實行を期し、學業を勵み、淑德を修め、女子の本分を遵守せしめ、成田山事業の精神に鑑み質實勤儉を旨として心身の鍛錬を忘らず、以て他日の社會奉仕を心掛けしむるにあり。

本校の經營たる、素より營利事業にあらざれば、成る可く父兄の負擔を輕減するのみならず、學資支辨に困難なる者の爲には、貸費、若しくは補助制度あり、奬學の爲には特待生、優等賞、精勤賞、等の制を設け學科に於ても正科の外、隨意科として手藝挿花、茶の湯、按摩を課し、體操科には薙刀を加へ形式を通じて武士道の精神を體得せしめ、音樂科にもオルガン數基の外、ピアノ二基を備へ、生徒に指導練習せしめ、創立記念日唱歌及校歌を制定して、本校の理想を明示し、併せて温雅優美の思想を涵養するに努む。

（昭和八年四月現在）

◎沿革略

本校は元私立成田山女學校と稱し明治四十一年四月の創立に係り明治四十四年二月文部大臣の認可を得て成田高等女學校と改稱す所謂成田山事業の一にして校主兼校長たりし故成田山貫主石川大僧正の後を承け現貫首名譽校長荒木僧正慈心の下に生々發達しつゝあるものなり。

本校に理事ありて校主校長を補佐す石川甚兵衛、三橋金太郎の二氏は即ち其人にして石川理事現に專務たり。

明治四十四年二月十三日文部大臣より本校設立の認可を受けてより爾後の沿革は左の如し

一　明治四十四年三月廿一日本校校則を制定す
一　同　四月一日成田中學校教諭中島喜一（高等師範學校出身）校務主監兼教諭に任ぜらる
一　同　四月一日、二日の兩日を以て二、三、四學年の編入試驗を行ふ
一　同　四月五日生徒八十四名に入學を許可し之を本科第四學年以下の學年に分編し、同日始業式を行ふ

一明治四十五年三月第一回卒業生を出し　千葉縣知事臨席す
一明治四十四年十二月增築に着手せし講堂兼雨天體操場、理科教室普通教室等工を竣へ大正元年十一月より使用したり
一大正二年三月第二回卒業生を出す
一大正二年九月校務主監兼教諭中島喜一休職を命ぜらる
一同　十月理學士菅野皆可校務主監兼教諭に任ぜらる
一大正三年三月第三回卒業生を出す
一大正四年三月第四回卒業生を出せり
一大正五年三月第五回卒業生を出す
一大正六年三月第六回卒業生を出せり
一同　十一月校務主監兼教諭菅野皆可休職を命ぜらる
一同　十一月文學士中村安之助校務主監兼教諭に任ぜらる
一大正七年三月第七回卒業生を出せり
一大正八年三月第八回卒業生を出せり
一大正八年十月中村校務主監死去
一大正八年十二月文學士矢野太郎校務主監に任ぜらる
一大正九年三月第九回卒業生を出す
一大正十年三月第十回卒業生を出せり
一大正十一年三月第十一回卒業生を出せり
一大正十二年三月第十二回卒業生を出す
一大正十二年十二月校務主監兼教諭矢野太郎依願解職を命ぜらる
一大正十三年一月校主兼校長石川大僧正御遷化
一大正十三年二月成田山貫主荒木僧正校主の認可を受く
一大正十三年二月文學士笹川種郎校長に任ぜらる
一大正十三年三月第十三回卒業生を出す
一大正十三年五月神奈川縣立横濱第一中學校教諭佐藤國二校務主監兼教諭に任ぜらる
一大正十四年三月第十四回卒業生を出す
一大正十四年三月笹川文學士校長辭任
一大正十四年四月笹川文學博士顧問となる
一大正十四年三月校務主監佐藤國二校長兼教諭に任ぜらる
一大正十四年七月理事小野寺清三郎死去
一大正十五年三月第十五回卒業生を出す
一昭和二年三月第十六回卒業生を出す
一昭和二年三月校主荒木僧正を名譽校長に推戴す
一昭和二年四月理事三橋重郎兵衛病氣の爲隱退す
一昭和三年三月第十七回卒業生を出す
一昭和四年三月第十八回卒業生を出す
一昭和五年三月第十九回卒業生を出す
一昭和六年三月第二十回卒業生を出す
一昭和七年三月第二十一回卒業生を出す
一昭和八年三月第二十二回卒業生を出す

◎昭和七年度重要記事

四月　五日　入學式、始業式擧行
四月　六日　渡貫教諭新任披露
四月　廿二日　留岡學務部長視察
四月　廿三日　軍人勅諭御下賜五十周年式擧行
四月　廿五日　生徒身体檢査施行
四月　廿九日　天長節祝賀式擧行
五月　六日　全校生徒松戸園藝學校及兵營見學
五月　廿四日　口腔檢査施行
六月　四日　三須齒科醫ノ口腔衞生講話
九月　廿四日　慰靈祭擧行
九月　廿七日　岡田本縣知事來校
十月　十七日　縣下女子競技會ニ參加
十月　三十日　教育勅語奉讀式擧行
十一月　三日　明治節擧行
十一月　五日　各級競技大會開催
一月　一日　四方拜祝賀式擧行
二月　十三日　創日記念式及學藝部大會開催
三月　十五日　學年成績發表及青木教諭の告別式
三月　十八日　第廿二回卒業式擧行
三月　廿二日　廿三日　入學考査五十二名に對し入學を許可す

◎學　則

第一章　總　則

第一條　本校の修業年限は本科四箇年とす
第二條　生徒定員は二百人とす
第三條　休業日左の如し
一、祝日、大祭日
二、日曜日
三、皇后陛下御誕辰
四、記念日二月十三日
五、夏季休業七月廿日より八月卅一日に至る
六、冬季休業十二月廿六日より翌一月七日に至る

第二章　學科課程教授時數

第四條　本校の學科目に編物袋物挿花按摩茶の湯を加へ隨意科目とす
第五條　學科課程及び教授時數左の如し

學科目＼年	第一學年 毎週時數	第二學年 毎週時數	第三學年 毎週時數	第四學年 毎週時數
修身	二 人倫道德ノ要旨、作法	二 同 上	一 同 上	一 同 上
國語	六 講讀、習字、文法、作文	六 同 上	五 同 上	五 講讀、作文、漢文
英語	三 讀方、譯解、書取、習字	三 同 上	三 讀方、譯解、書取、文法、作文	三 同 上
歷史	三 本邦歷史	三 同 外國歷史 上	二 同 外國歷史 上	二 同 地理通論 上
地理	本邦地理	外國地理 上		
數學	二 整數、小數、諸等數、球算	二 約數、倍數、分數、比例、代數初步、比例、歩合	三 代數初步、球算	三 開平、幾何初步、算
理科	二 植物、動物	前學年ノ續、生理衛生、鑛物 二	三 化學、物理	三 物理
圖畫	一 自在畫	一 同 上、幾何畫	一 同 上	一 同 上
家事		二 衣食住	四 家政、看病育兒等	
裁縫	四 縫方、裁方	四 同 上、繕方	四 同 上	四 同 上
音樂	二 單音唱歌	二 同 上	一 同 上 複音唱歌	一 同 上
體操	三 普通體操 遊戲	三 同 上	三 同 上	三 同 上
教育				一 理論ノ大要
計	二六	二六	二六	三二
編物袋物	(一) 編物	(一) 同 上	(一) 袋物	(一) 同 上
挿花茶湯	(一) 挿花	(一) 同 上	(一) 茶湯	(一) 同 上
按摩			(一) 按摩	(一) 同 上

備考　編物袋物挿花茶湯按摩ヲ課外ニ於テ志望者ニ課ス

第三章　入學及退學

第六條　生徒募集は學校長期日學年及人員を定め之を公告すべし但時宜に依り臨時入學を許すことあるべし

第七條　入學志願者は本校所定の入學願書を差出すべし

第八條　一學年入學志願者に就いては小學校長の内申に基づき試問及身體檢査に依りて之を檢定す

第九條　前條の試問は小學校卒業程度に依りて之れを行ふ

第十條　第二學年以上に入學を許すべき者は相當年齢に達し學力檢定に合格したるものたるべし

第十一條　入學を許可せられたる者は在學証書に戸籍謄本を添へて差出すべし

（在學証書は印刷しあるを以て省略す）

第十二條　保證人は親權者若くは後見人又は親族にして一家計を立て本人に關し一切の責を負ふに足るべきものたるべし

第十三條　保證人の住所學校所在地より一里以内に在らざるときは一里以内に住所を有し一家計を立つる者を以て代理保證人と定め保證人連署の上之を學校長に屆出づべし

第十四條　學校長は必要と認むるときは保證人又は代理保證人を變更せしむることあるべし

第十五條　保證人若しくは代理保證人住所氏名を變更し又は改印したる時は直に學校長に屆出づべし

第十六條　生徒退學せんとするときは其理由を記し保證人連署の上學校長に願出づべし

第十七條　生徒病氣其の他止むを得ざる事由に由り三ケ月以上出席し難き時は期間を定め休學を願出づることを得但し期間は一ケ年間を超ゆることを得ず

第四章　修了及卒業

第十八條　各學科の課程の修了又は卒業を認むるには平素の學業成績を考査して定むべし

第十九條　卒業證書及修業證書は所定の形式に依る

第五章　授業料及入學料

第二十條　一、授業料は月額金三圓とし毎月十日迄に之を納め特に其期日を指定したる時は其當日之を納むべし

但毎年八月は之を徴收せず

二、入學志願者は入學考査料金壹圓を納附すべし

第廿一條　入學料は金壹圓とし入學許可の際之を徴收す

第六章　賞罰

第廿二條　品行方正學術優秀なる者は特待生として授業料の全部又は一部を免除し若くは賞品褒狀を與ふ

第廿三條　學校長は左の各項に該當する者には退學を命ず

一、性行不良にして改善の見込なしと認めたる者

二、成業の見込なしと認めたる者

三、出席常ならざる者

第廿四條　規則命令に違背し學校の風紀を害する者は其の輕重に依り戒飭停學又は退學に處す

第廿五條　生徒取締に關する規程は學校長之を定む

第七章　附則

第廿六條　本校則施行に關する細則及び其の他必要なる内規は學校長之を定む

◎職員

受持學科	職名	姓名	原籍	就職年月
	校主	荒木照定	千葉縣	大正十三年二月
	名譽校長			
	顧問	笹川種郎	東京府	大正十三年二月
	文學博士			
修身、歷史、	校長兼教諭	佐藤國二	新潟縣	大正十三年五月
數學	教諭	並木熙太	滋賀縣	昭和四年九月
英語、歷史、教育	教諭	太田和彥	長野縣	昭和六年九月
物理、博物、地理	教諭	綿貫幾久	千葉縣	昭和七年四月
圖畫、習字、英語	教諭	山内貞	千葉縣	昭和三年二月
家事、化學、地理	教諭	岡づし	千葉縣	昭和五年四月
裁縫	教諭	大木とし	千葉縣	昭和二年四月
裁縫、作法	教諭	小倉治子	千葉縣	昭和四年一月
體操	教諭	平山鋏子	千葉縣	昭和六年九月
國語、歷史	教諭	中野美津子	千葉縣	昭和六年四月
音樂	囑託教師	小山滿壽	東京府	昭和四年四月
挿花	同	櫻井文吉	千葉縣	大正十五年四月
按摩	同	酒井泰作	福島縣	大正十四年三月
	書記	伊藤總平	千葉縣	明治四十五年四月
	學校醫	山内平治郎	千葉縣	明治四十四年四月
	校醫（商科）	三須重五郎	千葉縣	昭和五年五月

◎成田山女學校卒業生人名

（明治四十四年三月）（イロハ順）（○ハ結婚ノ印）

○藤崎好（舊岩瀨）
伊藤きよ
石原みや
○幡谷もと（舊丸）
○長谷川りう
○長谷川きみ
戸塚ひさ
○小川とし
○小田垣近
○泉とみ（舊吉岡）
吉田とよ
田中あい
○杉山あい（舊上原）
大塚とく
○大木りう
○山野かよ
○若林きよ
○香取てい
○深栖喜久
○秋葉ふさ
○櫻井ハナ
木内けい
木内欣
三橋タイ
○菅澤いち
鈴木せき

◎卒業生人名現況表

（イロハ順）（○ハ結婚ノ印　×ハ死亡ノ印）

第一回卒業生（明治四十五年三月）（十名）

（岩瀨改）○藤崎好　印旛成田小學校教師
（幡谷改）○平井もと　同　成田
×田中あい　同　成田
（上原改）○本吉かね　同　成田
○大木りう　同　中郷
（丸改）○香取てい　同　公津
○山野かよ　同　成田

（木内改）。生田　欣　同　成田
×木内けい　同　成田
三橋妙子　同　中郷

第二回卒業生（大正二年三月）（十二名）

（池田改）。勝田ゆき　印旛中郷
池田みち　印旛成田
安房農學校女子部
。石原　靜　同　成田
（林　改）。川村ふく　同　八生
（渡邊改）。林　清喜　安房　湊
（加藤改）。竹村きん　印旛中郷
小學校教員
（田中改）。横山菊子　印旛成田
×竹村きく　同　富里
（中島改）。齋藤　朝　君津青堀
（大友改）。石井光子　宮城仙臺
（小林改）。武津キン　東京牛込
（秋葉改）。土屋ふで　山武城東

第三回卒業生（大正三年三月）（二十一名）

（伊藤改）。澤田ひさ　印旛八生
×。飯泉しげ　同　成田
。石原ひろ　同　同
（林　改）。谷田部ゆき　同　同
（幡谷改）。師岡　幸　同　同
（土井改）×永塚わき　同　埜原
。加藤あい　同　成田
（吉岡改）。鈴木てい　同　公津
（吉岡改）。鈴木とし　同　同
（谷平改）。平山かね　同　久住
（霧崎改）。荒木キク子　長生五郷
（成田改）。綿貫きよ　印旛佐倉
（武藤改）。渡邊さだ　同　永治
（大島改）。石橋のぶ　同　八生
。大須賀ゆう　同　安食
小學校教師
東京和洋裁縫學校卒業
（桑原改）。加藤くに　同　安食
小學校教師
（山下改）。藤崎たか　同　成田
（藤崎改）。茂木　包　同　富里
。佐竹和歌子　東京下谷
（宮崎改）。土屋けい　印旛成田
（鹽田改）×。北村菊代　同　布鎌

第四回卒業生（大正四年三月）（二十八名）

（岩井改）。大木美津　印旛安食
×。土井わか　同　公津
×。蕨　くに　同　公津
（綿貫改）。青柳うめ　茨城取手
（加藤改）。安田もと　印旛成田

神戸もと　同　成田
×川島フサ　同　富里
（竹村改）。鈴木しげ　同　富里
（根本改）。古川　菊　千葉椎名
（並木改）。打木すづ　印旛遠山
武藤きみ　茨城文
（猪野改）。松戸その　山武源
戸板裁縫女學校卒業
小學校教師
（平山改）。伊藤ゑい　印旛成田
。大竹たい　香取小御門
（大木改）。鈴木あやめ　印旛中郷
（黒川改）。行方りき　同　成田
小學校教師
（桑原改）。岩井なみ　同　安食
。山野いく　同　成田
（山田改）。土井滿喜　同　安食
（山田改）。柴宮よし　印旛八生
（山田改）。齋藤わか　同　豊住
小學校教師
增岡りき　埼玉藤田
。秋山うめ　印旛八生
東京高等師範學校保育科卒業
。天野眞知夷　隅大多喜
×淺倉みつ　印旛安食
湯村とよ　宮城仙臺
（宮内改）。篠原みや　印旛八生
。谷　とく　同　公津

第五回卒業生（大正五年三月）（二十六名）

（礫部改）。大野いく　印旛久住
石原ゆう　印旛成田
。飯倉きく　同　成田
。馬場ちよ　同　宗像
（土井改）。作羽内とし　同　六合
小川　敬　同　志津
。高橋きく　香取滑河
×上原こう　印旛成田
小學校教師
。野平吉野　同　豊住
（野平改）。横堀ゆき　同　豊住
東京裁縫女學校卒業
（大三川改）。尾形本子　香取多古
（大木改）。廣澤てい　印旛成田
（奥澤改）。染谷春野　同　白井
（山内改）。土肥德子　同　成田
。山本くに　同　安食
京增たか　同酒々井
和洋裁縫女學校卒業
日本女子大學卒業
（藤崎改）。相京くに　同　遠山
小坂ひめ　同酒々井
園城寺てい　同　公津
。齋藤こう　同　成田
。湯淺うら　同　八生
。三橋みち　同　富里

（三橋改）。東　たか　同　成田
平野　香根　市原高瀧
（關川改）。藤崎　凰　印旛成田
鈴木　けい　東葛飾明

東京共立女子職業學校卒業

第六回卒業生（大正六年三月）（二十九名）

×岩館かね　印旛遠山
（石原改）。原田やす　同　成田
（小川改）。吉原　晃　同　八生
萩原美子　同千代田
戸板裁縫女學校卒業
渡貫はる　同　根郷
（川口改）。森田ユウ　同　佐倉
（川崎改）。齋藤よし　同　公津
。吉岡豐子　同　成田
（高川改）。山崎綾子　同　成田
（露崎改）。上原君子　長生五郷
（夏海改）。岩井千代　印旛遠山
。大友らく　宮城仙臺
（武藤改）。江口ミヤ　印旛永治
×大木道子　同　成田
（大野改）。榎澤千代　同　旭
（國本改）。佐久間とし　同　富里
（山本改）。鈴木せき　同　豐住
。山田米　同　成田

戸板裁縫女學校卒業
東京女子高等師範學校保育科卒業
成田幼稚園保姆
（淺井改）。瀧澤よし　同　成田
（相京改）。後藤ひな　同　公津
。齋藤ヨシ　同　遠山
（京須改）。德田菊江　同　成田
。水野しま　同　成田
（宮川改）。寺口きよ　新潟　源
（篠田改）。石井喜久　茨城金江津
廣瀨てい　印旛成田
。諸岡米　同　成田
（須藤改）。五十嵐けよ　同　六合

佐倉大石裁縫女學校卒業
女子醫學專門學校卒業
千駄ヶ谷鐵道病院在勤

第七回卒業生（大正七年三月）（二十七名）

（岩井改）。石野ふぢ　印旛本埜
（岩井改）。近藤こう　同　大森
（石井改）。杉野ふい　同　豐住
（石川改）。日暮てい　同　成田
土井きく　千葉大和田
（土肥改）。鈴木はな　印旛公津
。土肥なつ　同　公津
。神崎りん　印旛遠山
。加藤千代　香取多古
（大德改）。横瀨三枝　印旛久住

日本女子大學卒業

。谷　よし　同　公津
（玉村改）。三橋千代　茨城布川
。山口ふじ　印旛成田
（山田改）。岩井よし　同　豐住
。藤崎いし　同　遠山
。小林とし　同　阿蘇
小坂てる　同酒々井
（後藤改）。高橋とき　同　安食
（遠藤改）。石井はる　同　公津
。筋　慶子　同酒々井
（深山改）。押尾とく　同　六合
（宮內改）。丸　きよ　同　八生
（宮內改）。石橋三千江　長生一松
。檜垣千代　印旛久住
×關川利子　同　成田
。諏訪原てる　同　久住
。鈴木きよ　同　成田

小學校教師

小學校教師

第八回卒業生（大正八年三月）（三十二名）

。五十嵐ゆき　東葛飾布佐
石原つや　印旛四街道
（石上改）。梶谷　圭　海上瀧郷
（汚田改）。北村喜代　福岡城內
長谷川よし　埼玉小林
。岡部雪子　三重蒲田
（小川改）。伊藤はつ　印旛八生
×小川喜美　東京淺草
。小川喜以　印旛八生
×勝田ふみ　同　安食
（吉田改）。諸岡のぶ　同　公津
。瀧澤喜久　同　成田
（高川改）。東種子　安房北三原
中村はる　印旛成田
（中島改）。加勞清子　長野西寺尾
。上野直枝　東京麻布
。大久保しげ　印旛本埜
（大川改）。石橋さい　同　成田
（山田改）。加藤みつ　同　豐住
。山田滿壽　同　安食
。山內登波子　同　成田
（山內改）。佐野泰子　印旛成田
（藤崎改）。小倉三代　千葉更科
。福田とら　印旛成田
（淺井改）。石岡いし　同　成田
（坂本改）。伊藤はま　茨城文間
。湯淺　達　印旛八生
。島田　惠　同酒々井

小學校教師

小學校教師

東京共立女子職業學校卒業

東京女子高等師範學校卒業

（日暮改）。佐藤てい　同　中郷
。清宮いつ　同　八生
（本橋改）。小島こう　同　本埜
（關川改）。原　郁　同　成田

前橋高等女學校教諭

第九回卒業生（大正九年三月）（三十一名）

女子醫學專門學校卒業

。岩館やす　印旛成田
（石井改）。木下やす　同　酒々井
（石井改）。鶴岡タケ　同　遠山
（伊藤改）。石井喜代　同　富里
（伊藤改）。野坂てる　同　成田
。飯田敏子　茨城八原
（池田改）×菊地きよ　印旛富里
（土井改）×小出とみ　同　公津
（土井改）×岩井とし　同　公津
。大木とし　印旛成田
（小川改）。藤崎きよ　同　公津
。小川かく　同　公津
（小川改）。山田靜　同　八生
。香取操　同　船穂
（川上改）。笠井謙　同　白井
。加瀨はな　同　酒々井
（竹村改）。林田きみ　同　富里

成田高等女學校教諭

小學校教師

和洋裁縫女學校卒業

小學校教師

小學校教師

。根本テル　同　豊住
（仲山改）。本多千代　同　公津
×宇井幾久子　同　成田
（山田改）。塚本喜代　同　八生
山本こう　山武目向
。清水貞子　印旛成田
（山本改）。石田しげ　同　和田
（福田改）。小倉光子　同　酒々井
。小林せい　同　白井
。寺内三枝　同　成田
。坂田コウ　同　富里
。宮島頼子　同　大森
（三須改）。高知衣　同　川上
。杉田はな　印旛安食

小學校教師

東京津田英學塾卒業

大阪府立原尼高女教諭

第十回卒業生（大正十年三月）（二十六名）

石川婦久　印旛成田
。伊東とも　山武上堺
（林改）。湯淺君代　印旛八生
。島村サト　山武松尾
（小川改）。根本てい　印旛公津
。小野寺千代子　同　成田
。高田よし江　安房稲都

小學校教師

東京共立女子職業學校卒業

東京裁縫女學校卒業

東京女子高等師範學校保育科卒業

成田幼稚園保姆

（神崎改）。遠藤あい　印旛遠山
。吉岡きやう子　同　木下
（谷改）。檜垣うめ　同　公津
（中山改）。木村たつ　同　成田
。中越加津子　同　成田
。葛生かつ　同　安食
（山田改）。岩瀨布知　同　八生
（山田改）。藤崎せい　同　八生
×中野哲子　香取高岡
×松田さだ　印旛成田
×丸みち　同　公津
（古田改）。湯淺千代　東葛飾布佐
。中野愛　茨城金江津
（後藤改）。鈴木たま　印旛安食
。篠田みつ　同　遠山
（遠藤改）。石井ゆう　同　公津
（須藤改）。富井靜子　同　六合
（鈴木改）。守永好枝　茨城布川
（鈴木改）。佐山いく　印旛六合

小學校教師

帝國女子專門學校卒業

女子醫學專門學校卒業

第十一回卒業生（大正十一年三月）（三十八名）

（石橋改）。伊藤喜代　印旛成田
（飯倉改）。片山ひさ　同　成田
×秦野とく　同　公津
（堀改）。難波千代　東京大久保
（堀内改）。清岡三鶴　高知津呂
。大木みつ　印旛八生
。加藤くに　同　八生
。神崎やす　同　遠山
×川村長子　同　成田
。川島まつ　同　酒々井
。田中はな　茨城龍崎
。高橋こと　印旛大森
（高川改）。深見興子　安房北三原
（谷改）。秋山すい　印旛公津
竹村嘉代　同　富里
×増淵才　同　安食
小倉松　同　成田
×黒田くに　同　成田
山本たか　同　安食
（山田改）。小倉てい　同　八生
（矢野改）。二瓶敬愛久米
。藤崎しん　印旛遠山
。藤崎鈴　同　遠山
。横井たい　同　酒々井

小學校教師

東京女子高等師範學校專攻科卒業

東京女子職業學校卒業

東京裁縫女學校卒業

藤崎ふみ　同　遠山
小坂とめ　同酒々井
千葉女子師範二部卒業
○寺本きみ　同　八生
○齋藤たけ　市原八幡
×齋藤てい　印旛遠山
○佐瀨より　同　八生
（湯淺改）○神崎はな　同　八生
○宮崎秀子　長生八積
小學校教師
○篠原芳枝　印旛木下
東京女子美術學校卒業
（日暮改）○西谷トミ　同　中郷
（泉對改）○石井ヒロ　千葉豊富
小學校教師
菅　壽美　匝瑳椿海
（鈴木改）○竹尾とし　印旛成田
（鈴木改）○松崎　錦　秋田本莊

第十二回卒業生（大正十二年三月）（三十九名）

○伊藤きわ　印旛中郷
（岩井改）○瀧田淑子　同　大森
保姆
○井浦多美　香取小見川
（石橋改）○荒井なか　印旛成田
×飯沼つね　同酒々井
○石原とみ　同　富里
東京共立女子職業學校卒業
（林改）○腰川八千代　同　八生

○原　えつ　同　佐倉
○細川喜代　同　遠山
○土井ゑい　同　公津
（土井改）○野平きい　同　公津
○土井よし　同　公津
岡田はな　東葛飾布佐
○大澤しげの　印旛本埜
○大木美代　同　八街
○小野寺シゲ　同　成田
○小倉茂子　同　成田
（太田改）○大野鹿子　同　公津
勝田　俊　同　八生
×海保けい　茨城令江津
（吉橋改）○海保きん　印旛　旭
○椿　たき　香取滑河
（並木改）○三屋菊子　印旛遠山
○鵜澤喜代　山武蓮沼
○山本くに　印旛八生
山本佐多　同　和田
○増田温子　同　成田
（京増改）○小川はる　同酒々井
（藤崎改）○林　まつ　同　安食

小學校教師
（後藤改）○内藤瑞子　同　八生
小池よし　同　遠山
小學校教師
（安達改）○藤崎靖子　同　遠山
相京いく　同酒々井
小學校教師
○秋山ツヤ　同　中郷
櫻井けい　香取小御門
×島田輝代　印旛酒々井
平野和子　同　八生
京都同志社在學
○平山まさ　同　成田
○平山はつ　同　成田

第十三回卒業生（大正十三年三月）（四十七名）

（石川改）○今井たけ　印旛成田
岩田とみ　同　布鎌
石原節　同　安食
○豊田登代　同　成田
（土井改）○増淵てい　同　公津
及川ナカ　匝瑳　桑
岡田けい　印旛本埜
小學校教師
○大木まつ　同　中郷
（大久保改）○大須賀ちか　同　本埜
（小川改）○北村貞女　同　八生
小學校教師
○小川ふじ　同　八生

綿貫稜子　同酒々井
片岡とめ　印旛成田
吉岡　誠　同　中郷
玉村ハナ　茨城布川
（高槻改）○馬場洋子　福島木幡
×高橋しのぶ　香取滑河
瀧澤喜代　印旛成田
○中島さき　同　安食
○仲山せい　同　公津
（野口改）○田中とき　同　豊住
（山田改）○神崎かつ　同　成田
（山内改）○榎本聰江　同　成田
○山口ひで　同　八生
（松田改）○大竹ふく　同　成田
増田とき　香取加藤津
（藤原改）○居城せつ　同小御門
船橋つね　印旛成田
紺谷滿枝　同　成田
○小泉繁子　同　成田
秋山みつ　同　八生
坪井むつ　香取高岡
相京タケ　印旛公津

小學校教師
小學校教師
小學校教師
小學校教師
日本女子大學校家政科卒業
小學校教師

齋藤あい　同　遠山
齋藤きよ　同酒々井
×佐伯とみ　長生土睦
○湯淺ゆう　印旛八生
○湯淺つね　同　八生
×三橋孝子　同　成田
（宮川改）○長竹幾子　同酒々井
宮内はる　同　八生
島田清　同酒々井
（平山改）○伊藤とし　香取多古
（關川改）○淺尾昭　印旛成田
鈴木とし　同　公津
○鈴木つる　茨城布川
菅谷とし　同　白鳥

女子職業學校卒業

東京女子大學校卒業
和洋裁縫女學校卒業

小學校教師

第十四回卒業生（大正十四年三月）（四十四名）

×石井かつ　印旛富里
×岩館はる　同　成田
○飯田ちよ　茨城金江津
○伊藤みつ　印旛八生
石橋あき　同　中郷
林しめ子　印旛成田
○長谷川のぶ　同　成田

體操學校卒業
女子藥學校在學
女子職業學校卒業（成田高女教諭）
○小倉治子　印旛成田
小倉まさ　同　富里
×大木ヤキ　同　中郷
○大木ゆき　同　八生
小川春子　同　八生
大竹かね　同　富里
竹尾きよ　印旛和田
中野美津子　香取高岡
（永田改）○蝦原順子　印旛成田
○野島律　同　豐住
牧野とし　同　成田
○丸よし　同　公津
（京須改）○汪八重　同　成田
藤崎けい　同　遠山
○藤倉しげ　同　成田
（古川改）○吉川壽　同　成田
（小林改）○田中はる　茨城金江津
越川富美子　印旛木下
後藤てる　印旛八生
○小川歌　同　安食
遠藤ゆき　同　公津

小學校教師

大澤敦　同　八生
岡田喜美　埼玉興野
○小倉治子　印旛成田

櫻井女塾卒業

和洋裁縫女學校卒業

（手島改）○神戸せつ　同　遠山
秋山ふさ　同　八生
相川とく　同　公津
×青柳のぶ　同　公津
齋藤きよ　同　公津
坂田信　同　富里
木内つね　同酒々井
○湯淺てい　同　八生
莊司つる　同　成田
○諸岡ます　同　成田
○野村益代　同　成田
關口しげ　同　久住
鈴木こと　同　富里
齋藤いと　同　木下

小學校教師

第十五回卒業生（大正十五年三月）（四十五名）

石橋たみ　印旛成田
石橋つたい　香取滑川
石橋とよ　印旛中郷
石原せつ　印旛富里
石川せつ　同　富里
（伊藤改）○大塚千代　同　白井
池田頼子　山武千代田

和洋裁縫女學校卒業
土岐裁縫女學校卒業
小學校教師
臨時教員養成所卒業
女子高等學園卒業
女子師範第二部卒業小學校教師
女子師範專攻科卒業
女子師範保育科卒業
小學校教師

今井春子　印旛成田
堀江智惠　同　成田
戸村千代　同　和田
小川つぎ　同　八生
小川みち　同　公津
小倉梅　同　成田
小野寺アイ　同　成田
小倉とり　同　成田
渡邊愛　同　戚田
加藤きん　同　成田
勝田倭　同　安食
吉岡たか　同北須賀
多田喜代　同　公津
高橋さゆり　香取滑川
高橋さだ　茨城金江津
野々宮みつ　印旛成田
葛生千代　同　久住
柳本喜惠子　印旛成田
山崎きく　同　豐住
淺井壽　同　成田
麻生菊枝　山武千代田
青木こう　印旛本埜

茨城女子師範二部卒業
青山まつ 茨城金江津
佐久間かつ 印旛成田
佐伯智惠子 同 成田
（木村改）。山崎よし 香取多古
木下けい 印旛成田
龍崎しづ 同 遠山
。湯淺公巳 同 八生
湯淺みつ 同 八生
椎名 靜 同 大森
柴崎ゆき 同 大森
。平山いち 同 成田
檜垣 穎 印旛久住
森谷ミネ 同 成田
菅谷幾世 同 成田
鈴木とみ 同 成田
鈴木喜惠 同 船穂

家政學院卒業
小學校教師
林田まき 印旛成田
（豊田改）。久保田喜美 同 成田
大竹さと 同 富里
大久原 節 同 成田
勝田よし 同 八生
平山ミツ 同 安食
吉岡 薫 香取滑川
高橋あゑ 印旛公津
高橋よね 同 成田
瀧澤由子 同 成田
中島こと 印旛成田
中野雪子 香取大和田
桑原 栄 印旛久豊
古矢春子 同 成田
藤倉さだ 同 成田
荻原あい 同 豊住
。小倉みち 同 八生

第十六回卒業生（昭和二年三月）（四十六名）
（石井改）。岩澤イワ 印旛豊住
砂原あや子 同 富里
岩澤利子 同 遠山
岩瀨かつ 同 成田
。伊藤登美 同 永治

女子高等學院在學
女子美術學校卒業
女子職業學校卒業
千葉高女家庭科卒業
千葉高女家庭科卒業
小學校教師
實踐女學校專門部卒業
和洋裁縫女學校卒業
小學校教師
（小倉改）。戸田タヶ子 同 成田
（渡邊改）。佐藤すま 同 成田
渡邊よし 同 成田
（渡邊改）。木原ゆき 同 成田
。荒木淑 印旛八生

大妻裁縫女學校卒業
片岡てる 香取多古
（片岡改）。木内いく 印旛遠山
神崎榮 同 遠山
福田やす 茨城金江津
秋山テル 印旛中郷
。秋山はる 同 八生
内田愛 同 千代田
寺内八重 同 成田
（堺改）。加藤けい 同 成田
坂田りう 印旛富里
齋藤よし 同 公津
齋藤なみ江 同 公津
木内ふじ 香取多古
湯淺とし 印旛八生
×水野愛子 同 成田
宮田節 同 成田
平山しづ 香取多古
（諸岡改）。藤倉貞子 印旛成田
諸岡琴子 同 成田

土岐裁縫女學校卒業
×石川文枝 同 成田
伊藤はる 同 遠山
飯塚まつ 同 成田
林花子 同 成田
土肥みさを 同 公津
鳥居薫 同 成田
小川くに 同 公津
小川のぶ 同 中郷
小倉豊 同 成田
小倉えい 同 成田
（太田改）。小田垣愛和夫 同 公津
（大島改）。大竹春江 同 八生
×荻原とみ 同 豊住
渡邊つる 同 成田
神戸光子 同 成田
加藤カッヱ 同 公津
×加藤なみ 同 遠山
海保富美代 茨城金江津
多田光子 印旛公津
（大德改）。幸田愛子 印旛成田
竹尾ます 同 酒々井
長竹勅子 同 成田
野口七五三 同 豊住

女子美術學校卒業
千葉高女家庭科卒業

第十七回卒業生（昭和三年三月）（四十九名）
石川きく 印旛成田
石川ちか 同 遠山

葛生つる　同　安食
久保庭菊江　同　成田
那司和歌子　同　遠山
矢村仁枝　同　公津
矢村美都江　同　公津
山田とよ　同　八生
山本雅子　同　成田
幼稚園保姆
○山本幸　同　安食
丸千代　同　公津
（增淵改）
山田英子　同　成田
藤江和子　同　安食
藤崎こと　同
圓城寺つね　同　公津
青木トク　同　本埜
×秋山弘　同　冨里
佐久間ふみ　同　成田
小學校教師
木内しげ　同　成田
湯淺ちい　同　八生
湯淺つる　同　八生
（清水改）
○間中文代　同　遠山
島田治子　同　成田
鈴木志津　同　成田
鈴木隆子　同　木下
鈴木ぎん　茨城布川

第十八回卒業生（昭和四年三月）（四十七名）

小學校教師
池田いく　印旛安食
（石橋改）
○大木はつ　同　成田
伊藤千代　同　八生
稲葉文子　印旛公津
遠藤くに　同　公津
本多ちよ　同　遠山
細川喜美　同　遠山
堀江正子　同　成田
小野寺キク　同　成田
小山マス　同　六合
大木貞子　同　成田
渡邊もと　同　成田
松本まさ　同　安食
勝又千代　同　遠山
吉岡きみ　同　公津
高久繁　同　安食
高川春野　同　成田
谷信　同　公津
根本敏子　同　豊住
佐倉大石裁縫女學校卒業
小學校教師
小學校教師

（成島改）
○古池きい　同　大森
○宇島みさを　夷隅國吉
郡司秀　香取日吉
黒川喬　印旛成田
山田包子　同　公津
山口精　東京
藤崎きく　印旛成田
藤崎のぶ　同　安食
藤崎千代　同　成田
越川春江　同　遠山
小林富子　同　成田
宮下有年子　同　遠山
荒井たまほ　同　布鎌
吉岡節　同　中郷
坂本富美代　香取滑川
坂田米　印旛富里
菊地喜代　同　公津
○木内とよ　香取滑川
湯淺きよ　印旛公津
三橋壽子　同　公津
新橋千代　同　成田
（白田改）
○柿崎キワ　山形大谷
和洋裁縫女學校卒業
大妻技藝學校高等家庭科卒業
佐倉伊藤裁縫女學校卒業
日本女子大學校卒業
小學校教師
東京英學塾在學
日暮環　印旛成田
瀬尾ふく　同　安食
鈴木きい　同　公津
鈴木秋江　同　公津
鈴木ふぢ　同　成田
鈴木君江　同　公津
佐倉高等女學校補習科

第十九回卒業生（昭和五年三月）（四十七名）

石井八千代　印旛布鎌
稲垣シゲ　同　成田
伊藤久子　同　成田
伊藤清子　同　木下
池田百子　同　遠山
五十嵐はる　同　木下
飯岡文　同　豊住
土井しづ　同　公津
土肥こう　同　公津
加藤きよ子　同　中郷
勝田すま　同　安食
吉岡九重　香取滑河
瀧澤ひさ　印旛成田
武田まさ　同　八生
根本せつ　香取滑河

根本ふで　印旛成田
成毛喜美枝　同　豊住
宇佐見智意　同　中郷
小川志津江　同　公津
小川あい　同　成田
小川きくえ　同　成田
小川けい　同　遠山
小倉とし　同　八生
小高ふよ　同　公津
桑原あい　同　布鎌
○山田きん　同　豊住
山田はる子　同　成田
×藤崎貞子　同　遠山
藤田好　同　八生
後藤よね　同　八生
後藤正子　同　八生
相京サダ　同　公津
淺野ふみ　同　中郷
佐久間やす　同　成田
（木内改）○石川よね　同　成田
×湯淺孝子　同　八生
湯淺きみ　同　八生

小學校教師

宮内たけ　同　八生
水野鶴子　同　成田
下村妙　同　八生
新橋美子　同　成田
平山はな　香取多古
平間きみ　同　同
廣瀬はん　同　同
泉水志滿　印旛公津
鈴木美江　同　公津
鈴木かつ　同　成田

第二十回卒業生（昭和六年三月）（四十三名）

小學校教師

伊藤千代　印旛遠山
八田羽ヨウ　同　安食
長谷川すみ子　同　成田
西内せゑ　同　成田
戸村喜美　山武千代田
鹽田德　印旛成田
土井とし　同　成田
小川みつ　同　成田
小川てる　同　遠山
小倉のぶ　同　八生
小倉たか　同　久住

大川登志　印旛成田
織原はる　同　本埜
海瀨廣子　同　成田
吉岡繁　香取滑川
○高津かな　同　成田
谷いわ　同　公津
久保庭しづ　同　成田
黑川マチ子　同　成田
黑川滿　同　成田
黑澤たま　同　富里
山田ゑい　印旛安食
山崎よし　同　公津
山本みちゑ　同　安食
松田まさ　同　成田
丸ふさ　同　公津
古矢茂子　同　成田
古矢光子　同　成田
古郷波子　同　成田
小泉うめ　同　富里
淺井きし　同　成田
相川しん　同　富里
秋山トヨ　同　中郷
佐藤芳子　同　遠山
木内文江　同　成田
三橋梅子　同　遠山
三橋千代子　同　中郷
椎名八千代　同　大森
澁谷きよ　同　遠山
一鍬田よし　同　中郷
菅沼文　同　富里

日本女子大學

第二十一回卒業生（昭和七年三月）（四十六名）

石川壽　印旛成田
石川ちい　同　成田
石橋もと　同　中郷
稻垣ふみ　同　成田
飯山靜子　同　大森
岩澤菊枝　山武二川
新田美德子　宮城鷹來
土井とき　印旛公津
大須賀かつ　同　安食
大木まつ　香取小御門
小川トシ　印旛中郷
小川景　印旛八生
小川すい　同　公津

荻原とし　同　豐住
渡邊佐喜子　同　成田
渡邊茂代　同　成田
渡邊由子　同　木下
渡邊せい　同　成田
川村春子　同　遠山
田中節子　同　成田
多田せつ子　同　公津
竹内たつ　同　成田
葛生ふじ　同　安食
山田春枝　印旛八生
山野うの　同　成田
前田みや　同　大森
丸　たけ　同　公津
藤崎ゑい　同　成田
藤崎ヒサ子　同　成田
後藤みつ　同　八生
後藤しま　同　八生
青野茂子　香取高岡
赤海のぶ　印旛八生
佐久間政子　同　成田
佐瀬　光　同　八生

女子職業學校在學

女子醫學專門學校在學

坂田文子　同　安食
櫻井千惠　印旛成田
眞田　倫　安房千倉
木川キクエ　印旛中郷
木内ふみ　同　富里
湯淺こう　同　八生
篠原セイ　同　中郷
諸岡　新　同　成田
清宮こい　同　八生
關川春江　同　成田
鈴木俊枝　同　公津

家政女學校

家政女學校

第二十二回卒業生（昭和八年三月）（三十九名）

岩井　愛　印旛大森
岩内なつ　同　遠山
石原のぶ　同　成田
石原とし子　同　同
五十嵐　孝　同　木下
長谷川初子　同　成田
長谷川道子　同　久住
長谷川悅子　同　成田
土肥かをる　同　公津
大須賀みちい　同　八生

大木てい　同　中郷
大久保あい　同　本埜
大塚美智子　同　安食
小川壽美子　同
小川　繁　同　成田
小倉いく　同　八生
渡邊ふみ　同　成田
勝田幸子　同　八生
勝田かよ　同　安食
加藤りつ　同　中郷
加藤昌子　同　成田
高仲ツル　同　遠山
多田元子　同　八生
塚本節子　同　遠山
山本まさ　同　安食
山口くに　同　木下
京增希伊　同　成田
武士田喜久江　同　成田
佐藤貞子　同　成田
齋藤せつ　同　遠山
齋木歌子　同　成田
木内あさ　同　八生

共立女子專門學校

師範二部

湯淺つや　印旛八生
湯淺えい　同　八生
宮本てい　同　安食
篠原ちづ子　同　本埜
日暮照子　同　成田
關川澄子　同　成田
杉山八重子　同　成田

露光量違いの為重複撮影

現在生徒及卒業生郡別表

昭和八年四月

區別 郡別	印旛	香取	山武	千葉	市原	東葛飾	匝瑳	海上	長生	夷隅	君津	安房	他府縣	計
一學年	四七	一											五	五三
二學年	四五	二	三									一	三	五三
三學年	四〇	二	一										五	四九
四學年	四八	三	一										一	四三
計	一八〇	八	五									一	一四	二〇八
卒業生	六六〇	三〇	一〇	四	二	四	二	一	五	一	一	六	四五	七七一

經費概表

區別 郡別	俸給	雜給	校費	修繕費	退職給與金 死亡賜金	合計
昭和五年度決算	一三、〇七六、五〇	四、三三一、三一	三、〇四八、六六	五五二、五六	一、四七〇、〇〇	二二、四七九、〇三
昭和六年度決算	一三、六四五、〇〇	四、〇八三、一八	一、七五三、五二	三六九、〇四	一、四七五、〇〇	二一、三三五、七四
昭和七年度決算	一二、九九五、〇〇	四、〇八七、四四	一、七三四、七九	二九九、七七	一、三一〇、〇〇	二〇、四二七、〇〇

成田幼稚園一覽

園歌……一
幼稚園の設置及衛生的設備……三
經費……三
保育料及入園料……三
七年入退園及年度末現員調……三
七年度保育修了幼兒數……三
職員……四
修了兒……四
年中行事……四
休園日……四
保育課目……五
園則……五
私立成田幼稚園保護者心得……七
灌佛會(花まつり)……八
乳幼兒愛護日……八

露光量違いの為重複撮影

現在生徒及卒業生郡別表

昭和八年四月

區別 郡別	印旛	香取	山武	千葉	市原	東葛飾	匝瑳	海上	長生	夷隅	君津	安房	他府縣	計
一學年	四七	一											五	五三
二學年	四五	二	三										三	五三
三學年	四〇	二	一									一	五	四九
四學年	四八	三	一										一	四三
計	一八〇	八	五									一	一四	二〇八
卒業生	六六〇	三〇	一〇	四	四	二	四	一	五	一	一	六	四五	七七一

經費既表

區別 郡別	俸給	雜費	臨時費	修繕費	遞信費	給與金	恩賜金	合計
昭和五年度決算	一三、〇七六、五〇	四、三三一、三一	二、〇四八、六六	五五二、五六	一、四七〇、〇〇			二二、四七九、〇三
昭和六年度決算	一三、六四五、〇〇	四、〇八三、一八	一、七五二、五二	三六九、〇四	一、四七五、〇〇			二一、三二五、七四
昭和七年度決算	一二、九九五、〇〇	四、〇八七、四二	一、七二四、七九	二九九、七七	一、三一〇、〇〇			二〇、四二七、〇〇

成田幼稚園一覽

園歌……一
幼稚園の設置及衛生的設備……三
經費……三
保育料及入園料……三
七年入退園及年度末現員調……三
七年度保育修了幼兒數……三
職員……四
修了兒……四
年中行事……四
休園日……四
保育課目……五
園則……五
私立成田幼稚園保護者心得……七
灌佛會(花まつり)……八
乳幼兒愛護日……八

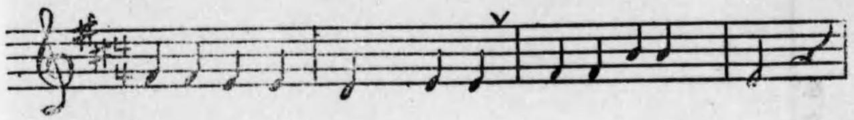
遊　嬉　室

職員及第二十八回保育終了者

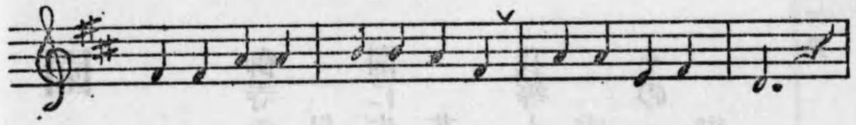
園歌

大和田　建樹氏作歌
小山　作之助氏作曲

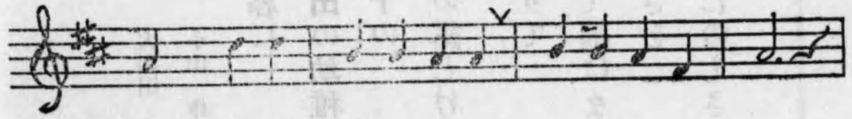
御寺の山をあけ暮に
　見わたす成田の幼稚園
園に生ひたつ撫子の
　花にめくみの露しけし
我等も日々に集りて
　雲雀となりて謠はまし
その〻惠の嬉しさを
　御世の惠のたのしさを



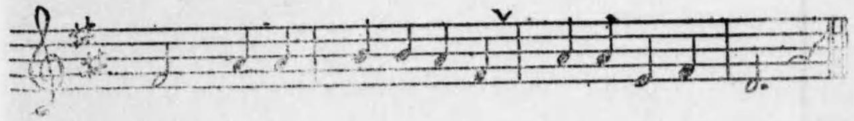
ミテラノ　ヤ　マヲ　アケクレ　ニ
われらも　ひ　びに　あつまり　て



ミワタス　ナリタノ　ヨーチエ　ンし
ひばりと　なーりて　うたはま　し



ソノニ　オヒタツ　ナデシコ　ノ
その　のめぐみの　うれしさ　を



ハナニ　メグミノ　ツユシゲ　シ
みよの　めぐみの　たのしさ　を

私立成田幼稚園一覽

一、幼稚園の設置及衛生的設備

本園は成田山の經營にかゝる事業の一つとして明治三十八年五月日露戰役の記念として成田小學校に假園舍を設け保育を開始した仝三十九年六月現在の新築園舍落成之に移轉す

園舍は綠の森に包まれた空氣の最も清い高燥な地域に設置し保育室は南面して北に廊下を控へ全部芝生の庭園は少しの塵も揭らず往來との雜音も少なく繁茂せる樹木綠の芝生に依りて夏季日光の反射も極めて柔らかに衛生的設備と見る事が出來る成田驛よりは東方約三町四季の風光によく四ヶ所の砂場花壇四ヶ所藤棚小山の三ヶ所之に種々の運動具を配置す

敷地　三千百八拾九坪　遊園　貳千九百三十坪
建坪　二百五十餘坪

一保育室三　（四十一坪）　一遊戯室一　（四十八坪）
一園長室兼圖書室一（三坪）　一職員室一　（九坪）
一靜養室一（四坪たゝみの部屋）　一應接室一　（四坪）
一玩具室一　（十二坪）
一小使室附屬建もの一　（十七坪半）
一職員住宅二　（六十三坪）　一昇降口電話室廊下其他

一、經費

一金五千七百六十八圓五十錢　昭和六年　度決算額
一金五千二百五十三圓三十七錢　昭和七年　度決算額

一、保育料及入園料

保育料は月額金二圓二人以上通園のものは一人は全額他を半額こし入園料は創立當時徴收せし事あるも其後中止す

昭和七年度入退園及年度末現員調

年度	入園	卒業	半途退園	死亡	年度末現員
昭和七年度 男	一九	八	五		二〇
昭和七年度 女	七	一三	四		一二

右ノ外昭和八年四月末日調査現在幼兒數ハ
男　三四　女　二八　合計　六二

昭和七年度保育修了幼兒數

男　八　女　一三　計　三一

保育期間	修了兒姓名	保育期間	修了兒姓名	保育期間	修了兒姓名
三年	高橋俊江	二年	三橋一雄	二年	泉水喜代子
仝	櫻田久子	仝	鈴木瑞枝	仝	小倉サト
仝	土井初子	仝	永利惠男	仝	新橋成江
仝	小倉和喜子	仝	青柳美代子	仝	寺內昭
三年	三橋哲郎				
二年六ケ月	三橋鳩世	二年	秋山君子		
二年	田中榮一	仝	吉岡功人	二年	齋藤武夫
仝	石井千惠子	仝	石橋弘吉	仝	日暮澄子

一、職員

一、園主兼園長は成田山貫主荒木僧正にして理事石川甚兵衛淺井儀助の兩理事之を補佐し淺井儀助專務理事兼會計主任を兼任す

職名	氏名	原籍	就職年月
園主兼園長	荒木照定	千葉縣	大正十三年二月
主任	山口政子	德島縣	大正三年十月
保姆	若命喜美	神奈川縣	大正十年三月
仝	瀧澤よし	千葉縣	大正七年十月
仝	高田よしゑ	千葉縣	大正十年五月
代姆	西內せい	千葉縣	昭和六年四月

園醫醫學博士　藤崎公道　千葉縣　昭和六年一月
仝　齒科　久保田章　千葉縣　昭和六年四月

一、修了兒

明治三十九年三月第一回保育修了生廿二名を出してより昭和七年度第二十八回修了生廿一名を合せ男五百貳拾五、女五百計壹千〇貳拾五名の修了となつた

一、年中行事

一月八日　新年始業式
二月十一日　紀元節
三月三日　雛節句
三月廿日　保育修了式
四月七日　入園式
四月廿九日　天長節
五月五日　端午の節句と乳幼兒愛護日
六月一日　創立記念日
七月七日　七夕祭

一、休園日　大祭祝日の外

夏季休園　七月三十一日より八月三十一日迄
冬季休園　十二月二十五日より翌年一月七日迄

學年末休園　三月廿一日より四月三日迄
法會式日　七月八日
氏神祭日　七月十七日

一、保育課目

遊戯　童謠遊戯　律動遊戯
唱歌　童謠及幼稚園唱歌
觀察　自然物其他凡てに就いて
談話　童話　訓話　其他ラヂオより得たる諸種の談話
手技　細工もの（紙細工、豆細工、自然物應用キビガラ細工及圖畫、粘土細工等）

一、幼兒保育狀況

滿三歳より就學までの幼兒を收容滿二年以上在園のものに限り入園を許す

年少の組は滿三歳の幼兒を收容する年齡の關係上幼兒數に於て十五名程度とし次の入園期に於て其數を增加す

幼兒一同集合の上一同に會して朝の禮を行ひ園歌合唱後保育項目の課程に依り屋內に又は庭園の遊びに移る

三千坪の芝生は幼兒の遊び場として少しの不安もなく且雜草はいろ〳〵の花を開きて幼兒を喜ばすに充分であり一面觀察の資料も豐富にとり入れて屋內の保育と共に多大の幸福を幼兒に與ふ

其他美的觀念の養成として畑に於ける落花生の種蒔き朝顏の栽培植物の採集等も廣き庭を利用して保育の資料に供し雨天の折など蓄音機を利用して優秀なる音樂に依り幼兒の美しき心情を養ふ

保育時間は短きは夏季に於ける二時間長きは朝九時より一時までの季節に依り變更す

教材としては其の時期の植物動物ラヂオの子供の時間に於ける音樂談話其他小供新聞等參考資料として幼兒の解し得る教育的のものは廣く之を用ゆ

一、園則

本園は滿三歳より學齡迄滿二年以上在園のものに限り入園を許し其心身の發達善良なる情操を涵養す

入園期は四月九月の兩度とす

入園志望者には園所定の入園願書を交付し簡易なる方法にて考査をなし選擇の上三月末許可の通知をなし入園を決定す收容人員は其年度保育修了者と同數を選定し四月入園後事故退園等のため人員に異動あるも臨時の補充を行はず九月の新學期に於て同樣考査の上入園を許す

入園證書

原籍
出生地
現住所
族籍
職業
幼兒氏名
生年月日

右は今般貴園に入園御許可相成候に付ては本人に關する一切の事件拙者引受可申候也

右保護者
千葉縣印旛郡成田町何番地
何　某印

昭和　年　月　日

私立成田幼稚園長荒木照定殿

經歷書項目

一、生父健否　年齡
一、生母健否　年齡
一、兄　姉
一、弟　妹
一、生母ノ乳　乳母ノ乳
一、牛　乳　里　子
一、生來重病ニカヽリタルコトノ有無
一、性質習慣ノ著シキモノ

右報告申上候也

幼兒保護者　何　某印

昭和　年　月　日

私立成田幼稚園御中

私立成田幼稚園幼兒保護者心得

一、家庭と幼稚園の連絡に關する事
家庭と幼兒保育の連絡に付ては相互に協力するにあらざれば効果を得る事能はざるは云ふまでもなき事なるべしされば家庭と幼稚園とは常に氣脈を通じ内外相應して保育の効を全くせざるべからず今彼此の連絡に關し當園の冀望を掲ぐ

一、家庭より當園の事に付き疑義あるか又は幼兒の事に關して擔任保姆に問合せ協議せられたき事あらば遠慮なく口頭又は書面にて申出でられたし

一、父母兄姉並に直接幼兒の保育に關係ある人は時々來園して當園の實況を視察し之を家庭保育の參考にせられん事當園の最も冀望する所なり
又春秋の頃子供の會を開き保護者諸君の來會を請ふを例とせり是一は實地保育の模樣を諸君に示し又一は諸君より家庭の狀況を聞き幼兒の保育に關し相互に懇話せんが爲なり日時は其都度通知すべければ成るべく來會ありたし

一、幼兒付添人に關する事
當園に於ては付添を斷る
但往復途中の送迎は隨意たるべし

一、幼兒の遊嬉に關する事
遊嬉は實に幼兒の仕事にして心身の發達一に之によるものはれば最も自由快活に之を爲さしむること必要なれども野鄙亂暴に渉るものは之を制せざるべからざるは勿論玩具等に付きても亦能く其良否を選定し繪本の如きは色彩の良否説明せる字の如何に依り幼兒を害する事は恐るべき事なれば其内容を充分に取調べられて幼兒に與へられる樣注意せられたし

一、幼兒服裝に關する事
幼兒の服裝は成るべく質素にして遊嬉運動等に便利なるものを用ひ可成洋服又は和服は筒袖に仕立られたし

一、幼兒の携帶品に關する事
幼兒在園中に用ふべき器具其他總て園のものを使用する事なれば手拭鼻紙等必要なるもの、外は幼兒に携帶せしめざる樣致したし
帽子辨當傘の携帶品マントクツ等にも必ず氏名を記されたし

一、幼兒の往復に關する事
幼兒の往復は近來自動車其他の爲に故障生じ易ければ風雨其他注意保護せられたし格別の事情なき限り必ず徒歩せしめら

露光量違いの為重複撮影

成田學園一覽

今日一日ノ務……一
沿革要項……一
位置……二
設備……二
職員……三
關係事項概要……三
退園生狀況一覽……六
現在生狀況一覽……六
生活……七
入園……一〇
退園……一一
教育成績……一三
經費……一五
基本金ノ蓄積……一六
感謝錄……一六

れたし

一、幼兒の缺席並に家庭の疾病等に關する事

幼兒の缺席一週間を越ゆるときは口頭又は書面にて詳に其事由を屆出でらるべし凡て多人數の集る所は充分注意を爲すにあらざれば或は惡疫傳染の媒をなす恐あるを以て幼兒の家族に傳染病者ある時は直に其病名を記して屆出でられたし

但茲に傳染病と稱するは痘瘡及假痘、猩紅熱、腸窒扶斯、發疹窒、扶斯、虎列刺、赤痢、ヂフテリア、ペスト等を云ふ

一、保護者の異動に關する事

保護者の變更は勿論其轉任改氏名等異動ありたるときは直ちに屆出でられたし

一、灌佛會（花まつり）

昭和七年四月八日新更會主催の灌佛會（花祭り）を成田に於ける第一回の花祭りとして當園を會場として催した

中央に花御堂を安置し荒木僧正猊下の御灌佛幼稚園兒小學校兒童の献花灌佛の後幼稚園兒小學兒童成田高等女學校の生徒さん方に依つて唱歌、遊嬉、舞踊、お話等があり長岡先生のお話小山先生の音樂其他木琴獨奏等あつて樂しい一日であつた

一、乳幼兒愛護日に付き會合

例年幼兒の樂しい行事である五月五日菖蒲のお節句に今一つ乳幼兒愛護日として今日當園へ幼兒の保護者を招き樂しい會合を催した朝は幼兒一同集合菖蒲節句の意義を語り合ひ園醫藤崎先生齒科擔任久保田先生より夫々專門の立場に付て保護者へ御懇話があつた夫より幼兒一同は遊嬉唱歌お話等面白く時を移し毎年この五日の菖蒲節句に愛護日を併せ行ふ事とし昭和七年五月五日は意義深い一日を送つた

露光量違いの為重複撮影

れたし

一、幼兒の缺席並に家庭の疾病等に關する事

幼兒の缺席一週間を越ゆるときは口頭又は書面にて詳に其事由を屆出でらるべし凡て多人數の集る所は充分注意を爲すにあらざれば或は悪疫傳染の媒をなす恐あるを以て幼兒の家族に傳染病者ある時は直に其病名を記して屆出でられたし

但茲に傳染病と稱するは痘瘡及假痘、猩紅熱、腸窒扶斯、發疹窒、扶斯、虎列刺、赤痢、ヂフテリア、ペスト等を云ふ

一、保護者の變更は勿論其轉任改氏名等異動ありたるときは直ちに屆出でられたし

一、灌佛會（花まつり）

昭和七年四月八日新更會主催の灌佛會（花祭り）を成田に於ける第一回の花祭りとして當園を會場として催した

中央に花御堂を安置し荒木僧正猊下の御灌佛幼稚園兒小學校兒童の献花灌佛の後幼稚園兒小學兒童成田高等女學校の生徒さん方に依つて唱歌、遊嬉、舞踊、お話等があり長岡先生のお話小山先生の音樂其他木琴獨奏等あつて樂しい一日であつた

一、乳幼兒愛護日に付き會合

例年幼兒の樂しい行事である五月五日菖蒲のお節句に今一つ乳幼兒愛護日として今日當園へ幼兒の保護者を招き樂しい會合を催した處は幼兒一同集合菖蒲節句の意義を語り合ひ園醫藤崎先生齒科擔任久保田先生より夫々專問の立場に付て保護者へ御懇話があつた夫より幼兒一同は遊嬉唱歌お話等面白く時を移し毎年この五日の菖蒲節句に愛護日を併せ行ふ事とし昭和七年五月五日は意義深い一日を送つた

成田學園一覽

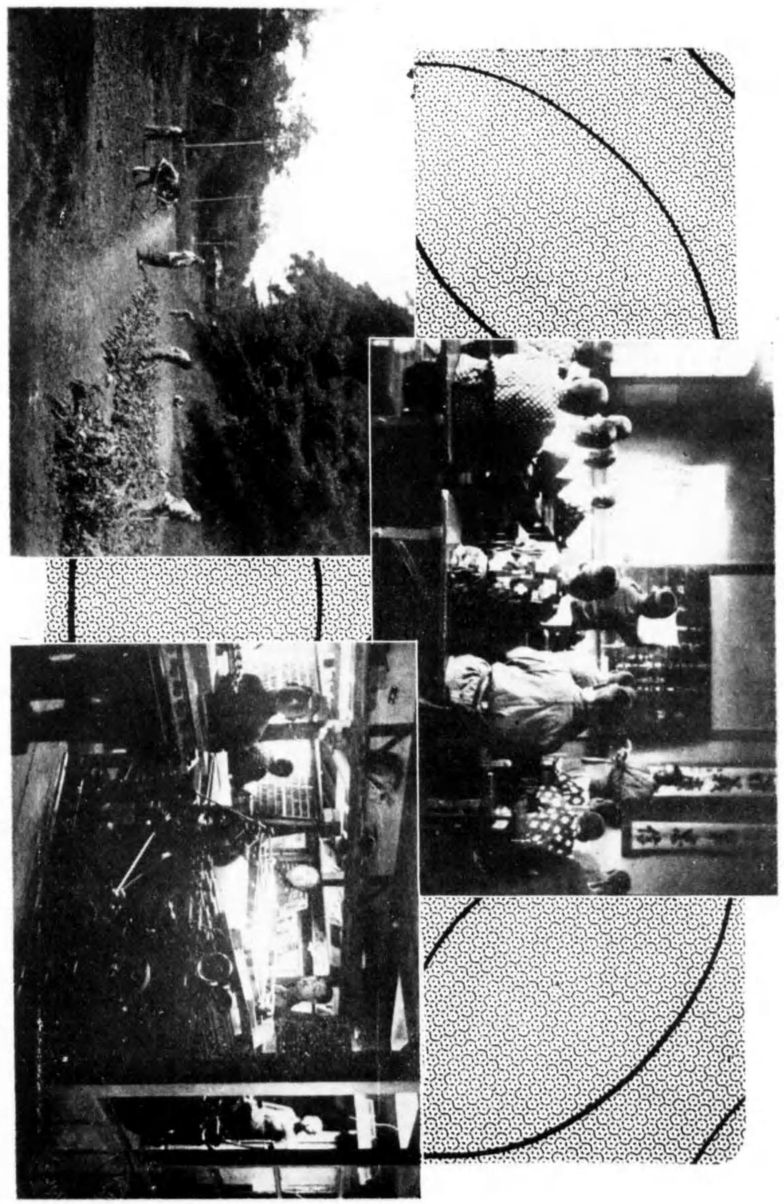
今日一日ノ務……
沿革要項……一
位置……二
設備……二
職員……三
關係事項概要……三
退園生狀況一覽……六
現在生狀況一覽……六
生活……七
入園……一〇
退園……一一
教育成績……一三
經費……一五
基本金ノ蓄積……一六
感謝錄……一六

露光量違いの為重複撮影

今日一日の務

一、今日一日一心に不動尊を信仰する事
二、今日一日父母教師の教を守り能く命に從ふ事
三、今日一日心から親切の人となり又動物を愛する事
四、今日一日能く自制克己し我儘なことや惡いと思ふことをせぬ事
五、今日一日常に正直を旨とし決して虚僞を言はぬ事
六、今日一日よく勉學しよく仕事を働く事
七、今日一日禮儀を守り無作法の言行をせぬ事
八、今日一日他より受けた恩を忘れぬ事
九、今日一日腹を立てぬ事
十、今日一日仕事に倦きない事
十一、今日一日總てに對し清潔整頓を心掛くる事
十二、今日一日物を大切に取扱ふ事
十三、今日一日人の惡口を言はぬ事
十四、今日一日不平なく愉快に日を暮す事
十五、今日一日出來る丈多く善行を積む事

右十五ヶ條毎朝精讀し必ず實行せらるべし



露光量違いの為重複撮影

今日一日の務

一、今日一日心に大動作を言葉に出すこと

二、今日一日父母祖父の前に坐り

三、今日一日心から親切の人になり又動物を愛すること

四、今日一日能く自制して我儘なる欲望を抑へること

五、今日一日法に正直を尊ぶこと

六、今日一日人の物を盗まず仕事に勤勉すること

七、今日一日職業を守り職分の責任を尽すこと

八、今日一日他人から受けた恩を忘れざること

九、今日一日国を立てる事

十、今日一日仕事に怠らざること

十一、今日一日勤勉で忍耐強く研究心を持つこと

十二、今日一日物を大切に取扱ふこと

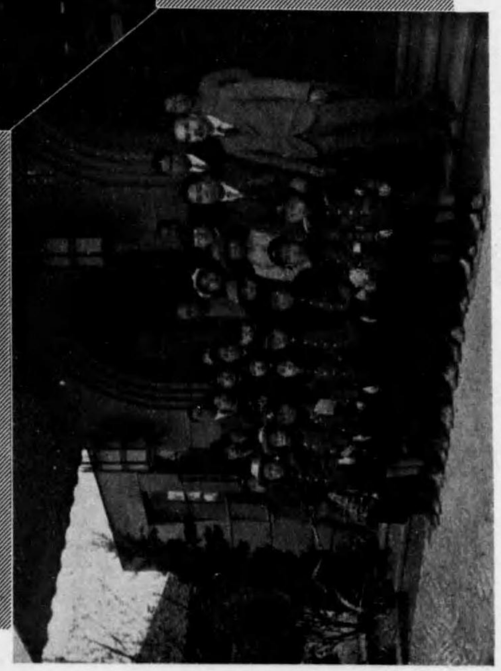
十三、今日一日人の悪口を言はざること

十四、今日一日不平を言はず人に対して親切を尽すこと

十五、今日一日出来る丈多く善行を積むこと

古十五ヶ條前期講話で必ず実行を誓はせられたこと

筑波山頂ニテ



野田興風會館前ニテ

修學旅行

私立成田學園一覽

◎沿革要項

一創　立　明治十九年十一月二十八日（認可明治十九年五月二十四日）千葉感化院と稱し千葉縣下各宗寺院共同事業として千葉町に創設

一組織の變更　明治二十一年四月以降成田山新勝寺一手に本園を經營維持することに變更

一千葉感化院建築竣工　明治二十四年五月三十日

一園長更迭　明治二十七年五月二十七日舊院長三池照鳳師辭職前院長石川照勤師就職大正十三年一月三十一日石川院長遷化せられ現園長就職

一移轉改稱　明治四十一年三月二十五日現在地に園舍を新築して之に移轉し同時に成田山感化院と改稱更に昭和三年三月二十五日成田學園と改稱

一御謄本下附　明治四十三年九月七日教育勅語謄本並に戊申詔書謄本各一通下附

大正十三年四月五日國民精神作興に關する詔書謄本一通下附

一皇族御來園　明治四十四年十月十七日山階宮磨芳王殿下（昭和八年四月現在）久邇宮朝融王殿下　華頂宮博忠王殿下　久邇宮邦久王殿下　山階宮藤麿王殿下本園へ御成り被遊　尚同月二十二日更に山階宮妃殿下には御姫君安子女王殿下を御伴はせられ本園へ御成り遊され生徒一同へ御菓子料御下賜の光榮を蒙れり

一宮內省より御下賜金　本園事業御奬勵の思召を以て左の通り御下賜

大正十一年二月十一日	金參百圓
大正十二年二月十一日	金四百圓
大正十三年二月十一日	金四百圓
大正十五年二月十一日	金壹百圓
昭和　二年二月十一日	金一封
昭和　三年二月十一日	金一封
昭和　四年二月十一日	金一封
昭和　五年二月十一日	金一封
昭和　六年二月十一日	金一封
昭和　七年二月十一日	金一封
昭和　八年二月十一日	金一封

一內務大臣より下附金品　本園事業上從來功績ありこし且

つ奬勵の趣旨を以て左の通り下附

明治四十二年二月十一日　金壹百圓
大正四年二月十一日　花瓶一對（市岡紫雲作　青銅製松上ノ鶴模樣）
大正十一年二月十一日　金貳百圓
大正十二年二月十一日　金參百圓
大正十三年二月十一日　金壹百圓
昭和三年二月十一日　金壹百圓
昭和四年二月十一日　金壹百圓
昭和五年二月十一日　金壹百圓
昭和六年二月十一日　金壹百圓
昭和七年二月十一日　金壹百圓
昭和八年二月十一日　金壹百圓

一本縣知事より奬勵金　本園事業奬勵として左の通り下附

大正十一年一月十三日　金壹百圓
大正十二年三月九日　金壹百圓
大正十三年三月二十五日　金壹百圓
大正十四年三月二十七日　金壹百圓
大正十五年三月三十一日　金壹百五拾圓
昭和二年三月三十一日　金壹百五拾圓
昭和三年三月三十一日　金壹百五拾圓
昭和四年三月三十一日　金壹百五拾圓
昭和五年三月三十一日　金壹百圓
昭和六年三月三十一日　金壹百圓
昭和七年三月三十一日　金壹百圓
昭和八年三月三十一日　金貳百圓

一平和記念東京博覽會より銅牌受領　大正十一年七月十日　先に出陳したる本園一覽に對し銅牌を贈らる

◎位置

千葉縣印旛郡成田町成田四百二番地の一（電話成田百三番）にして成田山境内に在り前面成田幸町より新勝寺へ往復する道路に沿ひ成田停車場よりは約壹粁成田不動尊よりは山上奥の院大日如來の伽藍を右に見左方へ約二百米にして來るを得東隣出世稻荷への參詣者は左方に古木鬱蒼幽靜の間に白堊の一家屋を見るべし、本園是れなり

◎設備

明治四十一年三月二十五日の竣工に係り敷地建坪左の如し

一建物敷地　一千百三十坪
一耕作地　九百坪
一建物　六棟二百五十四坪

◎職員（○印は園内常住）

一園主兼園長　成田山新勝寺住職　荒木照定
一主任　正八位　大友惟誠。
一會計主任　淺井照次
一教師　鵜澤弘吉
一印刷部教師　勝田吉治
一保姆　大友靜子。
一保姆見習　稻垣ミめ。
一印刷部助手　伊達好友。

一篤志園醫　醫學博士　藤崎公道
一篤志齒科園醫　久保田章
一篤志眼科園醫　山崎一雄
一篤志整骨園醫　小倉桂

職員一同は園長の指導監督を受くるは勿論能く園長の精神ミ當園職員たるの自覺ミにより職務に從ふの外現在ミしては別に職員に對する成文の制令なし唯協同一致して圓滿に且つ規律ある家庭を作るを目的ミし而かも此範圍に於て自由に活動を許し妄りに牽制を加へざる組織なり

藤崎公道氏は御岳父關川博道氏（前篤志園醫）のあミを受けて其職に在り、其經營にかゝる如春堂病院醫員を擧げて常に園生の保健に留意せられ殊に疾病治療に際しては熱心親切に之に當らる更に久保田齒科醫院長久保田章氏は口腔科を小倉整骨醫院小倉氏兄弟は整骨外科を、山崎眼科醫院長山崎一雄氏は眼科を擔任せらる。されば入園し來る兒童は精神狀態薄弱なるミ共に身體亦强健ならざるもの多きにも係らず日を經るに從て健康狀態良好ミなり稀に疾病負傷等あるも後害を遺せし者なきは當園の最も欣幸ミし最も誇りミする所にして前記諸士の高情に深く謝意を表し居る所なり

昭和七年度本園關係事項概要

一、園生入退園ノ狀況

前年度繰越園生　二十名　　新入園生　六名
退園生　五名　　現在生　二十一名

二、園生ノ疾病

名	病名	治療日	名	病名	治療日
信彥	凍傷	自三月二十六日至五月二十日	豊三	切創	自五月十日至五月十五日
一雄	全	自三月二十六日至四月十六日	勇	眼瞼撲	自五月十三日至五月十六日

治雄	火傷	自四月二十五日 至四月二十六日	啓輔 トラホーム 自六月二日 至十一月四日
幸一	腫物	自四月二十六日 至五月十七日	勇 下肢發疹 自六月十四日 至六月二十五日
實	胃病	自四月二十三日 至四月二十四日	健三 腫物 自六月十三日 至六月十六日
雅也	腫物	自四月二十日 至四月二十六日	寛 風邪 自六月十九日 至六月二十五日
清藏	胃痛	五月二日	鐵也 仝
清	商痛	七月三日	源治 下痢 自十一月四日 至十一月七日
實	腫物	自八月四日 至八月十日	謹次 切創 自十一月十二日 至十一月十四日
雅也	トラホーム	自八月九日 至八月七日	源治 呼吸器 自十二月十六日 至十二月廿六日
富藏	トラホーム	自八月十五日 至九月九日	寛 呼吸器 自一月九日 至三月三十一日
幸四郎	トラホーム	自八月二十四日 至八月二十三日	富藏 耳疾 自二月十五日 至二月十八日
鐵也	トラホーム	自八月二十三日 至八月二十七日	謹次 耳疾 自二月十二日 至二月十五日
豊三	トラホーム	自八月十二日 至九月十二日	清 腫物 自二月十四日 至二月十五日
明	トラホーム	自八月二十四日 至治療中	豊三 耳疾 自二月十六日 至二月十八日
信彦	トラホーム	自八月二十五日 至九月十六日	勇 耳疾 自二月十八日 至二月十八日
利雄	トラホーム	自八月二十七日 至九月十六日	啓輔 耳疾 自二月二十二日 至二月二十五日
富藏	腫物	自九月七日 至九月十六日	寛 風邪 自三月九日 至三月十一日
源治	腫物	自九月十六日 至九月二十日	鐵也 腫物 自三月十八日 至仝二十五日
寛	腫物	自九月二十八日 至九月三十日	雅也 腫眼 自一月十一日 至仝十八日
良吉	風邪	自三月九日 至三月十一日	謹次 腫物 自三月十七日 至三月十七日

本年度ニ於ケル疾病ハ割合ニ多ク誠ニ恐懼ニ堪エザル所ナリ

三、御下賜金及奬勵金等拜受

一、宮内省ヨリ御下賜金一封
一、内務省ヨリ奬勵金百圓
一、千葉縣ヨリ奬勵金貳百圓
一、住友家殿ヨリ職業指導ヘノ寄附金六百圓（三年間繼續）
一、岩崎家殿ヨリ職業指導ヘノ寄附金參百圓（仝　上）

右ノ外諸方ヨリノ本年度寄附金合計參拾八圓也
外ニ洋畫貳面、布製夏帽子貳拾六個及西洋洗濯器取付附屬器具一式ノ寄附アリ

四、特殊事項

1 修學旅行

イ、四月二十九日千葉ヘ旅行、市街見物丹遊ビ、亥ノ鼻公園散策及國立畜產試驗場見學等ヲナシ夕刻歸園
ロ、十月十九日、筑波方面ヘ旅行、筑波登山及歸途霞ヶ浦沿岸散歩等ヲナシ夕刻無事歸園

2 舍内ノ美化

イ、應接室、食堂、炊事場、風呂場及便所等ノ美化ヲ計リ便所ヲ除キ（次年度ニ於テ完了）全ク面目ヲ一新セリ
ロ、主任住宅ノ新築

3、印刷部ノ擴張

新ニ八ポイント活字ヲ十數萬本購入ス

4、よび名に就いて

一昨年七月當園は大體左の如き一文を撒布して町民各位に御願ひせり。玆に再錄して其徹底を期する次第なり。

よび名についてお願ひ

當園は先年、山主が外國よりお歸りになりました時に、その記念として、成田學園と改めて頂きました。それが爲めに諸官廳では、こうに學園の名でよんで下さいますが、一番、地元の成田では、まだ學園の名が一般に通じてをりません樣で、誠に遺憾に存じて居ります。もつとも、永年感化院で通つて來ましたことゝて、急に改めて頂き度いと申すのも、無理ではございませうが、改めてもはや大分になりますので、ごうか學園の名でよんで下さい。學園と呼ばれますのと、感化院とよばれますのとでは、子供にとつて、そのひゞきが實に、大變にちがうので御座います。

ごうか皆さん、當園の事業を御援助下さる意味でも、折角山主が、不遇な子供達をおもひやつて改めて下さつたこの學園といふ、やさしい美しい名を、ごうかお用ゐになつて頂きこう御座います。子供達一同も、そうよんで下さることに對してゞもその名にそむかない樣に一層努むるでございませう。

序に申上げてせめて地元の皆々樣の御理解を得ておき度いこと

幸に町のお方には、そんな人はないので御座いますが、地方から參詣などに出て來られた方でお子さんをおつれの方が、當園の前を御通りになるとき「こゝは子供の刑務所だよ、お前も言ふことをきかないと、こゝへ入れるよ。」と子供を、おどす材料に使はれるのを時々耳に致しますが、何んと心ない言葉でせう、嬉々として遊び戯むる、園生の心にどんな響を與へるでせうと私共は眼をつむり、耳を覆ひたい心地が致します。「子供の刑務所」！身ぶるひする程厭な言葉で御座います。しかし何も知らない方なら親兄姉がもてあまして教育を依頼する所ですから、さう思ふのも無理ならぬ事かも知れません。乍然それは、あまりにも皮相な、あまりにも同情のない考方と言はねばなりません。なぜならば園生の一人々々に就いて彼等が玆にたち到りました其原因、其經路を詳細に調べて見ますならば、誰しも涙なしには居られないでありませう。先天的に精神上又は身躰上に缺陷ある者もありますが、その多くは環境の不良から來て居るのでありまして、中にも幼時温い家庭の教育を受け得なか

つた者が大多數を占めて居るのであります。

假令、不良が素質であり、遺傳であり、先天的であるとしても、現在子供に何の罪がありませう？況してその大部分が環境の影響であるとしたならば、之を保護し教養して、人類の水平線下から水平線上に引上げてやる事は社會の連帶責任であり、人類愛でありませう。惡童である、不良兒であると一概に擯斥する事は實に心なき業なのであります。我が成田山が多額の經費を投じて當園を經營しつゝあるのもその趣旨は彼等不幸不遇なる少年をして、善良なる環境に移し家庭的温情の裡に保護教養を加へ、他日獨立自營の人たらしむる基礎を作つてやらうとする所にあるのであります。此意味に於て當園は特殊の家庭であり、學校の延長であります。即ち純然たる教育場であつて決して子供を懲治する所ではないのであります。されば御覽の通り、いかめしいへいもなければ固い柵もなく、其他懲治的設備は何一つないのであります。事情を知らない地方の方の言葉は止むを得ません、せめて地元皆々様におかせられては、どうか彼等不幸な少年に御同情下さり又當園教養の趣旨を御理解下すつて御後援あらん事を切望致します。

夫れが爲にはよく當園の實際を知つて頂かねばなりません、認識不足によつて、或は全然認識なしで所謂揣摩臆測によつて種々批評されることがあるならば、當園の甚だ迷惑とする所で御座います。御暇の節どうか御參觀下さいますやう、當園は悦んで其實際を御覽に入れ御説明申上ぐるで御座いませう。

昭和七年度（自昭和七年四月至仝八年三月）退園生狀況一覽

名	生育府縣名	家庭ノ職業	家庭ノ生計	生育	退園年月日	現在ノ職業	現在ノ成績
イ	東京	職工	下	養父母	四、一〇	印刷屋	良
ロ	東京	小賣商	下	養父母	七、五、二五	小學校通學	良
ハ	神奈川	○	○	準孤兒	七、五、二七	魚屋奉公	良
ニ	千葉	○	○	準孤兒	一、二、二六	死亡	
ホ	東京	會社員	中	實父母繼母	八、三、三一	家庭ノリ	良

昭和八年三月末日現在生狀況一覽

名	生育府縣名	入園年月日	家庭ノ生計	家庭ノ職業	生育	現在ノ年齢	現在ノ學力
イ	東京	五、一、六	下	雇	實母	十六才	高一
ロ	東京	六、一六	下	魚屋	實父母	十七才	高一
ハ	東京	四、五、五	下	按摩	兄	十五才	等卒
ニ	千葉	四、一六	下	○	○	十六才	等卒
ホ	東京	四、一四	下	被雇	實母	十六才	中一
ヘ	東京	五、一四	下	家從	實父母繼母	十八才	高二
ト	東京	六、一、一七	下	職工	養父母	十七才	高二
チ	千葉	三、八、二四	下	小使	實父	十五才	等六
リ	東京	一、六、二、一	下	染物屋	實父母繼母	十五才	中一
ヌ	千葉	五、七、六	下	古物商	實父母繼母	十二才	等五
ル	東京	一、五、三〇	下	建具職	實父母繼母	十二才	等五
ヲ	東京	四、三、三〇	下	土工	實父母	十一才	等四
ワ	神奈川	二、三、二一	下	飯屋	準孤兒	十六才	等四
カ	千葉	六、七、二九	上	會社員	實父母繼母	十八才	高一
ヨ	東京	五、六、九	下	被雇	實父母	十四才	等六
タ	千葉	七、五、一一	下	被雇	實父母繼母	十二才	等五
レ	東京	七、三、一七	下	被雇	實母	十四才	等六
ソ	東京	六、一、二一	下	土工	養父母	十二才	等四
ツ	栃木	七、八、六	下	○	○	十一才	等二
ネ	千葉	八、七、二八	○		○	九才	等二
ナ	東京	八、三、二五	下	茶商	實父母	十三才	等三

◎園内生活

本園の生活は普通一般に於ける温き家庭生活と毫も異る所なし尤も普通教育と異り或る一定の時間を限り教育するにあらずして普通教育の時間以外家庭教育として兒童一般の躾をなすと共に信仰の觀念を生ぜしむるを以て實に本園生活の精神となすが故に此根本の精神に基き總ての施設方法を實現し居れり其生徒待遇の方法に至りては慈悲仁愛の情を以て之に對するは勿論一面には亦整然たる規律生活をなさしめ亂雜放肆に流れさる樣最注意せり然れ共本園家庭内の大小悉く豫て定めたる成文によつて行動せしめ監督すると云ふが如き方法にあらず常に便宜を主とし温き家風自然の慣例により之を訓練し力めて愉快なる生活をなさしむるを以て主眼とせり約言すれば本園の生活は信仰ある規律正しき家庭生活といふを得べし

日課及其説明を擧ぐれば左の如し

午前五時起床、直に掃除
午前六時二十分　朝拜式
一、皇室の萬歳を奉祝す　二、大廟遙拜
三、成田山不動尊禮拜　四、各自先祖敬拜
午前七時　朝食
自午前八時至正午　學科
正午　晝食
自午後一時至四時　實科

午後六時　夕食
自午後六時半至同八時　自習
午後八時　禮拜　後就床
以上の如く定むるこ雖も時季により時々變更するは勿論便宜上臨時變更することあり

起床　朝起は新勝寺の曉鐘に警醒せられ蹶起せざるを得ざる習慣を作れり但本園のみならず成田町一般に此良習を存するが如し

清潔　清潔は本園の最も努むる所也毎朝掃除の外日に數回之をなし時々大掃除及各室の清潔整頓を檢査す

衣類　普通の衣類を用ゆ曾ては制服ありしも今は之を定めず

朝拜式　毎朝講堂に於て之を行ひ兒童に敬虔の心を養成せんが爲め職員特に敬虔的態度を持し最も嚴肅に之を行ふ
本園修身教育の大本こして教育勅語の御聖旨を奉戴する事勿論にして之が實踐躬行の實を擧ぐるは宜しく信仰の力に依りて之を喚起せざる可らざるを信ず本園の特長こして成田山不動尊を信仰せしむる所以即是なり

訓話　一般に對する訓話は毎朝先祖敬拜の際及就褥前不動尊禮拜の時之をなせ共平易簡單にし之が爲め多くの時間を費さず何こなれば職員は生徒こ起臥を同うし行住座臥の間之が師たり父兄たるの心を持し實踐躬行所謂行を以て訓ふるを旨こすればなりされご個人に對しては機會を捕へ之に投じて其兒童に適切に徹底的に訓話をなす

食事　常に兒童の營養狀態を考慮し食事には相當の意を用ゆ特に先年より試みたる玄米食（三分搗、園内に動力精米機を設備し純無砂にて精米す）は保健上好結果を示しつゝあり而して職員生徒皆一堂に集りて食を共にす單に食事のみならず本園の生活は總てに於て
「共に」こいふ事に最も留意し學ぶも働くも遊ぶも常に職員生徒其行動を共にし美しき圓滿なる家庭を作る事に努力し居れり

學科　概ね小學校令に據る教科目により午前中三時間乃至四時間（但雨天又は冬期は午後に及ぶ事あり）の授業をなす但特に重きを讀方書方綴方算術球算等の實用學科に置けり尋常科を卒業せし後尚向上の見込ある兒童にして且品行最早差支なしこ認めらるゝ時は上級の學校へ通學せしむる事あり目下新更學院普通部に一名通學中なり（本年二名卒業）

實科　農業、活版印刷及簡易なる手工を課す但冬期は農業を行はず耕地は目下三段歩を有す印刷部は創設後日尚淺く未だ完備の域に達せざるも普通の設備を有し主こして新勝寺關係の印刷物を以て其實習材料に充て生徒中嗜好性能之に適せる者を撰びて習得せしめつゝあり園内に於ける實科に對しては生產的職業的技能を與へ實社會に出でて直に夫に依て自活し得るものを撰ばざる可らずこ論ずる者あり本園固より考量したる事にして先年印刷部創設の如きも其一端なるが三四の業務を設備したりこて到底全生徒の個性嗜好に悉く適せしむる事至難にして强て職業を狹き範圍に押込むる嫌あり殊に學園に適する授業師たる人物を得る事困難にして施設繁多なる割合に好果を收められざる遺憾あり依て本園は教育終局の目的を主眼こし身體の鍛錬精神の訓練特に勤勞性の養成を目的こし單に以上の三課を設くるのみ尤も年齡其の他の關係よりして在園中職業を與ふるの必要ある者に對しては當町内の冢を撰み之に委托して本園より通勤其職業を見習はしむることあり

娯樂　兒童の性情を圓滿に發達せしめ愉快の中に教化の目的を遂げんこし娯樂には相當の意を用ふ

一、庭球フットボール及少年野球　娯樂に供する外體力養成にも資せんこして之等を設けたるに一同は喜びて之を遊び晴天の日は殆んご其遊び時間を之に費し居れり

一、闘球盤　ピンポン、カロム雨天の日には之にて遊ぶ

一、ラヂオ　生徒室の一にスピーカーを設備し主こしてその子供の時間を生徒の時間こなしをれり

一、生徒圖書室　此所に有益なるお伽噺雜誌、寫眞、繪畫等を置き兒童の閲覽に供す尚時々圖書館より拜借し來り此室にて閲覽せしむ

一、自由園藝　一定の土地花壇を貸與し蔬菜草花の栽培、箱庭作り等自由に園藝の樂を味はしむ

一、散歩遠足及旅行　毎月一日十五日二十八日及日曜日の午後不動尊に參拜終つて散歩せしむ又附近神社佛閣の參拜水泳船遊魚釣蕨狩茸狩栗拾ひ或は單なる山遊び等にて數々山野を跋渉し郊外に遠足し娯樂に兼て體力養成を計り或は臨時に汽車電車等に乘りて遠方への修學旅行をなす

一、四大節及本園記念日　當日は祝賀式後種々なる餘興をなして一日を祝はしむるを以て兒童は頗る樂こなし居れり

一、角力　園内に土俵を設け夏期は殊に盛にこらしむ尚毎年九月に於て素人大角力あり生徒も出場せしむるを習こす

一、誕生祝　園長を始め職員生徒の誕生日には其夜職員生徒一堂に團欒し茶話會を行ふ特に生徒の誕生日には該兒童に一日の休暇を與へ早朝不動尊に參詣其立身出世を祈らしめ本園よりは祝意を表して本人の好める文具品を贈り又

特に御馳走を供す

一、五月節句 粕餅にて茶話會を開く

一、降誕會及義士祭 毎年四月八日十二月十四日に於て祭祀を行ひたる後園生の相談になる趣向によりて餘興をなす

右の外生徒自が時節により流行によりてなす遊戯例へば輪廻し獨樂歌留多双六陣取鬼事將棊五目(其他種々)等は大抵自由に任かし濫に拘束を加へざるのみならず多くの場合職員之に加はるを常とす

賞罰 總て普通の家庭生活と狀態を同せしむる希望なるが故に賞罰の如きも固より格別の定なし毎年三月二十五日は本園の紀念日にして當日は多くの賞與を與ふるを例とするも平日は格別なる善行ある場合の外は賞與を實行せず

生徒の席順は一日より月末に至る一ヶ月各生徒の操行成績を調査し右の結果により(日々の成績表に依るの外更に職員の意見を附加す)翌月一日席順を改むるの例なり

而して其席次並に勤勞振りによりて更に優劣を採り各自手當を給し貯金をなさしめつゝあり

おやつ 毎日之を與ふ尚特志の人々より時々菓子等を生徒に寄贈せらるゝことあり又園長手許より生徒を慰めよとて特に珍菓水菓子等送り來ることゝ數々なるのみならず園職員へ他より贈られたる菓子等も大抵生徒に分與するを以て實際に於ては間食の度數割合に多き方にして是等の方法は總て一般家庭の兒童生活と異ることなし

◎入園

一、年齡 滿七歲以上十六歲未滿(何れの地何れの家庭より依頼せらるゝも差支なし)

一、謝絕 一、白痴 二、不具者 三、病者 四、不良程度のあまりに深き者

一、手續 本園の教育を依頼せんとするときは學校の通信簿を携へ保護者來園のこと 但し遠隔の地に在る方は郵送相談せらるゝも差支なし而して愈々入園の節は當園所定の書式(別に印刷せる用紙あり、それに記入のこと)による書類と戸籍謄本を差出さるべし

一、在園費 在園中は在園費として左記の通り毎月三日までに前納するを要す

但し家計の都合上左記の金額を納め得ざる方には其一部若しくは全部を本園に於て補助す

一金拾圓 滿七歲より十歲まで
一金拾貳圓 滿十一歲より十三歲まで
一金拾參圓 滿十四歲より十六歲まで 以上

備考 入園の手續は前記の如く何等面倒なく極めて簡單なり又前記の書類と雖も依頼人の希望によりて本園に於て代書するも差支なし入園の際は書籍文具衣類夜具等現に所有するものを持參の事

保證人は戸主にして身元確實なるものを撰定せられたし

新に入園生ある時は先づ入園前の非行に對し懇篤訓戒を加へたる後本園生活の要項を知らしめ最早不動明王の惠により全く生れ更りたる人となり能く今日一日の務を守り善良に進むべきを諭し講堂に於て入園式を行ひ本園生活の人とならしむ

◎退園

生徒の改善を認め退園を許す迄には種々の階段を附せり第一不動尊を信仰する態度、第二園外に使に出し時々金錢を携帶せしめ毫も不都合なきとき、及日常の操行右半年以上乃至一年間同樣に持續するときを以て改良生と認め退園せしむ若し不良の原因其の家庭にあるときは可成直に家庭に歸さざるを以て適當とし父母の同意を得て本園より直に本人の性行に適當する職業見習の家へ紹介し就職せしむることになし居れり此場合に於ても其家庭及周圍に十分の注意を拂ひ撰擇をなすは勿論なり

本園の最も心勞するは實に此の退園後の成績効果なり何となれば在園中如何に改善の成績を占め得たりと確信する生徒ありとするも退園後の環境若しくは動機により動もすれば逆戻りをなし其効果を破壞せらるゝ恐あればなり故に本園に於ては退園後の成績効果に對し周到なる注意をなすと共に油斷なく左記の保護觀察をなす

第一本園職員の視察 第二本園と書面の往復

就中書面の往復は本園の勉めて勵行する所にして事體甚だ平凡なるも最も有力なる効果あり尚事情の許す限り退園者とは親戚樣の關係を持續し行く事に努力し居れり

左記は退園生よりの最近の手紙なり (原文のまゝ)

H M

拜啓

御無沙汰致して申譯けありません

その後お變りありませんが私共も相變らず働いて居りますから他事ながら御休心下さい

年末でお伺ひ致したいと思つて居りますが仲々手がぬけられませんものですから來春早々お伺ひ致します時節柄お体お大切に

敬具

Y G

拜啓前略

小生入營後最早二週間も立ちました

其の後皆樣御元氣の事と想ひます降つて小生事はやうやく軍人らし

い落付いた氣持に成つて參りました又ひまを見て御禮方々お伺ひ致し度想つて居ります皆樣に宜しく

敬具

先づは亂筆乍ら一報まで

Y W

拜啓

皆々樣にはお變りも御座居ませんか私も丈夫で働いております成彦君も毎日元氣で學校へかよつてゐると思ひます

先生世中は出るとつらい事もあれば又面白事も有りますね毎日朝早く夜おそくまで眞面目に成つてやつておりますこれも食の種と思つて元氣で働いております　さようなら

K N

拜啓今年も十二の月が飛びさりました

先生には御變も御座いませんか私や以道さんも無事です以道さんは雜誌の新年號で大忙しです成田でも新更と光被とで忙しい事と思ひます

學校も初まりました二學期とちがつて三學期はすぐ試驗が初まるので緊張してゐます

昨日も今日も雨が降り續いていやな天氣です鵜澤先生はお嫁さんをもうもらつたらうと七日の夜は以道さんと二人で話しました

又すみませんがオバサンの住所を敎へて頂きたいのです此の手紙を見ると奥樣が行之は字が下手だと笑ふかもしれませんがブキヤウなので下手なのですから御許し下さい

皆樣によろしく　御免下さい

敬具

昭和八年一月十三日

大友先生

J H

拜啓

春となりすが〳〵しい時節となりました

其の後は誠に御無沙汰致しました先生始め皆々樣には益々御壯健の御事と拜しますが御伺ひ致します私も丈夫で働いて居りますから御安心下さいませ

又此の二十七日は終業式で證書と修業精勤賞を頂きました學校は三年精勤致しました今年は縣の試驗を目差して勉强して居ります又千葉市では先月に大火がありまして四十餘戸を此の二十六日には家のさきで二十三戸を燒失致しました

私は青年訓練所へ行つて居りますので訓練服であの雨の中で人々の家の物を出したり軍隊と共同して消防に努めました又先生の小さい方は今年から學校へいらつしやるのですか成ちやんは優等の事と思つて居ります二十五日の夕方用行さんが先生から御手紙が來たと云つて居りました

五月頃には先生の所へ伺へる事と思つて居ります今度はきつと行かうと思つて居りますでは先生始め皆々樣なほ一層御身体を大切に伺ひました時に又又御話し致しませう皆々樣に宜しく　さようなら

先生樣へ

毎日嫌なお天氣が續いて困ります二十五日の紀念日今年も盛大に擧行されたことでしやう

K M

私都合に依り此の所一月程現場が川崎の方にありますのでそちらに出張して居りましたので行き度いとは存じ乍らもつい行かれず殘念に思ひました愈々私も今年檢査で一人前の人間に成ります益々自重して此の世の中に意義ある樣に生きて行かうと心がけて居ります

時節柄皆々樣の御自愛を切に祈り乍ら

三月二十八日

H A

今朝御手紙戴きました早速お喜びを戴き有難く御禮申上げます

僕もやつと彼岸にたどり着くことが出來ました

やつと輝かしい太陽を見ることが出來ました

これ等は皆先生の並々ならぬ御敎と厚く厚く御禮申上げます

今迄人生の半分をたゞ有耶無耶に空費して來た樣に思へてなりません色々の感情のためあらぬ方向へ進もうとした事も今は夢の樣な氣がします今こゝに立つて過去半世を省るに實際身の毛がぞうとするのをどうする事も出來ません

これから未來の半世を過去半世の見返へしをする考へに御座います

先生もどうぞ過去の事はきれいに忘れて下さいそして現在から未來をよく見てゐて下さい

僕は今迄は學生氣分で種々なる方向を歩いて來ましたがこれからは一個の社會人として又重要なる職務の爲め精一杯否それ以上の努力をおしまぬ覺悟でゐます

僕は今迄の苦難をよそに大なる希望を目指して進みます

いぢけた氣持ちをなげ捨て大人としての氣概で大いなる氣持で進みます先生からの將來への忠告有難く御受け致します

でも現在の氣持ちをどうぞ察して下さいまして御安心下さい近日中に僕の背廣服すがたをお目にかけます

何時も何時も御無音に打ち過ぎてをり申譯け御座いません

今日はこれで失禮致します　何れ參上致しまして

奥樣初め皆樣によろしく

大友先生

◎教育成績

明治十九年開園以來入園生二百二十二人なるもあまりに古き分は音信自然に絶えて現況を詳に爲し難し依て便宜上左記の如く明治三十四年以降を掲げたり

自明治三十四年
至昭和八年　三十二年間生徒狀況一覽

（昭和八年三月末日調）

一、成績

改善者	一二九	成績未定	七
不詳	七	現在生	二一
不成績	七	計	一七一

二、入園時教育程度と年齢

程度＼年齢	九歳以下	10	11	12	13	14	15	16以上	計
不就學	一	五	二	五	三	二	一	一	二〇
尋常 一	八	二	一	一			二		一四
尋常 二	三	三	一	一	三	三	二		一六
尋常 三	二	五	二	一	四	三	二	二	二一
尋常 四		一	二	九	四	四	四	三	二七
尋常 五			二	四	一一	二	二	五	二六
尋常 六				一	四	五	五	四	一九
高一						三	三	一〇	一六
高二以上							一	一	一
計	一四	一六	一〇	二二	二九	二二	二二	三六	一七一

三、入園時保護者と年齢

保護者＼年齢	九歳以下	10	11	12	13	14	15	16以上	計
實父母	二	一	二	七	一二	七	九	一二	五二
實父		二		三	一	一	二		九
實母	一		二	三	三	五	六	六	二三
繼父母		一	一	一	二	二	二	一	一〇
實父母	二	七	一	五	五	四	五	九	三八
養父母	一	一	二	三	二	一	一	二	一三
祖母	二	二					一		五
其他ノ親族	五		一		二	一	一	五	一五
保護者ナキ者	一	二	一	一			二		七
計	一四	一六	一〇	二二	二七	二一	二五	三五	一七一

四、保護者の職業

農業	二
商業	二
古物商	二
諸職業	八
官公吏	二
會社員	一
飲食業	二
荷馬車業	二
海軍	一
自動車屋	二
被車庫	二
山芋屋	五
墓地	二
妾宿	一
相場師	一
下女	二
產婆業	二
夫人	一
守堀	四
教育者	三
漁業	一
家畜商	二
鐵工業	一
無職	一
金貸業	一
植木業	一
醫業	一
計	一三

五、改善退園者現況

寫眞師	二
按摩	一
遊技場	一
其他	一四
計	一七一

農業	一
菓子屋	九
會社員	一
海軍	二
活動寫眞師	一
自動車屋	二
被服學校教師	五
印刷工	二
諸職業	三
飲食店	二
洋服屋	二
自轉車屋	一
寫眞師	二
其他	三
家庭ニアルモノ	一〇
死亡	一六
不詳	七
合計	一二九

◎ 經費

本園には嚴密なる豫算なしと云ふ方事實に近し固より大體の豫算を定め置き右を標準として支出をなし嚴に濫費を防ぐ事は勿論なりと雖も實際に必要に重きを置き必要なる以上は實費を使用するに躊躇せず況んや厘錢に拘泥するが如きをや從て亦豫算内なりとて必要なき費途を無理に消費するが如きことなきは無論なり毎月定日本園經費の金額を新勝寺會計主幹より領收し之を支出するの慣例なるが會計上園長及主幹より未曾て一言の注意質問を受けたることなし全く深き信賴を與へて濫りに細小の監督を加ふるが如きはあらざるなり此結果は自然局に當る者に對し自制心を與へ求めずして總ての節約行はれ其効果は慥に豫算を限定する以上にありて更に頗る便利を極め居れり左に記載するは昭和七年度の決算なり

昭和七年度收支決算

歳入經常部　一三、四四五圓〇一

内譯

財產收入	五六四、九〇 基本金利子
在園費徵收	九三〇、二〇
官公衙助成金	五〇〇、〇〇 宮内省、内務省、千葉縣
作業收入	五、五六四、六五 印刷部收入
經營者醵出金	五、八八五、二六
歳入臨時部	一、二七九、一二

内譯

繰越金	三四一、一二
臨時寄附金	九三八、〇〇 住友岩崎兩家殿其他
歳入總計	一四、七二四、一三
歳出經常部	一〇、〇二四圓七一

内譯

事業費	四、四〇七、九五 需用費營繕費人件費雜費等
園生諸費	二、三四〇、九六 食費、被服費、手當金、消耗品費、學科費、旅行費、退園生保護費等
作業費	三、二七五、八〇 素品費、器具機械費、工費、

露光量違いの為重複撮影

歳出臨時部　四、一〇五、五二
積立金　二、〇〇二、九〇　基本金、一時貯金
工事費　一、五〇二、六二　職員住宅新築費應接室食堂炊事場風呂場等模樣替費
負債償還　六〇〇、〇〇　印刷部
歳出總計　一四、一三〇、九〇
差引殘金　五九三、九〇　翌年度繰越金

以上

◎本園基本金の蓄積

明治四十一年三月本園を千葉市より成田町へ移轉せし以來各慈善家より本園へ寄附せられたる金員を蓄積し將來の基本金を作るの方針を採り着々實行中恰も前掲の如く宮内省内務省及本縣より木園へ事業資金として金圓の下賜あり依て政府の斯道に對する意嚮奬勵も茲に存するを知れるも本園より進んで寄附金を受けんとするの方法を採るは往々世の誤解を受くるの嫌ひあるを以て全然勸募方法を採らず一に篤志家の同情義捐に任せ其結果として現下は金壹萬參千百五拾四圓五拾六錢と勸業債券拾圓券六拾四枚五圓券二枚(三月三十一日調)を有するに至る殊に敬服すべきは成田町々民諸君の美風にして一朝其家人に不幸あるときは其追善供養の爲に大抵本園に金圓を寄附し其意を表せらるゝことなり

◎感謝錄

本年度に於て各篤志家より本園に寄附せられたるもの左の如く茲に記して衷心感謝の意を表す但し各團体より寄贈せらるゝ雜誌等は之を略せり

一金拾圓也　潮田健二殿(成田)
一金五圓也　福島爲義殿(成田)
一金五圓也　松崎久左衛門殿(横濱)
一金參圓也　坂口武平殿(成田)
一金六百圓也(同額宛三年間)　在友家殿(東京)
一金參百圓也(仝右)　岩崎家殿(仝)
一金五圓也　山本信三郎殿(成田)
一金拾圓也　河合春雄殿(成田)
一布製夏帽子　二十六個　小川惠嗣殿(東京)
一ワッシャー取付附屬器具一式　製廐萬次郎殿(東京)
一洋画一面　大竹哲太郎殿(東京)
一洋画一面(額椽共)　鈴木民次郎殿(成田)
一御菓子澤山　若松分店殿(成田)
一理髮(毎月一回)　平澤光殿(成田)

以上

成田圖書館一覽

圖書館事務體系……一
登館各位にお願ひ……二
論語琴線……三
治革大略……三
建物及敷地……四
經費……五
讀書……五
目錄……五
廣告……六
閱覽狀況……六
閱覽統計……七
私立成田圖書館規則……七
成田圖書館圖書貸出規則……八
情報……九
本館と小學校との連絡……一〇
新制圖書分類の實施……一〇
圖書分類委目表……一一
主要條件……一二
圖書寄贈者芳名……一二
雜誌新聞寄贈者芳名……一四

露光量違いの為重複撮影

歳出臨時部	四、一〇五、五二	
積立金	二、〇〇二、九〇	基本金、一時貯金
工事費	一、五〇二、六二	職員住宅新築費應接室食堂炊事場風呂場等模樣替費
負債償還	六〇〇、〇〇	印刷部
歳出總計	一四、一三〇、九〇	
差引殘金	五九三、九〇	翌年度繰越金

以上

◎本園基本金の蓄積

明治四十一年三月本園を千葉市より成田町へ移轉せし以來各慈善家より本園へ寄附せられたる金員を蓄積し將來の基本金を作るの方針を採り着々實行中恰も前掲の如く宮内省内務省及本縣より本園へ事業資金として金圓の下賜あり依て政府の斯道に對する意嚮奬勵も茲に存するを知れるも本園より進んで寄附金を受けんとするの方法を採るは住々世の誤解を受くるの嫌ひあるを以て全然勸募方法を採らず一に篤志家の同情義捐に任せ其結果として現下は金壹萬參千百五拾四圓五拾六錢と勸業債券拾圓券六拾四枚五圓券二枚(三月三十一日調)を有するに至る殊に敬服すべきは成田町々民諸君の美風にして一朝其家人に不幸あるときは其追善供養の爲に大抵本園に金圓を寄附し其意を表せらるゝことなり

◎感謝錄

本年度に於て各篤志家より本園に寄附せられたるもの左の如く茲に記して衷心感謝の意を表す但し各團体より寄贈せらるゝ雜誌等は之を略せり

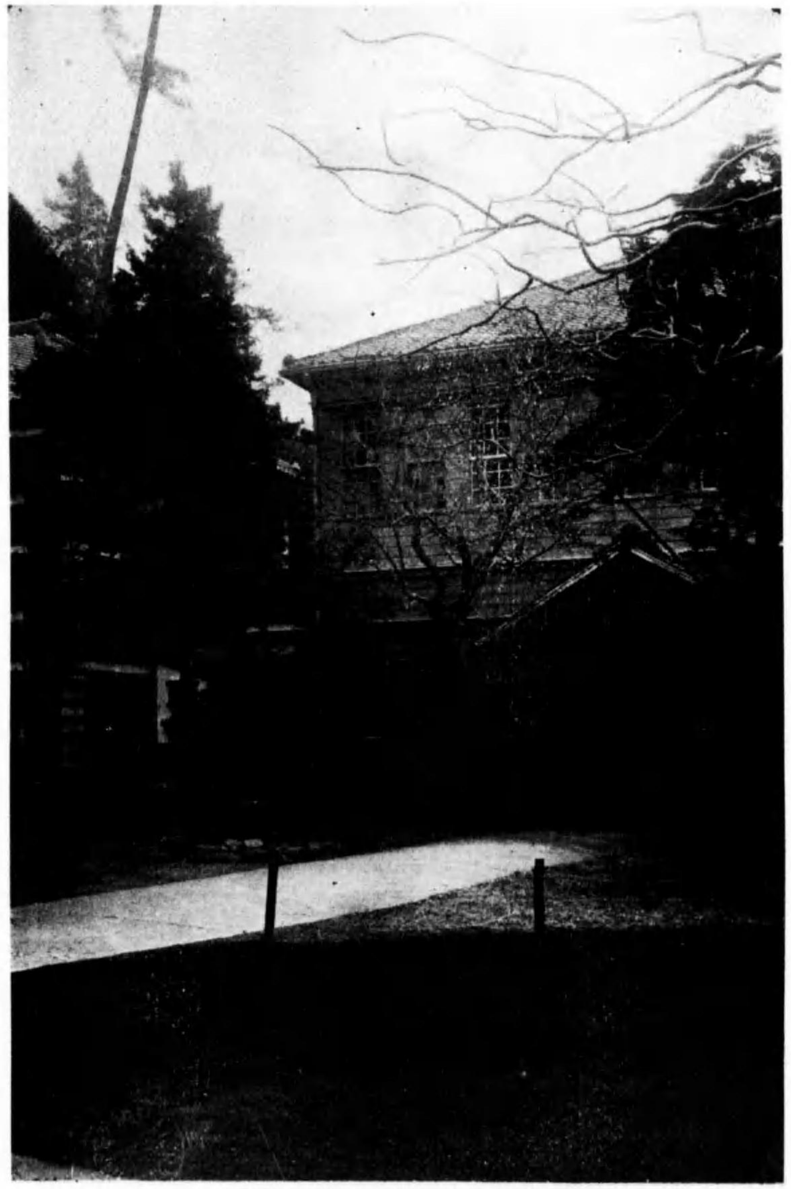
一金拾圓也　潤田健二殿(成田)
一金五圓也　福島爲義殿(成田)
一金五圓也　松崎久左衛門殿(横濱)
一金參圓也　坂口武平殿(成田)
一金六百圓也(同領宛三年間)　友家殿(東京)
一金參百圓也(仝右)　岩崎家殿(仝)
一金五圓也　山本信三郎殿(成田)
一金拾圓也　河合春雄殿(成田)
一布製夏帽子　二十六個　小川惠嗣殿(東京)
一ソツシヤー取付附屬器具一式　饗庭萬次郎殿(東京)
一洋画一面　大竹哲太郎殿(東京)
一洋画一面(額縁共)　鈴木民次郎殿(成田)
一御菓子澤山　若松分店殿(成田)
一理髮(毎月一回)　平澤光殿(成田)

以上

成田圖書館一覽

圖書館事務體系……一
登館各位にお願ひ……二
館勢要綱……三
沿革大略……三
建物及敷地……四
經費……五
蔵書……五
目錄……五
職員……六
閲覽狀況……六
閲覽統計……七
私立成田圖書館規則……七
成田圖書館圖書貸出規則……八
情報……九
本館と小學校との連絡……一〇
新制圖書分類の實施……一〇
圖書分類要目表……一一
主要錄事……一二
圖書寄贈者芳名……一二
雜誌新聞寄贈者芳名……一四

露光量違いの為重複撮影



成田圖書館

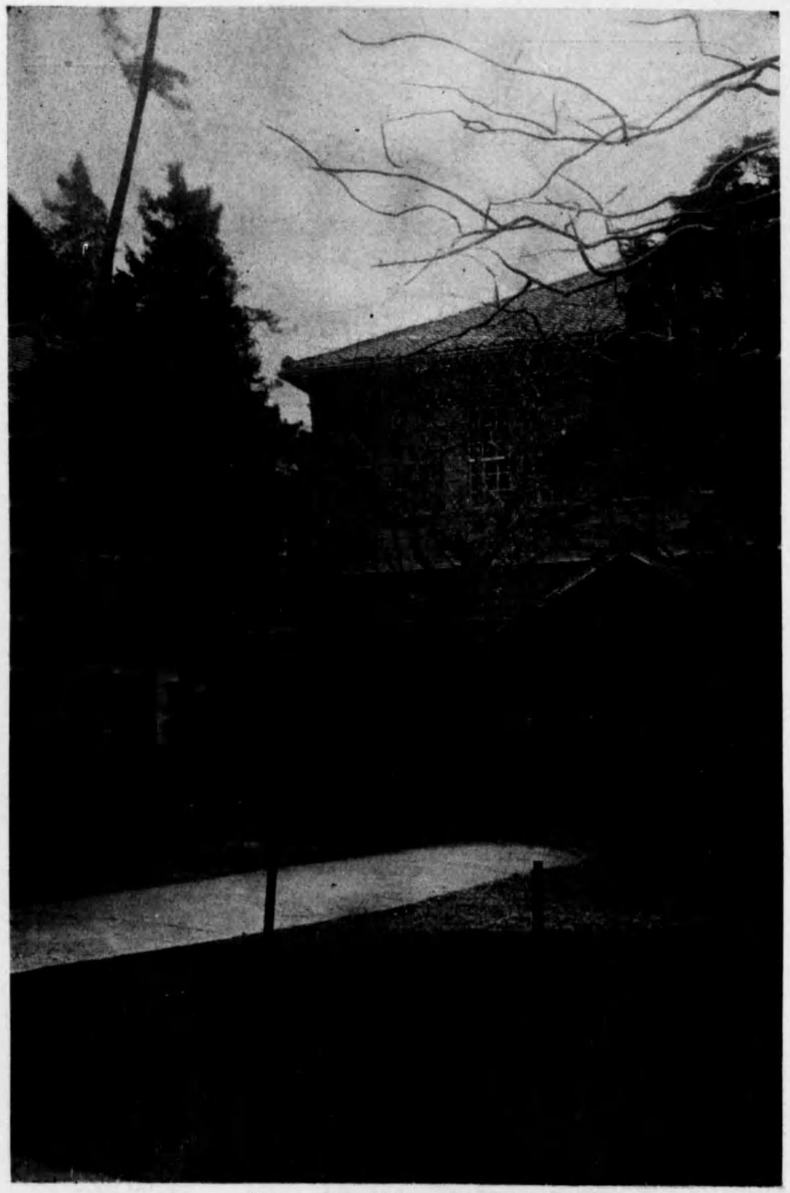
德道館書圖

▼本館ノ規則ヲ守ラレタキコト
▼御所持品一切ハ各自ニ於テモ盜難、遺失ニ御注意ノコト
▼閲覧室ハ靜肅ヲ保タレタキコト
▼秩序ヲ保タレタキコト
▼帶出圖書ハ期限ヲ守ラレタキコト
▼借リタ圖書ハ「また貸」ヲナサラヌコト
▼他ノ閲覧者ニ迷惑ヲカケヌ樣心懸ケタキコト

圖書ヲ愛シ圖書館ヲ理解サレタキコト

▼圖書ハ叮嚀ニ取扱ハレタキコト
▼讀ミナガラ物ヲ食ベヌコト
▼指ヲナメテ頁ヲ繰ラヌコト
▼圖書ヲ捲イタリ、頁ヲ折ツタリナサラヌコト
▼圖書ヘノ書入レヤ汚損ニ注意アリタキコト
▼圖書ヲ讀ミ放ッニナサラヌコト
▼圖書ヲ投ゲタリ、落シタリナサラヌコト

露光量違いの為重複撮影



成田圖書館

德道館書圖

▼本館ノ規則ヲ守ラレタキコト

▼御所持品一切ハ各自ニ於テモ盜難、遺失ニ御注意ノコト

▼閲覧室ハ靜肅ヲ保タレタキコト

▼秩序ヲ保タレタキコト

▼帶出圖書ハ期限ヲ守ラレタキコト

▼借リタ圖書ハ「また貸」ヲナサラヌコト

▼他ノ閲覧者ニ迷惑ヲカケヌ様心懸ケタキコト

圖書ヲ愛シ圖書館ヲ理解サレタキコト

▼圖書ハ叮嚀ニ取扱ハレタキコト

▼讀ミナガラ物ヲ食ベヌコト

▼指ヲナメテ頁ヲ繰ラヌコト

▼圖書ヲ捲イタリ、頁ヲ折フタリナサラヌコト

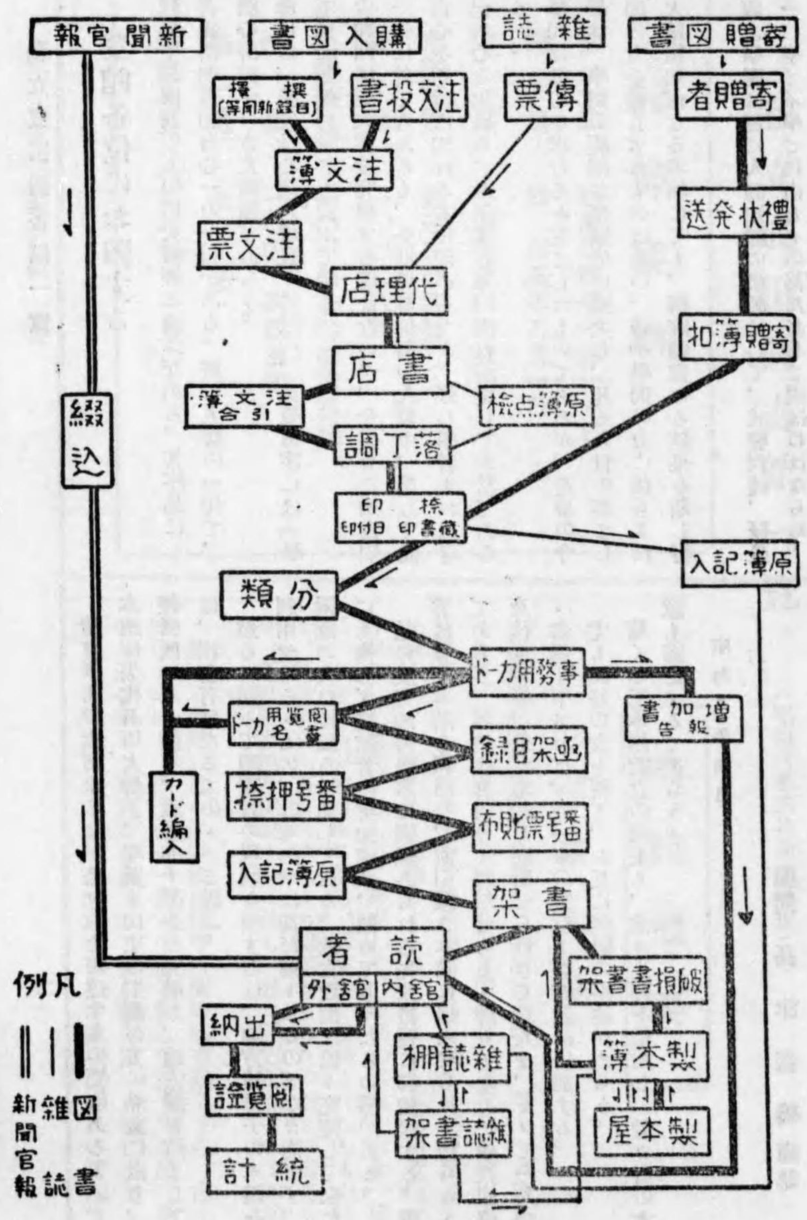
▼圖書ヘノ書入レヤ汚損ニ注意アリタキコト

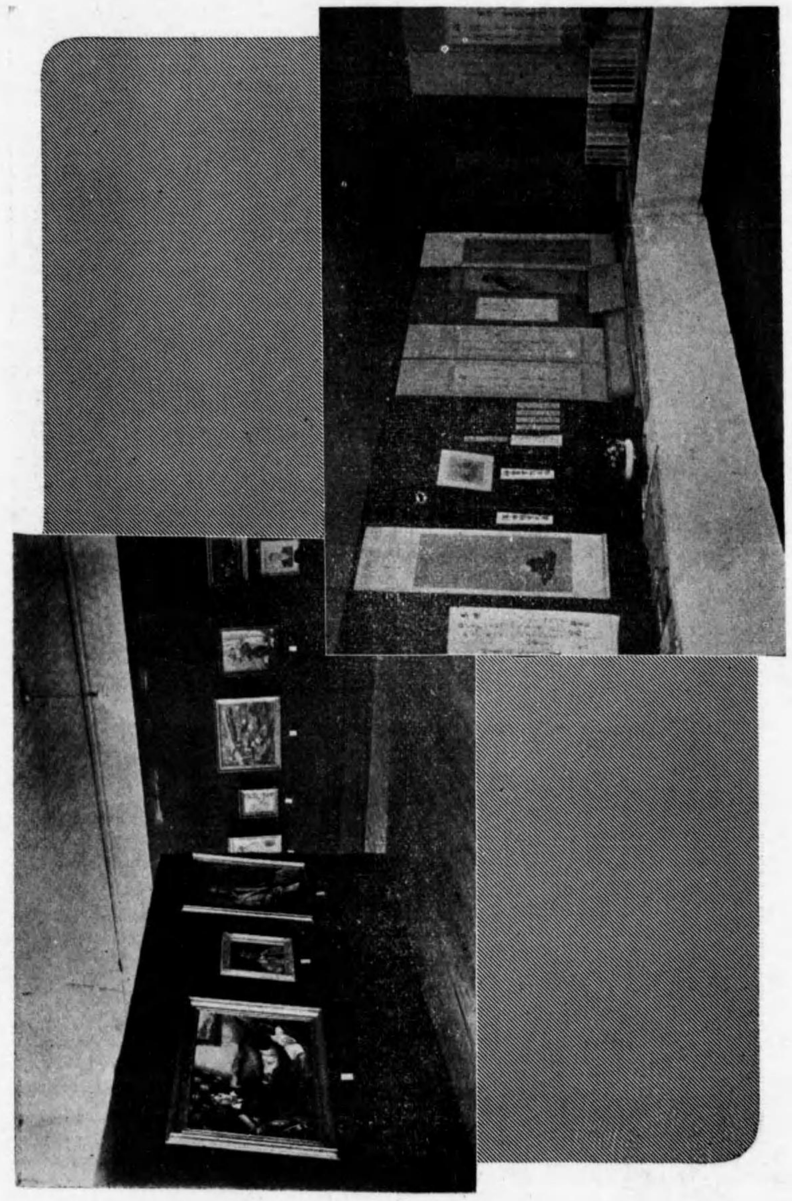
▼圖書ヲ讀ミ放シニナサラヌコト

▼圖書ヲ投ゲタリ、落シタリナサラヌコト

系體務事館書圖

すまりこを路經たしうかこる來へ館書圖が本の册一





會覽展古懷翁貫魚山神

會覽展書洋會陽鄰

登館各位にお願する

密教經典中最樞要のものに大日經と謂ふがある。其序品に「云何菩提謂如實知自心」の一句がある。實に大切の一句で、學者の潛心研討すべき大問題であらう。

書經畢命には「雖收放心閑之維難」と云へ、文苑傳序には「學者如牛毛成者如麟角」とも云ふて居る

學問の範圍は廣大無邊究極する所はないが、今假りに如實知自心の一句に就て考ふるも、全世界幾億萬の人類中、果して能く自分自心を如實に知れるものがあらうか。好し學者夫れ自身は、自己の心を知れりと考了するも、夫れが果して本當であらうかどうか。

古の學問は放心を求むるを主としたものであるが、進歩の今日の世界は、學問の範圍が無限的に擴大し、凡そ人世の事として、學問の力を假らざるものはない。否や學問の力に依らざれば、細大精粗如何なる事柄にても、精確適當なる結果を期し得ない。

依是觀之學問は實に人間知識の泉源にして、成毀利鈍、賢愚屈伸、一に學と不學とに由るもの甚だ多しと謂はねばならぬ。

讀書學問の大切なるは、是れ以上縷述するの要はあるまい。本館は先代石川大僧正、現荒木山主の引續いての熱意に由り、經營既に三十餘年、藏書亦十萬册を突破し、地方圖書館としては、相當有爲なるものゝ一と思ふ。

然るに顧みて閲覽者の現狀を檢するに、地方讀書子の本館を利用せらるゝもの、其增加率は甚だ遲々たるの感なき能はず。附近の人口は頗る增加して居る。教育設備は追々完備して來たにも拘らず登館者の增加率は、極めて遲々たるの感がある。

玆に於て地方學事に關係あられる先輩諸賢に御依賴する。諸君は曾て本館を利用し、尙引續き本館に出入せられて居らるゝであらう。各位は御自分で利用せらるゝ計りでなく、學友同僚及後進者等、未だ本館を應用せられざる新人を、セメて一人つゝ、御誘引下されば、此一事の實行で登館者は倍加する。

尤も同好の友を得て、お互に無限の得益があらう。

斯くして本館設立の効果も、愈々光輝を倍增し、設立者の本意も滿足するであらう。

昭和八年四月

顧問　高津親義謹誌

私立成田圖書館一覽

（昭和八年三月末日現在）

館勢要綱

創立	明治三四年一月一一日
開館	同　三五年二月一日
位置	千葉縣成田町成田
建物坪數	延三三〇坪餘
敷地	一、〇二八坪
經費(決算)	一〇、〇七〇圓四四錢
藏書	一〇四、四四五册
職員	七名
閲覽人員（一日平均）	一五〇人

本館概要

◎沿革大略

本館は成田山の經營に屬し、明治三十四年一月十一日創立認可を得、翌三十五年二月一日を以て開館す、現在地は成田山本堂の東に位し北に公園を、南及東に市區を控へ好適の位置たるを疑はず、されど玆に遺憾とするは、もと〳〵本館閲覽室は圖書館として建設せしものに非ずして、最初明治三十三年一府三縣の水產物品評會開催に際し、其會場に貸與されたるものにして、其後故石川貫首の歐米より歸朝せらるゝや僧正の發意により、斷然圖書館を開設するに決し、玆に洋行記念として本館は生れたり。

斯くて開館に當り不取敢新勝寺所藏の圖書約七千餘、山主書齋のもの約七千餘、合計一萬五千册を移して兎も角開館。當時は勿論書庫もなければ目錄もなく單に閲覽室の四圍に書架を羅列して、所謂今日の公開書架式なりしが漸次閲覽人の增加と共

に職員も增し三十五年六月には和漢書分類假目錄完成、次いで三十八年二月より館外貸出を開始、爾來年を逐ふて藏書增嵩愈々書庫の必要を痛感し、三十九年三月書庫新築、四十年六月九日之が落成式を擧行し此日を以て本館永遠の記念日となすに至る。

藏書も四十一年に及んで四万册を越えたれば玆に印刷目錄の切要を感じ四十三年十月和漢書分類目錄第一編を刊行し、更に大正三年三月第二編の印刷目錄を刊行するに至る。

四十四年一月より夜間開館を實施倍々閲覽者の便宜を圖る。降つて大正十三年、館長石川僧正物故せらるゝに及び直に現貫首荒木僧正後を襲ふて館長となる。

この間、主事高津親義氏は開館以來の主事として館務を鞅掌し來りしも、昭和二年十二月老齢の故を以て勇退顧問となり、翌三年五月小林力彌氏(前成田中學校長)後任として就職、次いで昭和四年四月仝氏の退職に伴ひ、同年五月高井觀海氏(現智山專門學校長)の兼務就任を見たるも仝學校長となるに及んで引退現在に及ぶ。

一方藏書は昭和五年七月に至り、故木村泰賢博士愛藏の文庫約一千册(主として印度原典)を移管したるを以て愈々内容の充實を加へ、内外諸般の活動も逐次敢行し得るに至りしを以て今後は漸次地方文化の啓發に寄與し得ると共に益々その機能を發揮し得るや必せり。

◎建物及敷地

閲覽室(木造二階建)	延　七十七坪
目錄席(木　造)	六　坪
事務席(仝　〃)	九　坪
宿直室(仝　〃)	四　坪
使丁室(仝　〃)	三　坪
休憩所(仝　〃)	三　坪
應接室(煉瓦造)	六　坪
書　庫(仝　三階建)	延　九十坪
雜誌書庫(木　造)	六　坪
住宅其他附屬建物(木　造)	延　百廿六坪餘

閲覽室は固より舊物利用のものなれば多少遺憾の點あるは免かれざるも、之を適當に指定區分し閲覽者の自治的感念に委ねてゐる。即ち階上を一般閲覽室とし、階下は婦人、兒童、新聞の各席に指定しあるも嚴密なる區分を施さず、寧ろ自由開放といふも差支へなき程度のものである。又事務席は階下閲覽室の一角に設け、事務と監視とを兼ねつゝある。

書庫は明治四十年の新築なるも、年々縷報の如く藏書充滿、愈々增築の必要切なるものがある。

◎經費

○昭和七年度決算額

(一) 職員給、雜給	四、九〇九円〇〇
(二) 需用費其他	一、一六六、七五
(三) 圖書費(新聞、雜誌、製本費等)	三、七〇七、五六
(四) 營繕費	二八六、六三
計	一〇、〇七〇、四四

◎藏書

○昭和七年度增加書

和　漢　書	二、二一四册
洋　　書	一九册
計	二、二三三册

○昭和八年三月末日現在圖書數

和　漢　書	九九、四四七册
洋　　書	四、九九八册
合　　計	一〇四、四四五册

藏書として購入すべき圖書の標準は勿論一般公共圖書館のそれと大同小異であるが、宗教地にある本館としては勢ひ宗教的文獻に力を須ひざるを得ない立場にある。

藏書の增加率は大體寄贈を合して年々二千册内外ではあるがそれでも今日では標記の如く十萬を以て算するに至つた爲め、成田町の人口一萬人と見るも優に一人當り十册餘となる譯で萬事都會中心に偏重しつゝある今日眞に地方的貢獻をなしつゝあるといふも過當ではなからう。

尙雜誌は新聞を合して約二百餘種の備付けがあるが、この中雜誌は年々合册製本して一般藏書と同樣の取扱をなしてゐる。殊に佛教雜誌に至つては明治後半期より蒐集しあるもの相當あるを以て近時專門學徒の研究に供し得るは喜ばしき事である。

◎目錄

目錄は大別して來館者の爲のカード目錄と外部にある者に對する印刷目錄との二種に分ける事が能きる。

本館備付のカード目錄は「分類」と「書名」の二種であるが實際上使用率の多いのは矢張分類目錄である。更に之を時代別に見るときは舊きものより新しきものが使用されてゐる。

尤も昭和四年以前の分類は多少杜撰であるに加へ其後のものは從來の八門分類制を廢し別記新制の十進分類に改めたるを以て無論組織も一變し精細となりたる爲檢索上の利便を增大した事にも依る。

印刷目錄は第二編迄の刊行成り、大正三年初期迄の藏書を發表し得たのであるが其後種々の關係上印刷の機會なく今日に還

延してゐるものゝは云へ事實其の內容は優に第四乃至第五編迄は刊行し得る見込てある。隨つて他日續編上梓の曉は一段の貢献をなし得ることゝ思ふ。

次に、時々其都度領布したる「增加書の知らせ」も單なる謄寫刷の不定期報告であつたが今回面目を一新し季刊として印刷配布することになつた。

◎職員

館主兼館長　荒木照定
顧問　高津親義
司書　成田善亮
同　高田定吉
司書補　小川益藏
事務員　武士田文哉
同　岩館衞

事務の單位は早く良く、又總般的には少數員數を以て大能率を示すといふのがオフィスの要針と見る。これは單り圖書館のみでなく汎ゆる方面の事務に亘つて通有性のものであらう。

ところが、圖書館の事務は內省的で而も極めてデリケートな能力を要する爲め兎角能率に影響を來す怖れがある。そしてその反面には、健康問題も認識せねばならない。

この間に處して、本館の如き圖書館の內容及成績に對し比較的僅少の職員を以て事務の大に當りつゝあるといふは畢竟職員が仕事そのものに全幅の興味を感じ得る所以に外ならぬ。

本館事務員故海瀨健示は昨年二月以來病臥療養中の處五月二十日病勢革り逝去せるは哀惜に堪えざる處である。

これに關し實家より故人の供養にもと若干の金圓を贈られたことは洵に有意義であり、感謝に堪えない。この折角の厚意に酬ゆる爲め適當の圖書を購求し記念と致し度く考慮中である。

◎閱覽狀況

閱覽狀態は年々向上し其數より見ても增加の傾向を辿りつゝある。閱覽圖書の中で最も歡迎される圖書の種別は矢張文學物殊に小說であるが圖書館は讀書に依る「研究」と「娛樂」とを提供する機關である以上これ等娛樂物の歡迎も決して悲觀事ではなく、寧ろ讀書過程の搖籃時代にあるものとして大いに敬愛すべき大衆と見るべきである。次は中等學校及小學校兒童の讀物、即ち參考書並に兒童讀物である。而も兒童物は小學校の學級出張閱覽もあり、旁々自由尊重の意味で閱覽室に開放し、取捨選擇を自由にせしめてゐる爲め統計漏れの閱覽も相當あれば閱覽成績の實數は或は之を以て最とすべきかも知れない。

從つて閱覽者も學生生徒が第一位を占め、時間的には午前よりも午後の方が登館者が多い。

閱覽者の地方的分野は矢張成田町が筆頭であるが漸次隣村青年の讀書慾が向上しつゝある點は產業振興、思想善導上喜ぶべき現象である。

尙一方館外貸出も實施し居るがこれも逐年增加の趨勢を示し現在三百六名を算してゐる。

昭和七年度　閱覽統計（開館日數三二三日）

種別	館內	館外	合計	百分比例
總類	四三〇五	五〇四二	九三四七	一三・〇
閱覽 宗教・哲學・教育	三三〇二	六二一六	九四一八	一三・一
文學・語學	七〇三二	九五〇六	一六〇三八	二三・〇
圖書 藝術・演藝	一〇七四	一二七一	二三四五	三・一
歷史・傳記	三三一〇	二四九一	五八〇一	八・一
書類 地理・紀行	一六〇二	一五四四	三一四六	四・四
政治・法律	二五〇五	一五一二	四〇一七	五・六
別 經濟・軍事	一六〇二	一五四四	三一四六	四・四
社會・風俗・家庭	二五〇五	一五一二	四〇一七	五・六
娛樂・運動	二五〇五	一五一二	四〇一七	五・六
理學・數學・醫學	二八三一	七五二	三五八三	五・〇
工學・交通・通信	八二二	三二四	一一六四	一・五

閱覽人職業別

種別	館內	館外	合計	一日平均
產業	一五六六	三二八七	三八五三	五・四
兒童圖書	一二一四八	七四五	一二八九三	一七・八
合計	四〇三二九	三一四一九	七一九八七	一〇〇・〇
一日平均	一二五・一	九七・八	二二二・九	—

種別	館內	館外	合計	一日平均
學生	七五二一	四四二六	一一九三七	三七・〇
官公吏	二七五	二七三	五四八	一・七
實業	三一九三	九一九九	一二三九二	三八・四
婦人	一一九五	一〇六五	二二六〇	七・〇
兒童	一〇〇二	三五二	一〇三六四	三二・一
其他	二三七七	八七六〇	一一一三七	三四・五
合計	二四五六三	二四〇七五	四八六三八	一五〇・五

◎私立成田圖書館規則

第一條　本館ハ主トシテ一般圖書、雜誌等ヲ蒐集シテ廣ク公衆ノ閱覽ニ供シ社會ノ智德啓發ニ裨益スルヲ以テ目的トス

第二條　何人ニテモ滿十二歲以上ノ者ハ本館ニ來リテ圖書ノ借覽ヲナスコトヲ得

第三條　本館ハ左ノ時限ヲ以テ開閉ス

	開館時限	閉館時限
四月	午前八時	午後八時半
五月		
六月		
七月		
八月		
九月		
十月		
十一月	午前九時	午後八時
十二月		
一月		
二月		
三月		

第四條　本館ノ定期休日ハ左ノ如シ但臨時休館ハ其時々掲示ス

歳首　自一月一日　至同七日　館内掃除　毎月末日
紀元節　二月十一日　天長節　四月二十九日
記念日　六月九日　明治節　十一月三日
曝書期　九、十月中　末　自十二月廿八日　至同三十一日
凡十日内外歳

第五條　本館内ノ圖書閲覧ハ總テ無料トス

第六條　圖書閲覧希望者ハ圖書閲覧證ヘ求需ノ書名冊數番號及住所職業氏名月日ヲ記入シ出納所ヘ提出シテ書冊ヲ借受クベシ

第七條　貸附圖書ノ員數ハ求覧人ニ對シ一時ニ和裝書ハ二種十二冊洋裝書ハ二種二冊ヲ限リトシ和洋併借ノ時ハ各其半數ニ過グルヲ得ズ
但語學ニ關スル辭書ノ併借ハ此ノ制限外トス

第八條　借受ノ圖書ハ閲覧室外ヘ携帶スルコトヲ得ズ

第九條　過失ト故意トニ關セズ借受ノ圖書ヲ紛失シ又ハ汚損毀傷シタル時ハ同一ノ圖書若クハ相當代價ヲ辨償セシム但汚損ノ狀況ニ依リ本文ヲ斟酌スルコトアルベシ又其行爲ノ次第ニ依リ一ケ月乃至一年間登館ヲ謝絶スルコトアルベシ

第十條　本館ノ規則ニ違背シ又ハ不法ノ行爲アル者ハ其情狀ニ依リ登館ヲ謝絶スルコトアルベシ

第十一條　閲覧席ヲ一般、婦人、兒童ノ三區ニ別チアレバ猥リニ他席ヲ侵スベカラズ

第十二條　閲覧所内ニ於テハ一切音讀、談話、喫煙ヲ禁ズ

第十三條　何人ニテモ圖書ヲ寄贈セラルヽトキハ其目錄員數及住所氏名ヲ詳記シ寄贈圖書ニ添テ送付セラレタシ但寄贈圖書運搬費用ヲ自辨シ難キ向ハ時宜ニ依リ本館ヨリ支辨ス

第十四條　凡ソ公衆ノ閲覧ニ供シ若シクハ保管ヲ請フノ目的ヲ以テ本館ニ圖書ヲ委託セント欲スル者ハ其事由目錄員數ヲ詳記シ必ズ本館ヘ照會シ承諾ヲ得タル後其圖書ヲ送致サルベシ
委託ノ圖書ハ館藏ト同一ノ取扱ヲナスベシ
委託ノ圖書ハ厚ク保藏スト雖モ不幸火災盜難其他天災ニ罹リテ損失敗亡ヲ來スコトアリトモ本館ハ其責ニ任セズ

第十五條　館外圖書貸出規則ハ別ニ之ヲ定ム　以上

◎成田圖書館圖書貸出規則

第一條　本館圖書帶出ノ希望者ハ左記ノ手續ヲナスベシ

一、圖書帶出願書ヲ差出スベシ（用紙ハ本館交附）
二、圖書帶出願書ニハ本館ノ承認セル保證人ヲ要ス
三、帶出料金壹圓ヲ豫納スベシ
四、成田中學校、成田高等女學校、成田學園、成田幼稚園、新更會ノ教職員ハ同主任若クハ理事ノ保證ニ依リ帶出ヲ許可ス
五、新勝寺徒弟詰合員ニ限リ同寺執事ノ證明ニ依リ成田尋常高等小學校職員ニ限リ同學校長ノ保證ニ依リ帶出ヲ許可ス
六、四、五項ノ場合ニハ帶出料ヲ要セズ

第二條　本館ハ前條ノ手續ヲ了シタル上ニテ帶出簿ヲ交附ス

第三條　帶出有効期間ハ一ケ年トス

第四條　貸出圖書數ハ一回ニ付和裝書ハ三冊以内洋裝書ハ一冊トス

第五條　貸出期間ハ一週間以上三週間以内ノ範圍ニ於テ本館ノ見込ヲ以テ其時々之ヲ定ム

第六條　期限ニ至リ尚續借セントスルモノハ一旦返納シ更ニ借受ノ手續ヲナスベシ
但他ニ同書ノ借覧ヲ請フモノアル時ハ續借ヲ謝絶スルコトアルベシ

第七條　特許借受ノ圖書ト雖モ本館ニ於テ要用アル時ハ臨時返戻セシムルコトアルベシ

第八條　帶出權ヲ得タルモノニシテ他所ヘ轉居シタル場合又ハ改名シタル合ハ其都度届出ヅベシ

第九條　保證人死亡其他ノ事故ニ依リ資格ヲ失ヒタル時ハ更ニ保證人ヲ定メ定式ノ證書ヲ差出スベシ

第十條　左記ニ該當スル圖書ハ帶出ヲ許サズ
一、大部ノ圖書
二、各學科ノ事彙、辭書、類書、書目、新聞
三、館内閲覧人ノ請求多キ圖書
四、貴重高價ナル圖書
五、新刊圖書ハ二ケ月乃至三ケ月後定期刊行書雜誌類ハ裝釘ノ上ニアラザレバ貸出セズ

第十一條　借覧期限ヲ經過シ本館ノ注意ヲ受クル二回ニ及ビ尚返戻セザル時ハ本館ハ圖書帶出ノ効力ヲ取消シ其事情ニヨリ再ビ之ヲ許可セザルベシ此場合ニ於テハ帶出圖書ノ代金ハ保證人ニ辨償セシムベシ

第十二條　借受圖書ヲ紛失シ若クハ汚損シタル時ハ本人及保證人ハ辨償ノ責ニ任ズ

第十三條　圖書帶出ハ開館期間中ニ限ルモノトス

第十四條　圖書帶出ヲ中止セントスルトキハ其旨届出ヅベシ
但帶出料ハ返戻セズ

第十五條　圖書帶出有効期間滿期トナリ引續キ希望ノモノハ再ビ帶出願書ヲ差出スベシ　以上

◎本館と小學校との連絡

讀書の鼓吹といふ點については、成人間に之を力むるよりも寧ろ幼少年の時代より書物に親しむの習慣と精神を胚胎せしむるの要あるは、今更言を俟たない事柄である。それについては先づ圖書館と小學校との連絡を第一に考へなければならない

この點を本館は深く考慮し、先年來小學校と協定の結果、差當り五年級以上の學童を、各級交替にて、殆んど隔日位に登館せしめ、約二時間自由讀書の良習を養成し、一方校外教授の目的を達する傍ら、圖書館の實際智識を體得せしむるの方法を講じつゝあるが、其結果成績頗る良好である。

歐米諸國にては、既に實行し居る處も多々ある模樣なるが、我國としては未だその例稀にして、小學校圖書館の極めて幼弱なる現今、大いに各地通俗圖書館の進んで實行すべき性質のものであらうと思ふ。

◎新制圖書分類の實施

昭和四年、從來の八門制分類を十進分類に更めたのを第一次とし、其後縣下圖書館共通分類表作成の機運熟するや昨年八月千葉縣圖書館をはじめ銚子、野田等の縣下有力圖書館と協力して分類表編纂委員會を組織し、全年十二月第一回調査委員會の開催を初めとし漸次會を累ね案を練ること一再ならず、遂に一年有餘の努力成りて本年八月全く脱稿、更に之を印刷刊行を爲すの必要上斯界の權威たる太田爲三郎氏の校閲並に序文と今澤慈海氏の序文を得て愈々錦上花を添へ、本年二月千葉縣圖書館協會の名に於て「和漢洋圖書分類表」の刊行を見たことは寔に同慶と云ふべきである。

これに依つて縣下圖書館分類表の連繫統一が達成され、閲覽者側にも圖書館側にも稗益する處大なるものがある。分類表の一瑣事でさへ縣下統一の事業たるや却々重大なるものであつて恐らく本邦としては唯一の範例として斯界の先驅をなすものと誇り得やう。これが動因となり、強いては全國統一の機運を醸成する一助ともならば幸である。

この分類表の組織は勿論十進法ではあるが本館從來のそれに比し優秀の点多きを以て直に從來の十進分類に依つて整理濟みの藏書は悉く整理の仕直しに着手、引續き之れに沒頭しつゝある。

然し新制分類表の實施とは云へ本館分類の佛教部は一般圖書館に比し藏書蒐集上特色を有するを以て佛教部の分類のみはこれをその儘實施し得ざる爲め今回更に一段の考量を加へより精細なる分類體系を作成して使用することになつた。

新制分類表の要目は左表の通りである。

圖書分類要目表

0 總類

00 鄉土資料
01 圖書・圖書館
02 事彙
03 統計
04 叢書・全集
05 新聞・雜誌
06 協會・學界
08 稀覯書
09 隨筆・雜書

1 宗教・哲學・教育

10 宗教
11 神道
12 佛教
13 基督教
14 哲學
15 論理
16 心理
17 倫理
18 支那哲學
19 教育

2 文學・語學

20 文學
21 日本文學
22 支那文學
23 歐米文學
24 小說・戲曲・講談落語
25 兒童文學
26 論說・演說・式辭速記
27 語學
28 國語
29 外國語

3 藝術・演藝

30 藝術
31 美術
32 書画
33 書道
34 繪畫
35 彫塑・骨董・美術工藝
36 寫眞
37 印刷
38 音樂
39 演藝

4 歷史・傳記・地理・紀行

40 歷史
41 日本史
42 東洋史
43 西洋史
44 傳記
45 地理・紀行
46 日本地誌
47 亞細亞地誌
48 歐羅巴地誌
49 亞米利加其他諸國誌

5 政治・法律・經濟・軍事

50 法制
51 政治
52 外交・國際
53 植民
54 法律
55 經濟
56 財政
57 軍事
58 陸軍
59 海軍

6 社會・風俗・家庭・娯樂・運動

60 社會
61 社會政策
62 社會運動
63 社會思想
64 社會問題・社會事業
65 家族及兩性問題
66 風俗
67 家庭及家政
68 娯樂
69 運動

7 理學・數學・醫學

70 理學
71 數學
72 物理・化學
73 天文學・地文學
74 博物
75 醫學
76 基礎醫學
77 臨床醫學
78 治療學
79 保健法

8 工學・交通・通信

80 工學
81 土木工學
82 建築
83 機械工學
84 電氣工學
85 鑛山學
86 造船學
88 交通
89 通信

9 産業

90 産業
91 農業
92 園藝
93 林業
94 畜産業
95 蠶業
96 水産業
97 工業・工藝
98 鑛業
99 商業

主要錄事

昭和七年
四月十一日 十二日 第四回縣下分類表統一調査會を野田に於て開催參加
五月十九日 故木村泰賢博士文庫整理完成。
五月二十日 本館事務員海瀬健示死去。
五月廿九日 分類表調査終末會議開催。
六月一日 十進分類に依る整理濟藏書の訂正整理開始。
七月九日 雜誌一覽掲示板新設。
七月十五日 事務員岩館衞採用。

自九月二十日 至同 卅一日 曝書及調査施行
自十一月十九日 至同 廿一日 讀書週間行事として鄕陽會第三回洋畫展開催
自同 廿三日 至同 廿五日 神山魚貫翁懶古展並座談會」開催。
昭和八年
三月二日 本縣圖書館協會編纂の『和漢洋圖書分類表』印刷成り、本館の分類組織も之を準用。
三月十四日 千葉縣教育會館に於て第四回縣下圖書館長會議開催出席。
三月十八日 水道消火栓設置。

昭和七年度 圖書寄贈者芳名

（五十音順 敬稱省略）

青木八郎 一四冊
青森通俗圖書館 二
秋守常太郎 一
アルス 一
石川縣立圖書館 三
石橋木三郎 六九
伊藤悠 一
岩倉侯爵遺蹟保存會事務所 一
岩手縣立圖書館 一
上原虎之助 一
潮田健二 二
内田德三郎 二
内山英作 一
遠藤哲巍 一
大草時柳 一
大倉邦彥 一
大藏大臣官房文書課 三
大阪毎日新聞社慈善團 一
大谷大學圖書館 一
大塚俊一 二〇
鳳敎授謝恩賚金募集實行委員 一
大橋圖書館 一
小川繁子 一
小川保 一
小倉道直 一
小寺謙吉 一
海軍々事普及部 一二
金澤市立圖書館 一
鎌田共濟會 二
カムト社 一
樺太廳 一
樺太長官々房調査課 二
川村昌助 一
川村信 四
關西藝術新聞社 一
神崎信男 一
氣學修齊會 一
協調會 一
京都帝國大學附屬圖書館 一
京橋圖書館 一
勸王聯盟本部 一
金融研究會 一
熊平源藏 一
黑田亮 一
慶應義塾 一
啓明會 七
光丘文庫 一
高知縣立圖書館 一
神戸高等工業學校 一
神戸圖書館 一
郊北文學會 二
國際觀光局 一
國際聯盟事務局東京支社 一
小島謙 二
互尊文庫 一
後藤藏四郎 一
小林政助 一
埼玉縣立圖書館 五
齋藤宗正 二
佐賀縣立圖書館 一
佐倉圖書館 一
澤田總重 一
紫雲莊 一
紫苑會 二
ジャパン、ツーリスト、ビューロー 一
上越線全通記念博覽會事務局 二
昭和醫學專門學校 一
植民同志會 一
下村保 五
神宮皇學館 一
眞福寺 一八
杉田正巳 二
鈴木三郎助 一
駿河台圖書館 一
淺草寺敎學部 一
相馬愛藏 一
大藏經出版株式會社 一
台南高等工業學校 一
大日本米穀會 一
台北高等商業學校 一
大連商工會議所 三
台灣敎育會 一
台灣總督府圖書館 一
高岡市立圖書館 一
高田定吉 三
高田芳枝 五
高橋健吉 一五
高松高等商業學校 一
拓務省拓務局 一
拓務省長官々房文書課 二
田中作治郎 一
玉塚榮次郎 一
智恩院事務所 一
智山派敎化事業聯盟 一
智山派宗務所 一
窒素協議會 一
千葉 縣 二一
千葉縣學務部 四
千葉縣學務部長 一
千葉縣知事官房統計課 四
千葉縣知事官房 一
千葉縣地方裁判所長 一
千葉縣立千葉高等女學校 一
中央大學々員會 一
中央報德會 八
朝鮮總督府 一
朝鮮總督府遞信局 四
朝鮮總督府圖書館 一
朝鮮總督府文書課 一
貯金局 一
帝室博物館 一
遞信省郵務局 一
寺内靜 一
寺島敏巧 一
田男爵傳記編纂會 一
天理圖書館 一
東京外國語學校 一
東京科學博物館 一
東京靴同業組合事務所 一
東京高等鐵道學校 一
東京天文台 二
東京府學務部社會課 二
東洋協會 五

東洋文庫 一
外崎覺 一
豐橋市教育會長 一
長尾美知 一
長崎縣立圖書館 一
中山研究所 一
奈良縣立圖書館 一
奈良女子高等師範學校 一
成田町役場 一
成田郵便局 一
成瀨和 三
成東中學校 一
西村美龜次郎 二

日本興業銀行調査課 三
日本弘道會 一
日本社會問題研究所 一
日本赤十字社 一
日本圖書館協會 一
日本料理研究所 一
忍頂寺務 三六
圖館圖書館 一
林壽祐 三
日比谷圖書館兒童部 一
被服協會 一
平澤照尊 二
平野增吉 一

福島商工會議所 一
藤田文吉 一
北海タイムス社 一
北海道協會 一
前田侯爵家 二
松坂屋 四
松平直亮 一
松戸左中 一
滿鮮傳道見學旅行團 一
宮本宥弍 一
明治大學圖書館 一
文部省社會教育局 一
宿利重一 一

山一證券株式會社 一
山口縣立圖書館 二
ヤマサ醬油株式會社尙友會 一
山田保 二
有終會 二
ラス、ビハリ、ボース 二
陸軍省 二
陸軍省調査班 四
陸軍大臣官房 一五
林業試驗場 四

昭和七年度 雜誌新聞寄贈者芳名（毎號寄贈者のみを掲ぐ）〔五十音順、敬稱省略〕

明るい家社
明るい家
秋田縣立圖書館
秋田縣立圖書館報
石川縣立圖書館
石川縣立圖書館報
石川黃兵衛

公民
國家學會雜誌
大日本國防義會々報
內觀
邦文外國雜誌
三田評論
三越

石川富士雄
れきしとちり
上原虎之助
新國民
南柯
潮田健二
土上

牛込新報社
牛込新報
英語青年社
英語青年
大竹又次郎
サンデー毎日
新聞及新聞記者

大友惟誠
兒童保護
大阪教育研究所
教育パンフレット
大阪出版社
英文大阪毎日學習號
大阪商船株式會社

海
小野玄妙
大乘美術
海防義會
海防
外務省情報部
國際事情
學而會
密宗學報
カナモジカイ
カナノヒカリ
鎌田共濟會
鎌田共濟會雜誌
關西藝術新聞社
露
錦旗會本部
日本思想
クリチック社
クリチック
慶應佛教青年會
佛教
京城帝大心理學彙報發行所

心理學彙報
慶嘆會
爐邊者
研究社
研究社月報
公正會
公正會タイムス
高知縣立圖書館
高知縣立圖書館報
神戸市立圖書館
神戸市立圖書館
增加圖書月報
高野山時報社
高野山時報
高野山大學密教研究會
密教研究
國民精神社
國民精神
時事新報成田專賣所
時事新報
實業之世界社
實業之世界

社會教育會
社會教育
宗教の日本社
宗教の日本
十善會
十善寶窟
修驗社
修驗
新更會
新更
新興社
新興
新勝寺收納方
日本勸業銀行月報
神變社
神變
鈴木勇
勤王
須田寬治
週刊朝日
生活社
凡人の力

清觀編輯部
清觀
全國無盡集會所
無盡通信
淺草寺社會部
淺草寺時報
大衆往來社
大衆往來
大正大學淨土學研究室
淨土學
大小タイムス出版所
大タイムス
小タイムス
高田定吉
東京每夕新聞
高田芳枝
話方研究
婦人倶樂部
拓務省拓務局
拓務時報
智山公論社
智山公論

智山派宗務所
智山派宗報
千葉縣教育會
千葉教育
千葉縣社會事業協會
社會事業タイムス
千葉縣消防新聞社
千葉縣消防新聞
千葉縣統計協會
統計
千葉縣圖書館協會
房總圖書館と志料
千葉縣農會
愛土
千葉縣立圖書館
千葉縣立圖書館報
中央大學々員會
中央大學々報
朝鮮總督府
調査月報
朝鮮圖書館研究會
朝鮮の圖書館

露光量違いの為重複撮影

新更會一覽

趣意書……一
會則……二
役員及職員……三
平面圖……五
事業報告……六
新更學院學則……一六
新更學院職員……一七
會員分布現在數……一八
支部分布現在數……一九

土筆社
土筆
帝國水難救濟會
海
帝國圖書館
帝國圖書館報
天理圖書館
天理時報
天理圖書館報
東京朝日新聞社調査課
讀書標
東京科學博物館
自然科學と博物館
東京市養育院
東京市養育院月報
東京堂編輯部
東京堂月報
東總時報社
東總時報
東寺教報社
東時教報
燈台社

黄金時報
冬柏發行所
冬柏
東洋協會
東洋
特許局
特許公報
鳥取縣立圖書館
鳥取縣立圖書館報
中山文庫
安房同人
行方喜一
經濟知識
奈良縣立圖書館
奈良縣立圖書館月報
成田孝子
婦女界
成田高等女學校
校友會雜誌
成田中學校
成邱タイムス
校友會雜誌

成田信
少年倶樂部
西宮市立圖書館
西宮市立圖書館報
日新時報社
日新時報
日本弘道會
弘道
日本植民通信社
植民
日本赤十字社
博愛
日本のローマ字社
ローマ字世界
ローマ字の日本
ばんだね社
ばんだね
日比谷圖書館
東京市立圖書館と其「事業

藤崎公道
結核
綱曹學雜誌

兒科雜誌
實驗治療
社會醫學雜誌
千葉醫學會雜誌
治療及處方
治療藥報
東京醫事新誌
日本消化器病學會雜誌
日本婦人科學會雜誌
皮膚科及泌尿器科雜誌
ミュンヘンネル、メヂチニッシエ、オッヘンシュリフト
通路同行會
通路
奉公會
奉公
房總新聞社
房總新聞
法華會
法華
滿鐵社員會

協和
滿鐵大連圖書館
書香
三成洋書部
ザパイパー
フロム、ミツコシ
水野葉舟
ローマ字
宮内正之助
櫂
森江書店雜誌部
三寶
文部省圖書館講習所
學友會雜誌
謠曲界發行所
謠曲界
よろこび會
よろこび
隣人の友社
隣人の友
早稲田大學々友會
早稲田學報

露光量違いの為重複撮影

新更會一覽

趣意書……一
會則……二
役員及職員……三
平面圖……五
事業報告……六
新更學院學則……一六
新更學院職員……一七
會員分布現在數……一八
支部分布現在數……一九

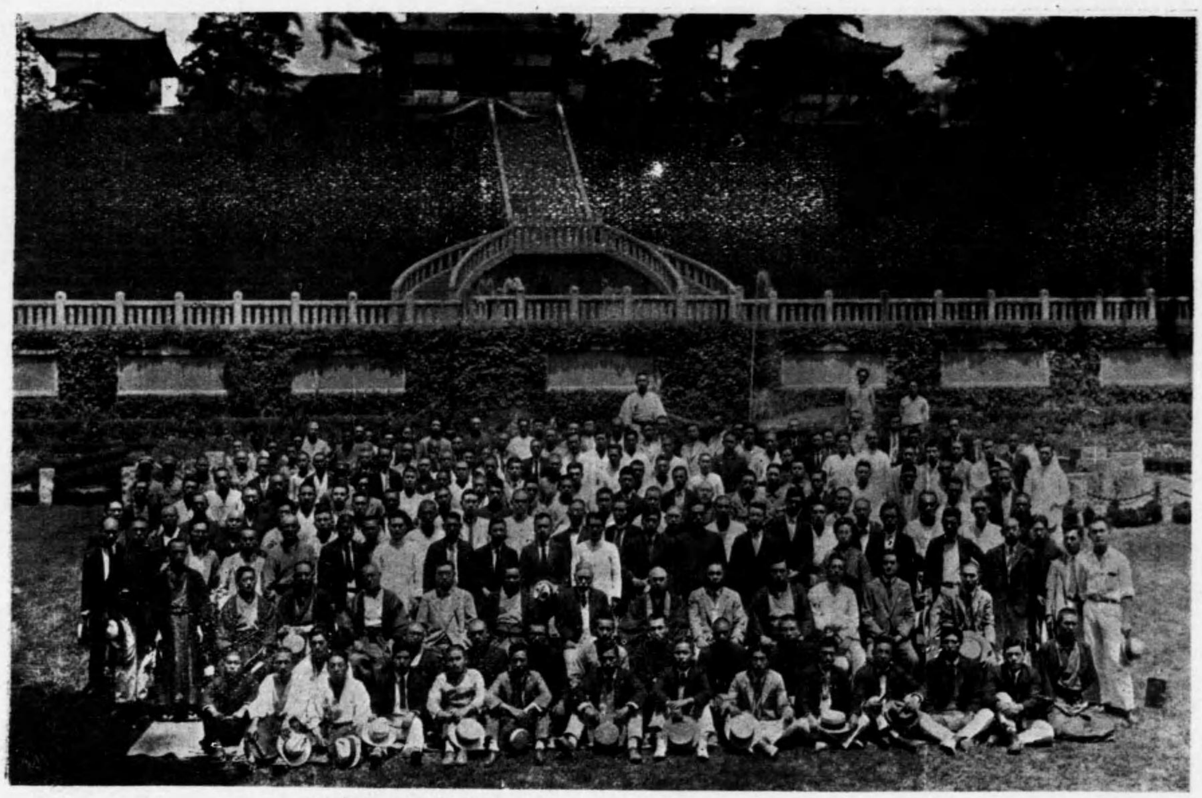
土筆社　土筆
帝國水難救濟會　海
帝國圖書館　帝國圖書館報
天理圖書館　天理時報
天理圖書館報
東京朝日新聞社調査課　讀書標
東京科學博物館　自然科學と博物館
東京市養育院　東京市養育院月報
東京堂編輯部　東京堂月報
東總時報社　東總時報
東寺教報社　東時教報
燈台社

黄金時報
冬柏發行所　冬柏
東洋協會　東洋
特許局　特許公報
鳥取縣立圖書館　鳥取縣立圖書館報
中山文庫　安房同人
行方喜一　經濟知識
奈良縣立圖書館　奈良縣立圖書館月報
成田孝子　婦女界
成田高等女學校　校友會雜誌
成田中學校　成邱タイムス
校友會雜誌

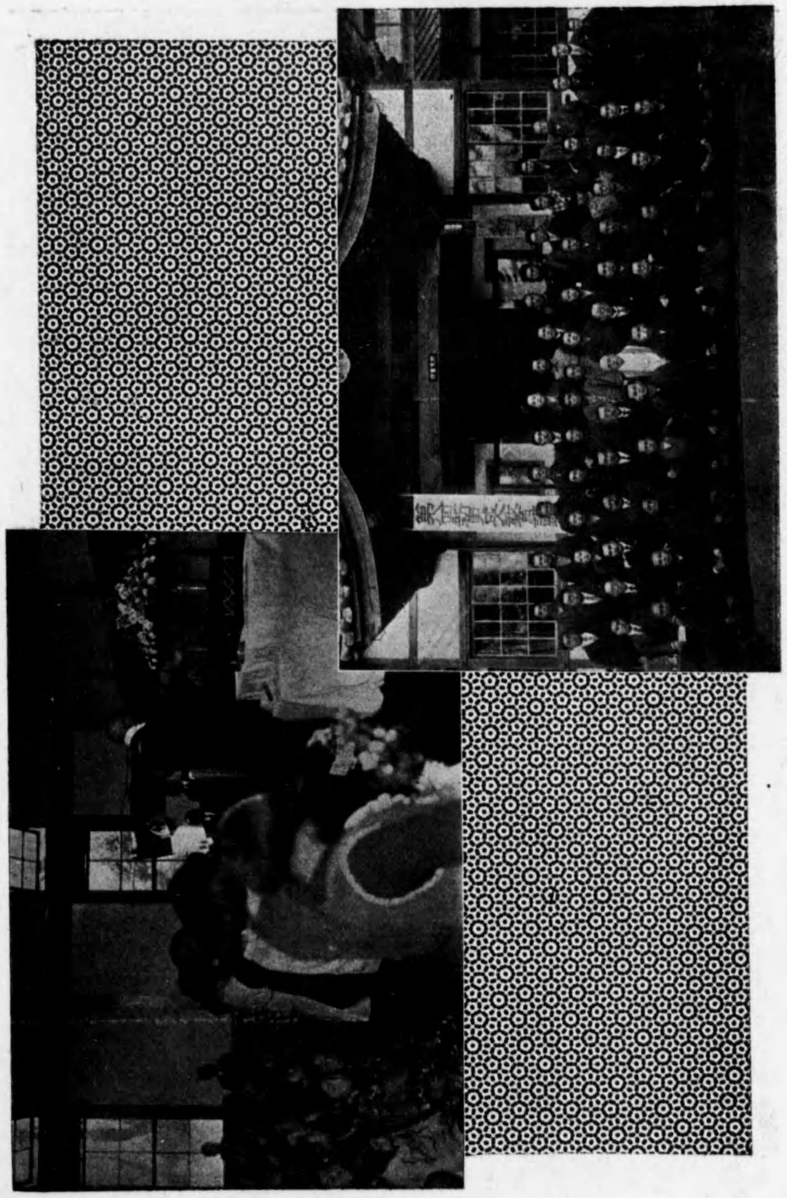
成田信　少年倶樂部
西宮市立圖書館　西宮市立圖書館報
日新時報社　日新時報
日本弘道會　弘道
日本植民通信社　植民
日本赤十字社　博愛
日本のローマ字社　ローマ字世界
ローマ字の日本
ばんだね社　ばんだね
日比谷圖書館　東京市立圖書館と其「事業
藤崎公道　結核
細菌學雜誌

兒科雜誌
實驗治療
社會醫學雜誌
千葉醫學會雜誌
治療及處方
治療寫報
東京醫事新誌
日本消化器病學會雜誌
日本婦人科學會雜誌
皮膚科及泌尿器科雜誌
ミュンヘンネル、メヂチニツシエ、オツハンシュリフト
通路同行會　通路
奉公會　奉公
房總新聞社　房總新聞
法華會　法華
滿鐵社員會

協和
滿鐵大連圖書館　書香
三越洋書部　ザパイパー
フロム、ミツコシ
水野葉舟　ローマ字
宮内正之助　櫛
森江書店雜誌部　三寶
文部省圖書館講習所　學友會雜誌
謠曲界發行所　謠曲界
よろこび會　よろこび
隣人の友社　隣人の友
早稲田大學々友會　早稲田學報



第四回夏季大學聽講生



第八回新更人敎育講習會 合宿講習生

花祭大會

新更會一覽

趣意書

新更會は、成田山現貫主荒木照定師の純意に依り昭和三年六月五日を以て發會せられたる修養團體である。

現今我國の世相が頗る不安の狀態に陷りつゝあることは識者の等しく痛嘆する所である。蓋し明治末葉以來、國民精神の上に一種の暗影を生じ來り爲めに人心漸く輕佻懶惰に流れ上下反目し同胞離反するの傾向日々に强く、延いて國民的團結力の上に甚だ面白からざる結果を生ずるに至つた。これ蓋し我國の長き模倣文明に依る一の惡結果と云ふべきものにして、今や我國は、正に模倣時代より一歩創造の時代に入らねばならぬのである。

畏くも今上陛下は朝見式の御詔勅に「創造ニ勗メヨ」との御詞を下し賜はつた。此御詞は實に現代の我國民の向ふ所を明らかにお示しになられたものである。吾人は此の聖旨を体して國民意識の向ふ所を明らかにし、社會人心の不安を除去して、茲に新日本の文化を創造建設し、以て聖慮を安んじ奉ることを勗めねばならぬのであつて、本會設立の所以も亦茲にある。

凡そ一國風敎の刷新、精神の振興は、健實なる敎育にまたねばならぬ。然るに從來我國に於ては、敎育とは單に學校敎育のみを指すものなるが如く考へられ、學校以外の敎育の甚だ重大なる事を看過するの傾向いよ〳〵濃厚となり、從つて敎育は知識偏重主義に流れ、健實なる人格の養成は日々に退歩し、遂に社會的不安を惹起するに至つたのである。

蓋し、健實なる人格の涵養、社會の精神的覺醒は、是非學校に於ける知的敎育のみに依賴すべきものではなく、日常生活に於ける社會的交渉の過程に於て、各自の修養練磨に依つて達成せらるゝものである。社會に於ける吾等人間の關係は、之を敎育的に見るならば、必らず敎へ敎へらるゝ所の關係にあるものにして、社會敎育の重大なることは茲に存するのである。從つて學校生活を終りて此の社會生活に第一歩を乘出せる所の所謂成人（青年）に對する敎育は最も重大である。何となれば、彼等青年は、社會の敎へ敎へられる所の世界に入りて、其の社會敎育の一要素を構成する所の人々なるが故である。かくて此成人敎育なるものは、漸く近時世人の注意を喚起し來れるのであるが、この成人敎育なるものは、主として知的なる學校敎育を

補ふと同時に、社會へ出て社會教育の一要素となり教育的活動を開始するにいたる所の成人を對象として、社會生活上に必要なる精神的訓練を爲し、知的人格よりも「正しき國民」としての人格を養成せんとするものにして、國民精神の振興も亦是の如き教育の力にまつこと甚だ大である。

本會が其の目的達成のために主として成人教育事業に全力を傾注せる理由も、まつたく茲に存するのである。

新更會々則

第一條　本會ハ健全ナル皇國傳統ノ思想ト鞏固ナル宗教的信念トノ下ニ國民精神ヲ作興スルヲ以テ目的トス

第二條　本會ハ新更會ト稱ス

第三條　本會ハ第一條ノ目的ヲ達成スル爲ニ左記事業ヲ行フ

一、合宿講習會ノ開設、會員相互ノ精神的團結向上ノ爲ニ指導者ト會員トノ寢食ヲ共ニスル講習會ヲ毎年二回以上開催ス

二、成人講座ノ開設、會員ノ研究修養ノ爲ニ隨時講義會ヲ開催ス

三、修養講演會開催、會員及一般公衆ノ爲隨時講演會ヲ開催ス

四、鄕土史料ノ陳列、史料中文書ニ屬スルモノ又ハ歷史、技藝ニ關スルモノヲ努メテ蒐集シ新更會館ニ陳列シテ會員及公衆ノ閲覽ニ供ス

五、雜誌及圖書ノ刊行配布、本會ハ月刊雜誌「新更」及其ノ他ノ圖書ヲ刊行配布ス

六、圖書閲覽及貸出、成田圖書館利用ニ關スル各般ノ施設

七、會館ノ貸與、本會ノ目的ニ適合スル各般ノ集會等ニ本會館ヲ貸與ス、但シ長期ニ涉ラサルコト

八、其他第一條ノ目的遂行ノ爲ニ必要ナル事業ヲ行フ

第四條　本會ノ會員ハ左ノ三種トス

正會員、成規ノ手續ヲ經テ入會シタル者

賛助會員、篤信者ニシテ本會ノ目的ヲ翼賛スルモノ

名譽會員、高僧名士ニシテ本會ノ特ニ推薦シタルモノ

第五條　本會々員タラントスルモノハ會員二名以上ノ紹介ニ依リ理事會ノ承認ヲ要ス

第六條　本會ニ左ノ役員及職員ヲ置ク

一、總　裁　一　名

一、會　長　一　名

一、理　事　八　名（內二名ヲ常任理事トス）

一、評議員　若干名

一、顧　問　若干名

一、主　幹　一　名

一、幹　事　三　名（內一名ヲ常任幹事トス）

一、書　記　若干名

第七條　總裁ハ成田山貫主ヲ推戴ス、會長理事ハ評議員中ヨリ互選ス

評議員及顧問ハ總裁之ヲ依囑ス主幹及幹事ハ總裁之ヲ任命ス

第八條　會長及理事ノ任期ハ二ケ年トス

第九條　總裁ハ本會ヲ統率シ會長ハ會務一切ノ處理ニ任ス理事ハ會長ヲ補佐シテ會務ヲ分掌ス。評議員顧問ハ總裁ノ諮問ニ應ス。主幹及幹事ハ總裁及會長ノ命ニ依リ事業ヲ遂行ス

第十條　本會ハ毎年一回通常總會ヲ開ク

但シ必要ノ場合ハ臨時總會ヲ開クコトアルヘシ　通常總會ニ於テハ庶務會計ノ報告ヲナスモノトス

第十一條　本會ノ經費ハ寄附金ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條　本會々員ニシテ本會ノ体面ヲ汚損シ又ハ本會ノ目的ニ違背シタル行爲アリタル時ハ理事會ノ決議ニ依リ除名スルコトアルヘシ

第十三條　本會々則ノ改正ハ評議員會ノ決議ヲ經ルヲ要ス

第十四條　本會ハ會員二十名以上ニ達シタル地方ニ支部ヲ置ク支部規則ハ本會々則ニ準シテ各支部毎ニ之ヲ定メ支部長及支部幹事ヲシテ支部ノ會務ヲ處理セシム　支部長ノ任免ハ總裁コレヲ行フ

第十五條　支部長ノ職務權限ハ本會評議員ニ準スヘキモノトス

第十六條　年一回以上總裁ノ名ニ於テ全國各支部ノ支部長會議ヲ招集ス　但シ必要ニ應シ地方別ニ召集スルコトアルヘシ

第十七條　本會ノ本部ヲ千葉縣成田町成田山公園內新更會館內ニ置ク

役員及職員

總　裁　成田山貫首　荒木照定

會　長　宮崎廣

理　事（○印常任理事）

石川甚兵衛　○小野寺弘　高津親義

山內平治郎　古矢大助　淺井照次

諸岡勝太郎　關川藤右衛門

評議員

石川甚兵衛　岩館熊太郎　萩原村次

大友惟誠　大塚篤三　大野市太郎

大木儀兵衛　小野寺弘　高川直三郎

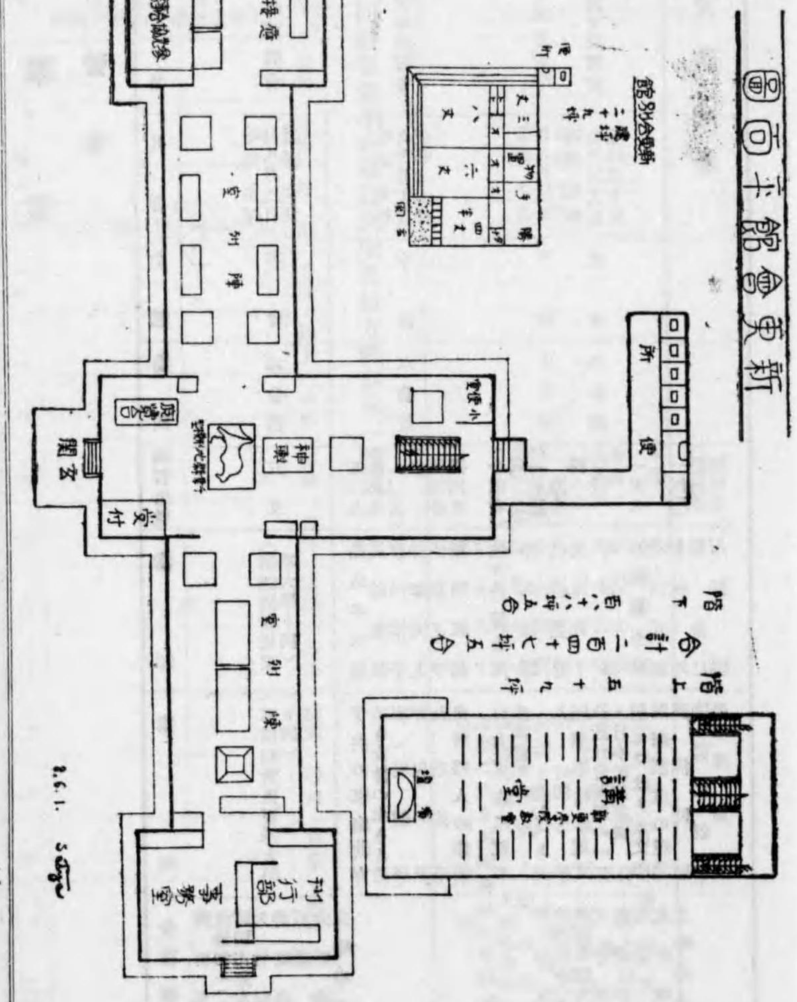
高津親義　山內平治郎　松田晟

增田榮　古矢大助　小泉榮助

小林治兵衛　小島照本　青木倉吉

淺井照次　淺井儀助

秋山照英　佐藤國二　木内民雄
木内喜右衛門　三橋金太郎　宮田半左衛門
宮崎　廣　平山清助　諸岡勝太郎
關川藤右衛門
顧問　高井觀海　兒玉九十
主幹　澤田五郎
幹事（○印常任幹事）
大竹照眞　渡邊和一　○神崎照惠
諸岡市郎左衛門
書記
石橋　廣　大野政治　立崎幸治郎
給仕
海瀨三郎



事業

一、講習會

會名	月日	主催	場所	講習生數	講師	講座	合宿訓練
第七回青年講習會	昭和七年自八月三日至同七日	本會	本會館	五五	（第四回新更夏季大學ト同）	（第四回新更夏季大學ト同）子供の家庭教育 若き女性の生きる道 家庭の經濟 育兒の話 農村蔬菜人の栽培 自力更生に就て 生産青年の進むべき道 人際事情に就て 最近社會問題の一二 國際問題と日本民族意識 劍光に映える文學 選擧制度の理論 滿洲問題 佛教に現れたる人格修養の方法 社會機構と國民精神 兵器を中心とせる國防問題 公民教育の新目標 女子青年團の思想 日本精神と智の世界 理の世界	澤田五郎 渡邊和一（主任） 諸岡市郎 竹左衛門 大照眞惠 石橋廣治 神崎照 大野政 立崎幸治郎
第二回女子青年講習會	昭和七年自十二月六日至同二十日	本會	本會館	五〇九（延人員）（但一、二六聽講券提出者）	高島平三郎 神田覺昇 鹽澤伊平 詫摩武人 伊藤正	佐々井信太郎 多久三雄 高兒玉九十郎 增田榮 石川富士雄 澤田五郎 今村均 林倚健 永野	澤田五郎 渡邊和一（主任） 諸岡市郎 竹左衛門 大照眞惠 石橋廣治 神崎照 大野政 立崎幸治郎
第八回成人教育講習會	昭和八年自二月二六日至同三十日	本會	本會館	延人員一五六（合宿者）（一般聽講生）四一	澤田五郎 渡邊和一（主任） 諸岡市郎 竹左衛門 大照眞惠 石橋廣治 神崎照 大野政 立崎幸治郎		

二、夏季大學

| 第四回新更夏季大學 | 昭和七年自八月三日至同七日 | 本會 | 本會館 | 二三一（延人員）（聽講券提出數ニ依ル） | 高橋順次郎 紀平正美 山本壽一 下村信郎 大島正德 伊東政喜 加藤咄堂 高井觀海 兒玉九十郎 澤田五郎 | 理の世界と智の世界 日本精神と思想の就て 女子青年團の新目標 公民教育に就て 兵器を中心とせる國防問題 社會機構と國民精神 佛教に現れたる人格修養の方法 滿洲に於る列國關係の史的考察 農村問題 | |

第四回新更夏季大學聽講生各地方職業別一覽表

八月三日	教員	學生	青年團員	農業	商業	軍人	僧侶	事務員	公吏	無職	計
東葛	二									一	三
千葉	一	二								二	五
印旛	九	六		四	一	四	一	六	二	三	一五四
香取	八			七							一五
海上	一										一
山武	一			四		一					七
匝瑳	三										三
君津				二						一	三
茨城	三	一		四							八
埼玉	二										二
横濱	二										二
靜岡	一										一
東京	三										三
長野	一										一
計	八九	一七	五	六〇	一	四	一	五	六	三	二〇八

八月四日

職業／地方	教員	學生	訓生	青年團員	農業	商人	軍人	僧侶	事務員	公吏	無職	計
東葛		四									一	五
千葉										二	一	五
印旛	九	三	二	二	五	九	二	四	一	六	六	二三八
香取		七										一四
海上		一										一
山武	一							四	一			七
匝瑳												二
君津								二			一	三
茨城	三	一						四				八
埼玉		二							一			三
横濱		二							一			三
靜岡		一										一
東京		三										三
長野		一										一
計	一三	二〇五	二	二	一四	六	一	二二	一	一	一	二三八

八月五日

職業／地方	教員	學生	訓生	青年團員	農業	商人	軍人	僧侶	事務員	公吏	無職	計
東葛		三									一	四
千葉												
印旛	五	五〇	二	五	一	三	六		二	七	三	一四八
香取		六					七					一三
海上		一										一
山武		一					四				一	六
匝瑳												
君津							二				一	三
茨城	二	一					四					七
埼玉		二							一			三
横濱		二							一			三
靜岡		一										一
東京		三										三
長野		一										一
計	六	一五三	二五	一	七	一	三八	四	一	七	一	一九三

八月六日

職業／地方	教員	學生	訓生	青年團員	農業	商人	軍人	僧侶	事務員	公吏	無職	計
東葛		四									一	五
千葉		一										一
印旛	二	五	六	五	二	一	四		二	七	三	二六二
香取		六					七					一三
海上		一										一
山武		一					一			一		三
匝瑳											一	一
君津							二			一		三
茨城	三	一					五					九
埼玉		二								一		三
横濱		二										二
靜岡		一										一
東京		三										三
長野		一										一
計	四	一六	一五五	一五	四八	一	五		一	七	一	二三八

八月七日

職業／地方	教員	學生	訓生	青年團員	農業	商人	軍人	僧侶	事務員	公吏	無職	計
東葛		三									一	四
千葉		一										一
印旛	五	一	五	二	四	三	一		七	四	二	一三四
香取		四					七					一一
海上		一										一
山武		一					一			一		三
匝瑳		三										三
君津							二			一		三
茨城	四	一			四							九
埼玉		二										二
横濱		二										二
靜岡		一										一
東京		三										三
長野		一										一
計	一	一六七	一五六	一	五四八	一	一		一	二三	一	一七八

三、研究會

會名	月日	主催場所	參加者	課題
俳句會	毎月二十五日	本會會館	二〇(平均)	作句講評
短歌會	毎月第一日曜	本會本會館	二〇(平均)	作歌講評

四、行事

名稱	月日	主催	場所	參加者
建國祭	二月十一日	新更學院	新更會館	五〇
國際聯盟離脱ニ關スル詔書奉讀式	三月二十八日	新更會	仝	一〇〇

五、講演會

會名	月日	主催場所	聽衆	講師	題
支部出張講演會	昭和七年四月十日	本會	七〇	廣岡城泉	フアッショに就て
仝	四月十七日	豊住支部	一〇〇	澤田五郎	農村振興
仝	四月十七日	遠山支部	一〇〇	佐藤國二	青年の自覺
仝	四月二十九日	横芝支部	七〇	澤田五郎	農村生活の完成
仝	四月二十四日	本大須賀支部	一〇〇	高井親海	昭和青年の使命
仝	五月一日	八生支部	七〇	佐藤國二	農村青年の覺悟
仝	五月七日	八街實住小學校	一五〇	澤田五郎	子供の教育
仝	七月九日	八生支部	二〇〇	高島平三郎	農村更生
仝	八月十五日	久住第一支部	五〇	兒玉九十	滿洲問題
仝	八月二十五日	中郷支部	四〇	佐藤國二	青年の修養
仝	八月二十五日	山武郡大平支部	一〇〇	兒玉九十	滿洲問題
仝	八月二十四日	千葉郡白井小學校	三〇〇	兒玉九十	滿洲問題
仝	九月二十九日	君津郡飯野支部	二五〇	高井觀海	精神力
仝	九月四日	山武郡松尾支部	四〇	澤田五郎	農村の自力更生
仝	九月十日	千代田支部	五〇	兒玉九十	現下の狀勢と青年の覺悟
仝	十一月二十三日	豊住支部	一〇〇	川名照通	俳句の入門
仝	十一月二十五日	八街支部	三五〇	佐藤清勝	滿洲問題
仝	十二月四日	豊住支部	八〇	澤田五郎	自力更生
仝	十二月十八日	中郷支部	四〇	澤田五郎	自力更生
仝	十二月十日	阿波支部	五〇	澤田五郎	自力更生
仝	十二月十一日	八生支部	三〇	澤田五郎	自力更生
仝	昭和八年一月十四日	千代田支部	五〇	永野健	自力更生の一考察

仝	一月十五日	同	川上支部	五〇	兒玉九十
登山大護摩修行及講演會	一月二十六日	中郷支部	本會館	三二	大竹照眞 神崎照惠
仝	一月二十九日	遠山支部	同	一五〇	廣岡城泉 神崎照惠
支部出張講演會	一月二十九日	本會	山武郡松尾支部	一〇〇	大友惟誠
仝	二月五日	同	久住第二支部	一〇	川名照通
仝	二月五日	同	富里支部	二五〇	佐藤清勝
仝	二月九日	同	八街支部	一〇〇	塩田節子
仝	二月十九日	同	茨城縣浮島支部	一〇〇	大友惟誠
仝	二月十九日	同	二川支部	一〇〇	兒玉九十
仝	三月十九日	同	八街支部	五〇	河野八郎
仝	三月五日	同	横芝支部	一〇〇	澤田五郎
仝	三月十一日	同	安食支部	一〇〇	澤田五郎
仝	三月十一日	同	本大須賀支部	二〇〇	谷田繁太郎

農村青年の自覺
不動明王に就て信仰の力
青年の修養
業生本具の相
青年の修養
佛教法話
滿洲問題と國民の覺悟
生活改善
青年の修養
青年の使命
產業組合に就て
農村更生論
農村更生論
時局と國民の覺悟

六、新更學院學則

第一章 總則

第一條 本學院ハ新更會ノ趣旨ニ基キ短期間ニ中等程度ノ諸學科ヲ敎授シ兼テ日本臣民トシテノ德性ヲ涵養スルヲ以テ目的トス

第二條 本學院ハ修業年限ヲ一ケ年トス

第三條 一年ヲ三學期ニ分ツ

第一學期 四月十日ヨリ七月卅一日マデ
第二學期 九月一日ヨリ十二月廿五日マデ
第三學期 一月十日ヨリ三月二十日マデ

第二章學科課程、授業時間及休日

第四條 學科課程及授業時數左ノ如シ

一學年 學科	時數	
修身	一	中學一、二、三、四、五學年ノ課程
佛敎	一	佛敎講讀
國語	三	中學一、二、三、四、五學年ノ課程
漢文	三	中學一、二、三、四、五學年ノ課程
英語	四	中學一、二、三、四、五學年ノ課程
數學	二	代數、幾何
歷史	二	日本歷史外國歷史
地理	二	日本地理外國地理

第五條 休日ハ左ノ如シ
大祭祝日 日曜日
春期休業 四月一日ヨリ五月十日ニ至ル
夏季休業 八月一日ヨリ九月一日ニ至ル
冬期休業 十二月二十一日ヨリ二月十日ニ至ル

第三章 入學、退學、授業料、罰則

第六條 本學院ニ入學シ得ベキ者ハ滿十四才以上ノモノトス
第七條 入學志願者ハ規定ノ入學願書ニ履歷書及戶籍抄本ヲ添ヘテ差出スベシ
第八條 入學許可ヲ得タル者ハ在學證書ヲ差出スベシ
保證人ハ父兄、親戚ノ一家計ヲ立ツル者又ハ身許引受人ニ限リ當該生徒在學中ニ係ル一切ノ事項ニツキ其責ニ任ズベキモノトス
第九條 退學セント欲スル者ハ保證人連署ヲ以テ出願スベシ
第十條 授業料ハ毎月一圓トス 但シ八月ハ授業料ヲ徵收セズ
第十一條 左ノ各項ノ一ニ該當スルモノハ除籍ス
一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
二、引續キ一ケ年以上缺席シタル者
三、正當ノ理由ナク引續キ一ケ月以上缺席シタル者
四、出席常ナラザル者
第十二條 生徒ニシテ規則命令ニ違反シ學院內ノ風紀ヲ害シ又ハ生徒ノ本分ニ背キタル者ハ其ノ輕重ニヨリ左ノ懲戒ヲ

加フ

謹責、謹慎、停學、退學、

第四章　試驗、卒業

第十三條　試驗評點ハ凡テ一科目一百點ヲ以テ滿點トス

第十四條　平均點六十點以上ヲ得タル者ヲ合格トシ修了證書ヲ授與ス

第十五條　一學年ヲ通ジテ合格シタル者ヲ卒業トシ卒業證書ヲ授與ス

新更學院職員

院長　荒木照定

主幹兼講師　澤田五郎

常任幹事兼講師　神崎照惠

常任幹事兼講師　大竹照眞

幹事兼講師　渡邊和一

幹事兼講師　諸岡市郎左衛門

講師　石橋廣

講師　大野政治

講師　立崎幸治郎

授業科目　講師

修身　澤田五郎

佛教　神崎照惠

國語　大野政治

漢文　石橋廣

英語、數學　大竹照眞

歷史　立崎幸治郎

地理　寺内保

農業　渡邊和一

商業　諸岡市郎左衛門

新更學院第二回卒業生

成田町鄉部　奥村銀正

中鄉村下金山　加藤勳

成田町鄉部　片山茂

公津村下方　齋藤貢

八生村下福田　遠藤秀雄

成田町成田　加藤榮三

仝　鄉部　大木勇作

仝　幸町　杉井雅也

仝　土屋　海瀨三郎

仝　幸町　小林良吉

仝　上町　牧野東吾

公津村江辨須　青柳吉郎

遠山村日吉倉　安原健祐

酒々井町上岩橋　木村源

公津村下方　稻岡正一郎

中鄉村新妻　正木安雄

酒々井町柏木　相京正明

八生村下福田　遠藤清

仝　仝　遠藤春夫

再修者

富里村七榮　藤崎信一

成田町奥山　坂上倉之助

昭和八年度入學者

成田町　石井五一

仝　牧野幸一

仝　石原勝雄

仝　島田正巳

仝　高橋光夫

仝　中尾源藏

仝　大木慶雄

酒々井町　仝　芳澤正

仝　横山一郎

仝　宮内正儀

仝　綿貫實

仝　角倉留吉

仝　吉岡春吉

仝　福田忠夫

仝　青木烝

八生村　小川寛

仝　遠藤岱男

仝　飯田孝八

仝　神谷信

仝　小倉末男

公津村　泉田蓮藏

仝　綿貫善基

仝　出山勳

仝　出山國治

仝　泉水重治

富里村　川島洋

仝　鳴田芳郎

仝　小川茂信

仝　藤崎良一

中鄉村　小川義隆

仝　小川幸平

仝　小川精一

仝　加藤功

木下町　加藤

神崎町　高柳

七、展覽會

會名	月日	主催	場所	觀覽者	出品點數
新更洋画展覽會	四月二十七日ヨリ五月末日マデ	本會	本會館	二一、〇四七	二〇点

八、音樂會及童話會

會名	月日	主催場所	出演者	觀覽者
花祭大會	四月八日	本會	成田幼稚園	幼稚園兒童 小學校生徒 女學校 （木琴家）小森宗太郎氏 （童話）長岡慶信氏	三〇〇

九、出版物

書名	著者名	發行所	發行日	發行部數	種目
月刊新更	新更會編纂	新更會刊行部	毎月十日	四〇、〇〇〇	雜誌
光彼	同	同	一月一日	三六、〇〇〇	パンフレット

十、巡回文庫運用

貸出支部名	貸出文庫號數	貸出日	返納日	閲覧人員	閲覧圖書冊數	内容
富里支部	第三號巡回文庫	昭和七年八月二十五日	昭和七年九月三十日	一二〇	一二〇	
〃	第一號〃	十月二日	十一月十日	四二	四二	
〃	第七號〃	十二月五日	十二月二十五日	六四	六四	
〃	第二號〃	昭和八年三月五日	四月二十五日			

遠山支部	第一號〃	昭和七年九月一日	九月三十日	六〇	六〇	
〃	第二號〃	十一月二十五日	十二月二十五日	三四	三四	
中郷支部	第二號〃	八月二十七日	十月十五日	六四	六四	
〃	第三號〃	十一月二十日	十二月二十五日	七一	七一	
川上支部	第四號〃	九月十日	十月十日	三六	三六	
〃	第六號〃	昭和八年三月二十日	四月三十日			
八街支部	第四號〃	昭和七年十月十日	十一月二十日	四四	四四	
〃	第六號〃	昭和八年一月十九日	昭和八年三月十九日			
〃	第三號〃	昭和八年四月十六日	昭和八年五月三十一日			
豊住支部	第三號〃	昭和七年十月五日	昭和七年十一月五日	六二	六二	
〃	第六號〃	十一月三日	十二月三日	六〇	六〇	
〃	第四號〃	十二月四日	昭和八年一月四日	六八	六八	
〃	第二號〃	昭和八年一月四日	二月二十二日	四八	四八	
久住第一支部	第二號〃	昭和七年十月二十二日	昭和七年十一月二十二日	五〇	五〇	
大須賀支部	第一號〃	十一月二十四日	十二月二十五日			
〃	〃	十二月二十五日	昭和八年一月二十五日			
阿波支部	〃	昭和八年一月二十九日	三月二十日			
久住第二支部	第四號〃	一月二十九日	二月二十八日	二二	二二	

青年ノ修養及一般知識ノ修得ニ適セルモノ

十一、會議

會名	月日	主催	場所	參加者數	課題
理事會四回		本會	本會館		
第三回支部長會議	昭和七年十一月十三日	本會	本會館	二八	一、本部と支部の共同に依り從來行はれつゝある講演會の實績を上ぐる法策如何 二、支部に於て行ふべき適當なる事業に關する件 三、現下の更生運動に關し支部のさるべき態度及緊急行ふべき事項等に關する件
第一回幹部研究會	昭和七年八月九日	本會	本會館		

會員分布現在數（昭和八年三月末日 但シ支部ヲ除ク）

會員所在地	會員數 合計	會員數 男子	會員數 女子
印旛郡旭村	三〇	二六	四
同 阿蘇村	一〇	一〇	
同 白井村	六	六	
同 內郷村	三	三	
同 永治村	五七	五七	
同 大森町	五	五	
同 木下町	一	一	
同 公津村	九	八	一
同 佐倉町	七	五	二
同 酒々井町	一九	一八	一
同 布鎌村	三八	二七	一一

會員所在地	會員數 合計	會員數 男子	會員數 女子
印旛郡宗像村	一	一	
同 和田村	三三	三一	二
同 六合村	二	二	二
東葛飾郡風早村	三	三	
同 土村	二	二	
同 手賀村	一	一	
千葉郡白井村	一〇	一〇	
仝 犢橋村	一	一	
仝 都賀村	一	一	
千葉市	二	一	一
市原郡姉崎町	四	四	

會員所在地	會員數 合計	會員數 男子	會員數 女兒
香取郡香西村	一	一	
仝 栗源村	三	三	
仝 古城村	一	一	
仝 高岡村	三	三	
仝 多古町	三	二	一
仝 小御門村	二〇	二〇	
同 滑川町	二	二	
山武郡日吉村	一	一	
同 大富村	六	六	
同 大和村	一	一	
同 片貝町	一	一	

會員所在地	會員數 合計	會員數 男子	會員數 女子
同 土氣本郷町	一九	一七	二
同 千代田村	二	二	
匝瑳郡共和村	二〇	二〇	
同 南條村	三七	三七	
同 野田村	四二	三八	四
海上郡旭町	二	二	
同 椎柴村	二	二	
同 富浦村	一	一	
長生郡水上村	五	五	
君津郡金田村	一	一	
同 清川村	一	一	
同 天神山村	一五	一五	
夷隅郡老川村	五	五	

會員所在地	會員數 合計	會員數 男子	會員數 女子
安房郡九重村	二	二	
同 平群村	三	三	
同 保田町	四	四	
同 丸村	四	三	一
同 南三原村	三	三	
同 北三原村	一	一	
同 八東村	一	一	
茨城縣稻數郡金江津村	六	六	
同 奥野村	一	一	
同 長竿村	二	二	
同 根本村	四〇	三八	二
同 生板村	一		一
東京府立川町	一	一	

會員所在地	會員數 合計	會員數 男子	會員數 女子
和歌山縣和歌山市	一	一	
廣島縣芦品郡福相村	一一	七	四
臺灣臺中市	一	一	
印旛郡	二二一	一九八	二三
他郡	二三六	二二七	九
茨城縣	五〇	四七	三
其他	一四	一〇	四
合計	五二一	四八二	三九
支部員數	二•八五六	二•三二六	五三〇
會員支部員總計	三•三七七		
外ニ特別會員	二一五		
計	三•五九二		

支部分布現在數（昭和八年三月末日現在）

支部所在地	支部長氏名	支部員數 合計	支部員數 男子	支部員數 女子	設立年度
印旛郡豐住村北羽鳥	野平吉衞	一四四	七九	六五	昭和五年度
同 久住村大室	山倉利雄	五六			同
同 飯岡	川口朋治	五八	四三	一五	同
同 中郷村赤荻	寺內・靜	六三	六〇	三	同
同 彌富村飯塚	島田一郎	五二	四九	三	同
同 船穗村戸神	伊藤忠雄	一七			同
同 根郷村太田	宮野龍作	九八	六五	三三	同
茨城縣稻數郡大須賀村福田	飯塚清一	三五			同
千葉郡更科村谷當	高橋甲	一四三	一〇六	三七	同
茨城縣稻數郡阿波村四ヶ	木內俊一	三二			昭和六年度
印旛郡富里村七榮	清水毅一	二一六	一九一	二五	同
同 八街町沖小間子	鈴木市作	一四一	九二	四九	同
同 安食町安食	小川團夾	三四	二四	一〇	同
同 遠山村法華塚	神崎俊之助（代理）	二四一	一四六	九五	同

露光量違いの為重複撮影

昭和六年度支部數	二十ヶ所	山武郡大平村本柏	川木内島喜右衛隆門郎雄助雄平仁雄雄明
會員數	二・二九七名	印旛郡成田町成田	牧野秀治三郎
昭和七年度支部增加數	五ヶ所	君津郡飯野村吉岡村砂崎町	葛山太泰義
右增加支部員數	四一九名	香取郡須賀村上戸	小堀井貫本生
同年度支部員增加數	一九八名	印旛郡大川村芝松八田	大澤柳藤橋
同年度支部員退會數	五八名（結婚、死亡、轉居、等ノ理由ニヨリ）	茨城縣稻敷郡浮島村	小山武孝利恒
同年度支部數計	二十五ヶ所	山武郡八橫生	高伊
同年度支部員數計	二八五六名	印旛郡千松	一一一五八五
內男子	二三三六名	山武郡二代	一一一九〇八四
女子	五二〇名	印旛郡川田	八五六〇一五二九〇五二
		山武郡村物	一一六二八〇六五〇二
		印旛郡境	一一一五
			四三五〇〇三九七三
			二二一一五二四三九二
			三二一一三二二
			九〇五一三八二二三二
			同昭和八年度
			同昭和七年度
			同
			同
			同
			同
			同
			同
			同

昭和八年六月十五日印刷
昭和八年六月二十日發行

【非賣品】

發行所　成田山新勝寺

編輯兼發行人　淺井照次　千葉縣印旛郡成田町百九十三番地

印刷人　大友惟誠

印刷所　成田學園印刷部　千葉縣印旛郡成田町四〇二番地

露光量違いの為重複撮影

昭和六年度支部數	二十ケ所		
會員數	二・二九七名		
昭和七年度支部增加數	五ケ所		
右增加支部員數	四一九名		
同 年度支部員增加數	一九八名		
同 年度支部員退會數	五八名（結婚、死亡、轉居、等ノ理由ニヨリ）		
同 年度支部數計	二十五ケ所		
同 年度支部員數計	二八五六名		
内 男子	二三三六名		
女子	五二〇名		

昭和七年度	昭和八年度
山印武郡大平村	川木牧葛山小堀大小高伊
嬬武郡津成田町	内野生本井澤柳橋藤
印君取郡本須賀村	島喜右衛門隆
山香嬬郡大川上村	内秀治太郎雄雄平仁助雄平雄明
印茨城縣稻敷郡浮島村	一一一一五
山印嬬武郡八横生村	八五六〇一五二九〇八五
嬬武郡千代田村	一二六二八〇六五〇二四
郡二川村	一一一五
郡松尾町松戸	四三五〇〇三九七七三
郡八田村上	二二一一五二四三九二
郡物井崎	三二一一一三二二
境	九〇五一三八二二三二

同	昭和七年度
同	昭和八年度
同	
同	
同	
同	
同	
同	

昭和八年六月十五日印刷
昭和八年六月二十日發行

【非賣品】

編輯兼發行人　淺井照次
千葉縣印旛郡成田町百九十三番地

印刷人　大友惟誠

印刷所　成田學園印刷部
千葉縣印旛郡成田町四〇二番地

發行所　成田山新勝寺

258.2
101

終